山形県立米沢女子短期大学所蔵の
新聞紙型資料について

On newspaper flongs collection of
Yamagata Prefectural Yonezawa Women's Junior College

亀ヶ谷 雅彦・畑田 秀将・北口 己津子

KAMEGAYA Masahiko, HATADA Hidemasa and KITAGUCHI Mitsuko

山形県立米沢女子短期大学

『生活文化研究所報告』

第48号　抜刷

2021年３月

山形県立米沢女子短期大学所蔵の新聞紙型資料について

On newspaper flongs collection of Yamagata Prefectural Yonezawa Women's Junior College

亀ヶ谷 雅彦・畑田 秀将・北口 己津子
KAMEGAYA Masahiko, HATADA Hidemasa and KITAGUCHI Mitsuko

要約

本論文では、山形県立米沢女子短期大学の附属図書館所蔵の新聞紙型の資料調査を行い、その特徴を明らかにするとともに、使用済み紙型や紙型用紙の色についても考察した。その結果、①保存状態のよい新聞紙型が大量に残っていること、②使用済み紙型なので、裏貼りや裏面への書き込み、鉛版鋳造後の紙型表面の色の変化などといった、紙型鉛版法の作業内容が分かること、③一般紙である山形新聞以外に学校新聞や社内報の紙型も含まれており、学校史や社史の史料としても貴重であること、といった点が特長として挙げられた。加えて、これらの紙型がいつ頃、どのようにして本学にやってきたのかという来歴がかなり明らかになっている点も資料的価値が高いと思われる。さらに、附属図書館所蔵の新聞原紙自体の目録作りの過程で、「米沢こども新聞」のように本学や地域とゆかりの深い新聞が残っていたことも明らかにすることができた。

キーワード：紙型、山形新聞、山形大学新聞、山形嚶鳴新聞、米沢こども新聞

1　はじめに

2018年の晩秋であっただろうか。山形県立米沢女子短期大学（以下、本学とする）の附属図書館でもある山形県公立大学法人附属図書館（以下、附属図書館とする）が所蔵する新聞原紙を処分するという話を耳にした。筆者が本学に赴任して以来、何回か出てきた話であった。しかし今回はなぜか気になって、図書館の事務室を訪れて仰天した。なんと回収業者の入札直前まで、話が進んでいたからである。

筆者は以前から、附属図書館の新聞原紙を綴じている表紙が、新聞の紙面をそのまま活字で圧写した、見たこともない厚紙であることを知っていた。そしてこれは「紙型（しけい）」というものだということや、紋切り型を意味する「ステレオタイプ」の語源となった鉛版を作るために使われるものであることも、調べて知っていた。

明らかに何か特別で意味がありそうなものなのに、なぜ簡単に捨ててしまうのだろうか。これは学術的研究に値するものなのではないか。事態は急を要すため、この「古新聞の研究をする」ことを即断し、翌月には共同研究者を集めて予備調査を始め、共同研究費を得た2019年度一杯をかけて、新聞紙型および新聞原紙の目録作りと写真撮影を行ったのである。

調べて始めてみると、印刷技術の進歩によって活版印刷の時代はとうに過ぎていて、紙型に関する文献も古いものが大半で、なかなか大変であった。なにしろ紙型そのものが、朝夕の新聞製作の際に毎日作られるありふれたもので、故紙として再利用されていたために、現存するものは意外にわずかでしかなかった。当時の製紙会社の人も新聞社の人も既に退職してしまい、事情を知っている人々の記憶も薄れてしまいつつあった。

そのような中で、かつての図書館書庫だった本学A号館１階の資料標本室にうず高く積まれて並んでいた新聞の山は、まるでタイムカプセルか宝の山のようであった。

後述するように、紙型鉛版法は、活字の組版から直接印刷せずに、これと同一版面を複製する複製法の一つであり、この方法は紙型取りと鉛版製作の二つの工程に分れている。紙型法は、紙型原紙に若干加水し可塑性をもたせたものを、組版上に乗せその上にクッション材を置き、ローリングマシンか平圧機で加圧し雌型を作り乾燥成型する方法である。一方、鉛版法は、乾燥成形された紙型を鋳造機に取り付けて、鉛、錫、アンチモンの溶解した鉛合金（地金）を流し込み、所定寸法に仕上げ、冷却して輪転機用の鉛版を作る方法である（「鉛版工の汗」刊行委員会　2000）。

この紙型鉛版法で使われるものが紙型用紙である。その製造方法はミツマタ、ボロ、木材からの化学パルプ等を原料とし、これらを配合してビーターで叩解し、サイズ剤および填料を加えて丸網抄紙機で抄く。途中の丸網上に円筒を置いて、抄き出された紙を捲きつけ、所定層数になれば切り開いて平板状にして、次の乾燥部、光沢部を通過させれば紙型原紙の本体が出来上る。これを所定寸法に断裁して次の塗装工程に送る。サイズ剤は、ロジン、明バン、糊、色素などを調合して作る。加温の時給水が早ければ不平均となり易く紙が弱くなり、反対に吸水が少なくても困るので、サイズの量を加減して調節する。填料として粘土またはタルク類を加えている。これは紙型用紙に型取りに都合のよい性質すなわち塑造性を与えるが、反面紙型をもろくし、吸湿性にも影響をおよぼす。この外、原紙に耐熱性、可塑性、平滑性など紙型用紙として必要な性質を増すために表面塗装（Coating）を施す。塗装剤はメーカーにより差があるが大体、クレー、タルク、臘石鹸を用いる（志田（編）1953）。

そして、１枚の紙型に300℃の溶融鉛合金が1分間に4回ずつ、計30回以上鋳込まれ、しかも、印刷面の鮮明さを失ってはならないという、まさに紙の常識をはるかに上回った性能が要求される紙型は、「紙の中で最も難しい紙」といわれるのである（田中　1988）。

本論文ではまず、この紙型鉛版法や紙型用紙、日本の紙型メーカーについて文献をまとめて概観した後、本学の附属図書館が所蔵する新聞紙型の調査結果と、本学に紙型がやって来た来歴をまとめ、当時の附属図書館や山形新聞社の状況に触れたのち、最後に紙型や新聞原紙資料の保存と活用に向けた取り組みの必要性に言及する。また調査した紙型目録も資料として巻末に添付した。

なお、本研究は平成31年度山形県立米沢女子短期大学生活文化研究所共同研究「地方大学図書館における新聞資料の保存と活用に関する実践研究」の研究成果としてまとめられたものである。

2　紙型鉛版法について

2. 1　紙型鉛版法とその利益

活字組版をそのまま印刷版に使用することを「原版刷」と呼び、印刷部数の少ない時で、上物の場合は、最良の印刷効果をもたらすものであるが、原版そのままでは5000～6000枚の印刷で版面が摩耗してしまうから、それより通し数の多い印刷には耐えられない（小堀他　1962）。

また、発行部数が増加し、所定の時間内に印刷をするために印刷機を増やすと、同じ版がその分必要になる。そこで考えられたのが組版からの複製方式だった。18世紀前半から母型として石膏型が試みられたが実用性に乏しかった。しかし、これにヒントを得たフランスのジュノーが1829年に紙製の母型、すなわち紙型に鉛合金を鋳込んで複製版を得る紙型鉛版法を完成した。1854年には米国のクラスケが紙型を湾曲させ、ニューヨーク・ヘラルド紙のために初めて輪転機用の半円筒状の丸鉛版を作った（深田　2015）。

紙型鉛版法は、英語ではstereotypingという一語でこの技術を包括しているが、事実上この方法は紙型取りと鉛版製作の二工程に分かれているので、わが国ではこう呼んでいる。凸版式複版法の特徴として、まず原版から１枚の雌型を作り、これを元にして多くの雄型すなわち印刷版を作っている。紙型・鉛版法では雌型として若干加水して可塑性をもった紙型原紙（matrix または flong）を用い、これを乾燥成型して鋳造機に入れ、鉛合金を注入し、所定寸法に仕上げ、冷却して印刷用の鉛版を作るのである（飯坂・武捨 1966）。

小堀他（1962）によれば、鉛版の利益はほぼ次の七種類がある。

①多数の印刷を同時にやりたい場合には、鉛版を何枚も鋳込んでふやすことによって目的を達することができる
②鉛版面にきずをつけたり、または印刷中に版面が磨滅した場合でも、鋳込替えて版を更新することができる
③再版の場合、いつでも必要なだけ鉛版を鋳造することができる
④版の組付けは、原版に比較して簡単であり、鉛版の方が活版の原版よりも軽いから印刷機械のスピードも上昇できるし、機械の耐用年数もやや延長できる。鉛版の輸送もきわめて簡単にできる
⑤版の部分的な訂正は「象がん法」により訂正できる
⑥印刷部数が多い場合には、鉛版面に鉄、ニッケル、クロームなどを鍍金して表面処理することにより印刷通し可能数は大きく増大する
⑦輪転機用の丸鉛版をつくることができる

2. 2　紙型用紙（紙型原紙）

紙型原紙は、(a) 湿式紙型（wet matrix 略してウェットマット wet mat）と、(b) 乾式紙型（dry matrix 略してドライマット dry mat）の2種類がある（飯坂・武捨1966）。附属図書館に所蔵されている紙型は、すべて乾式紙型である。

以下、飯坂・武捨（1966）の記述に基づいて、湿式紙型と乾式紙型についてまとめる。

2. 2. 1　湿式紙型

湿式紙型は乾式紙型以前の手工的な方法で、地柾紙と称する吸取紙のような和紙に糊をつけて3枚ほど重ねて貼り合わせ、次に、薄くて丈夫な雁皮紙という和紙をその上に1枚貼り、さらにもう１枚雁皮を糊をうすくして一番上に重ねて紙型原紙を作る。普通は「うどん粉」や「しょうふ」を糊にしたものが多く使われる。一番上の雁皮には亜鉛華、卵白、少々の滑石を乳鉢でよく混合し、雁皮の上に刷毛でていねいに塗り、さらに８割位乾いたところへ別の刷毛で滑石粉をはいて、表面塗装（Coating）する。元来表面塗装はドライマットにも共通したもので、紙型取り、鉛版鋳込み、できた鉛版の表面の良否を左右する紙型としての重要な部分である。

型を取るにはまず組版（活字、写真版、線画凸版などを組み合わせたもの）をチェースと称する鉄枠にはめてしっかりと締め、ガソリンで清潔にする。これに紙型を重ね、雁皮を下にして刷毛で打ち込みながら型を取る。叩くときには少ししめらせた布をかけて叩く。この刷毛打ちがコツで、同じように叩くと罫の部分はよく入り、ベタの部分は入らないので、活字の部分、写真の部分、ベタの部分、罫の部分は叩く程度を変える。叩くのは１人が一番良いが忙しい時は２人で行う場合もある。

叩き終わった紙型はそのままにして、上から糊を塗り、凹んだところに細く切ったボール紙を貼り、その上にさらに雁皮紙を貼る。ボール紙を貼る代わりに陶土の粉のようなものをうめてやる方法もある。

組版と紙型は型取りしたままの状態で平圧機（コッピ―という）に入れ、上から手で締め（ジャッキ式に締めるので相当強くしまる）、下から熱を加えて150℃前後で5分位で乾燥する。この時、紙型の直ぐ上にネルを1枚置き、その上に地柾を30~40枚重ねたクッションを載せる。

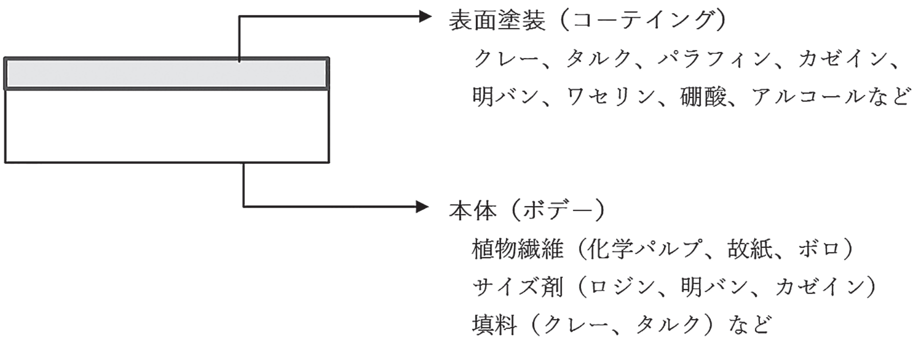
2. 2. 2　乾式紙型

乾式紙型は図１のように２層から成っている。ボデーは、R.P、S.P [1] のような上等な化学パルプに硫酸紙、模造紙および使用ずみの故紙型を若干まぜ、さらにサイズ剤、填料を加え、ビーターにかけてよく叩解し（２～４時間）丸網抄紙機にかけて抄き、これを何枚か重ねて（15層位が普通で、一つの層のことをプラ

---

[1] R.Pは「レーヨン・パルプ」、S.Pは「亜硫酸パルプ」。パルプの略号については右田（1956）を参照。

イ ply と呼んでいる）乾燥、切断し、これに図１に示されている物質を塗装して乾燥し、カレンダーにかけて加圧、艶出しをして乾燥する。そのとき大切なことはボデーの材料と叩解である。材料の選択と叩解の程度で可塑性、収縮性、強さなどが違って来る。



（出典）　飯坂・武捨（1966）

図１　乾式紙型の構造

仕上げた紙型が持っている概ねのデータは以下のようである。

厚　さ：24/1000～32/1000インチ（0.61～0.81mm）
（新聞社では28/1000インチ（0.71mm）が標準の厚さになっている）
大きさ：584×455mm
重　さ：40～60匁（150 ～ 225g）

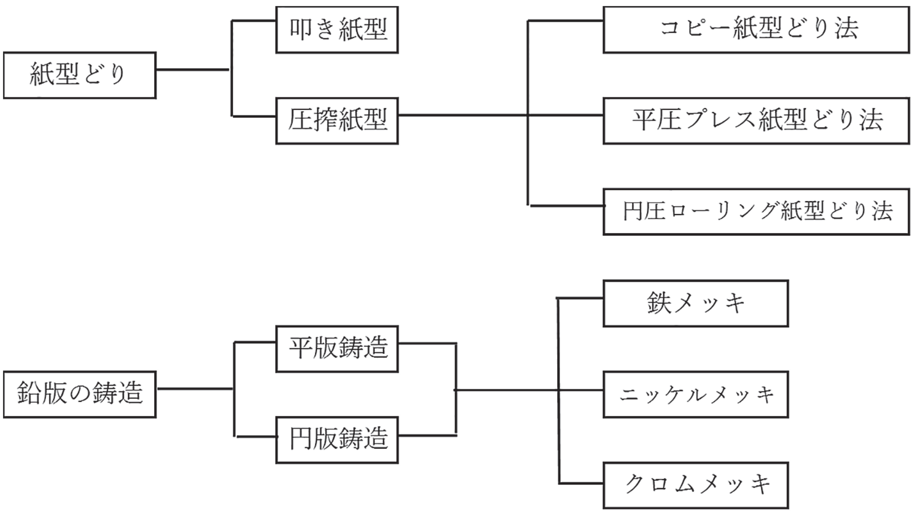
また、紙型として要求される条件は次のようである。

①ボデーの組成、ならびに表面加工は均一であること
②１枚の厚さは均一であること（偏差は1/1000インチ（0.03mm）以下とする）
③均一な吸湿性を有し、乾燥の早いこと
④所定の収縮率を有しムラのないこと
⑤適切な加圧により、原版を損傷することなく正確に複写する可塑性を有すること
⑥表面は平滑で剥離しないこと
⑦最高400℃の鋳造温度に耐えること
⑧一分間に４回以上繰り返される地金ならびに鋳造機の機械的衝撃に30回以上耐えること
⑨熱の伝導がよく、かつ均一である
⑩地金の入り、ならびにはがれがよく、ナメ[2]の少ないこと

2.３　紙型取りと鉛版鋳造

紙型取りと鉛版鋳造の方法をまとめると図2のようになる。以下、飯坂･武捨（1966）の記述に基づいて、乾式紙型の紙型取り（図３）と丸鉛版の鋳造の手順を概観する。

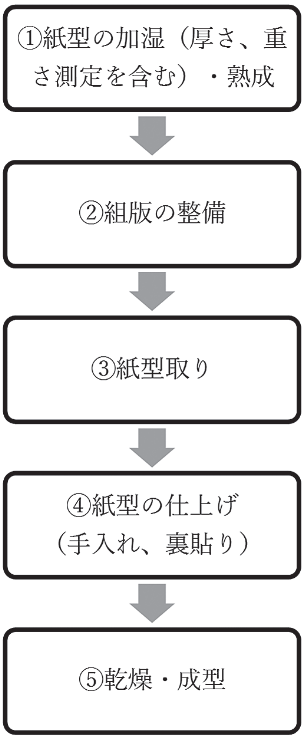
[2]「表１　紙型と鉛版の故障」を参照。



（出典）小堀他（1962）

図２　紙型取りと鉛版鋳造の方法

2. 3. 1　紙型の加湿・熟成



（出典）飯坂・武捨（1966）

図３　紙型取りの順序

乾式紙型（ドライマット）といっても全然水分を与えないと可塑性が悪くてよい紙型が取れないので、何％かの水分をあらかじめ与えて、十分な可塑的性質を生ずるようにする。この前に使用する紙型についていちいち厚さ、重さを測定して選別しておく。大体同じ位の厚さのものだけグループに分けておかないと後で鉛版を鋳造する時、鋳造機の定規に合わないで不都合を生じる。重さの測定は塗水量をきめるのに必要である。

紙型に塗水する方法は、刷毛に水をつけて加湿する方法、紙型湿潤機（Moistenner）を用いる方法、スプレー（霧吹き）を用いる方法、加湿機（Humider）を用いる方法の4種類があるが、おもに紙型湿潤機とスプレー法が多く用いられている。湿潤機は真鍮とフエルトの二つのローラーの間に紙型を通し、水分は真鍮ローラーが細長いタンクの水に直接に浸り、これが廻転によってフエルトローラーに伝わり湿らすようになっている。塗水する場合は２枚の紙型を裏側を外にして重ね合わせ、２枚同時に塗水する。

スプレーは圧搾空気で水を粉霧状に吹き付ける方法で加湿量は最も正確である。加湿機はいったん水蒸気を作り、この中に紙型を入れておいて加湿する機械である。

塗水量は加圧方式によって異なる。いわゆるローリング法と呼ばれる、大きなまるい円筒で加圧して紙型取りする方法では最少の水分でよく、大体10％前後（７～12％）で多くて17～18％であるが、平圧式と称する紙型取り法では、30～45％位加湿する。塗水量は紙型取りにおける重要な仕事である。水分を多く与えると可塑性が出て十分良い紙型が取れるが、収縮が多く、乾燥時間が長くなり鉛版鋳造のとき紙型は弱くなりいろいろな故障が出てくる。反対に水分を少なくすると上の欠点はないが可塑性が悪くなり、このために圧を強くするので活字がつぶれ（このことをヘタリと呼んでいる）印刷が汚くなる。これらをよく考慮して適当な水分を加えねばならない。

加湿した紙型は十分可塑性が出るまで完全に密封した保存箱に貯蔵しておく。このことを熟成（シーズニング　seasoning）と呼ぶ。シーズニングの時間は必ずしも一定でなく、加湿後数時間でも十分紙型取りができるが一般に24時間位が適当といわれている。一週間置いても別に故障はない。

2. 3. 2　組版の整備

紙型取りする前に原型となる組版（Forme）を十分整備しておかねばならない。組版はチェース（chase）をかけ、この中に固く締め付ける。版の高さは受圧面積すなわち活字、写真、ベタ、罫などによって変化をつけておく。こうしないと平らな版ができない。このことを紙型取りのムラ取り（Underlay）と呼んでいる。これがすんだら、ならし木で表面をよく叩いてチェースを固く締め、紙型取りに廻す。

2. 3. 3　紙型取り

紙型取りにはローリング式と平圧式がある。ローリング式というのは、ローリングマシン（rolling machine）と称する機械にかけて紙型を圧搾する方法で、定盤の上にチェースをかけた組版を置き、その上に紙型、その次に紙型取りクッションとしてコルクブランケット（cork blanket）を置き、さらにその上に鋼鉄板かプラスチック板かまたはファイバーでできた加圧板（プレスボード press board）をおいて、定盤とローラーとの間を通す。紙型取りは30秒足らずですむ。このときの主なデータは以下のようである。

ローリングマシンのローラーの直径：20インチ（50.8㎝）
速度：１～２インチ/秒（2.54 ～ 5.08㎝/秒）
コルクブランケットの厚さ：250/1000インチ（6.35㎜）位
加圧力：約600kg/㎠

使用するコルクブランケットの性質が紙型取りの生命で、適度の弾性とこれに伴う抵抗力によって、原版の型が紙型に十分に型取りされる。使い始めのうちは弾性ばかりが強くて抵抗力が小さいので凹んだ谷の部はよく入るが字面はよく入らない。これをだんだん使っているとこのバランスがよくとれて良い紙取りができるが、あまり古くなると弾性が少くなって抵抗力が増して来るので字面はよく入るが谷が浅くて困るようになる。

このコルク板は国産ではまだ良いものがなくもっぱらアメリカからの輸入に頼っている。なお、ローリング式に対して、平らな圧をかけて圧搾する平圧式もあるが、新聞社では時間の都合上ほとんどローリング式である[3]。

2. 3. 4　紙型の仕上げ（手入れ、裏貼り）

ローリング式で紙型取りしたばかりのものはまだ、やわらかいので罫が出なかったり、谷が深過ぎたり、その他不備な点はここで手を入れることができる。次に谷の部をそのままにして鉛版を鋳造すると、表面から合金鋳入の圧力で押されてできた鉛版の谷が浅く印刷のとき汚れるので湿式紙型のときと同じように細いボール紙を切って貼る。これを裏貼り（packing）と呼んでいる。

このボール紙はラシャなどを入れた特殊な紙で若干の弾性を持たせてあり厚さは10/1000～20/1000インチ（0.25～0.51㎜）位のものを二、三種類作っておき、裏にアラビヤゴムの糊を塗布しておく。使用するとき水をつけながら貼って行く。この作業は乾燥前（ローリングの場合）にやるところと乾燥後にやるところとある。アメリカではこの作業をやらないですむような紙型を考案した。これをノーパックマット（nopack mat）という。

---

[3] この点に関して寺西他（1957）は、新聞社のように時間的に縛られている作業工程では、紙型取りをしている時間が長いこと、言い換えれば、組版を寝かす時間が長いということは致命的であり、また何枚も紙型を取るのに版が傷むという面でも、平圧式はあまり向かないと述べている。

2.3.5　乾燥・成型

平圧のものは乾燥して出て来るが、ローリングで取ったものは未乾燥であるからよく乾燥しなければならない。乾燥機（scorcher）は廻転式のものと真空式のものがある。丸鉛版用の紙型は完全に円筒にならなければならないので紙型を乾燥しながら成型（forming）するが廻転式は遠心力で、真空式は真空で吸いつけて成型しながら乾燥する。両者には一長一短があり特にどちらが良いとは言い難い。加熱温度は大体150～200℃位である。この温度で乾燥時間は3分内外である。このほかに高周波で乾燥する方法もある。

2.3.6　丸鉛版法（自動式鋳造機）

丸鉛版用鋳造機は、⑴手動式と⑵自動式に大別され、自動式は①半自動鋳造機（Junior auto plate）と②全自動鋳造機（Full auto plate）に分かれる。これに鋳込まれた丸鉛版を正しい厚さに仕上げる仕上機がそれぞれ付いている。

以下、自動式鋳造機についてのみ述べる。ジュニアオートプレートはボックスの開閉、ポンプのハンドルを手でやるほかは、全自動式であり、昨今は自動式を使用するところはほとんどフルオートプレート（略して単にオート・プレートと呼んでいる）を使用するところが多くなってきた。

オートプレートは完全な円筒をなすシリンダー（凸型）を中心に動く。まずボックス（凹型）に紙型と口金をはめ、定規をよくとめる（ボックスは小さい穴があって、紙型を真空で吸着するようになっている）。鋳込む前にシリンダーやボックスに水を通す。ピストン式で地金釜から地金を送り出すポンプは、流出量をネジで調節できるようになっているので、これを正しく調節し、始動のボタンを

故障の名	説明	原因	防ぎ方
吸水ムラ	紙型に水が平等に塗水されていないもの	①紙型の吸水性にムラのある場合 ②湿潤機のフェルトが悪い場合	①の場合はよく見て刷毛で補う ②フェルトをつけ直しロールの間隙を一定にする
版ムラ	印刷後刷面に表れるムラ	紙型取りのときの材料にムラがあった場合 紙型そのものにムラのある場合	紙型、紙型取材料、加圧機の圧の平均などをよく測定して直す
ゴマ	細かい字がつぶれて紙面が点々と黒くなる状態	①紙型の可塑性が悪い場合 ②コルクが悪い場合 ③版にインキがつまった場合	①塗水量と加圧を加減する ②コルクをよく調整する ③版をよく洗う
シャクレ	写真やツブシ面が乾燥後凹んで出ない状態	①紙型が部分的に伸びた場合 ②水および乾燥のムラ ③熱可塑性物質が多すぎる場合 ④写真や鉛版が活字より相当高い場合	①加圧を加減し伸びない亜鉛板を使う ②ムラをなるべく少くする ③乾燥のとき成型をよくしてボックスになじむようにする ④高さを適当に規正する
ケツ	鉛版の凹部が浅くインキがついて印刷面の白い部分が汚れること	①凸版の腐蝕が不十分の場合 ②鉛版のサライが不十分の場合 ③紙型の裏貼りが不十分な場合 ④加圧材が不適当な場合	いずれも完全にすればこの故障はなくなる
ヘコ	鉛版面に凹みができ印刷されない部分ができること	①他の裏貼りが剥がれてのっかった場合 ②鋳込みのとき紙型の裏に地金屑が落込んだ場合 ③地金温度が低く冷えが早い場合	①ボールをていねいに貼ること ②鋳造のとき注意する ③温度を適当に保つ
ナメ	紙型上に地金が完全に鋳造される前に冷却して成型されないこと	①紙型に水分が残っている場合 ②地金温度が低くまた、シリンダーが冷えすぎた場合 ③紙型のコーティングが悪い場合	紙型を完全に乾燥し、地金の温度を正しくする。いずれにしても、少し鋳込んでいると、良好な版が鋳込まれてくる
ス（巣）	鋳造のとき、鋳型中の逃げそこねた空気が地金の中に取囲まれてできた空洞	①地金温度が高い場合 ②ボックスとシリンダーの冷却速度が違う場合 ③地金が悪い場合	①温度を適正にする ②冷却温度を調節する ③分析して正しい配合にする
ヒッパラレ	鋳込み始め、急激な熱のため、紙型の写真の下や谷が収縮し部分的に紙型が引張られて凹む現象	①紙型の乾燥不十分な場合 ②写真版が伸びそれによって紙型も伸びた場合	①十分乾燥する ②写真版の伸びを防ぐとともに、紙型取りの方向もかえる
ムケ	鋳込んで鉛版を離す際、紙型表面が鉛版の方へ一部剥離する現象	①紙型が弱い場合 ②表面塗装が悪く離れにくい場合 ③紙型にヒビや罫による切れ込みができた場合	①紙型の弱い場合は静かに鋳込むより方法がない ②離型剤を塗布する ③紙型取りのとき注意する
オレ	鋳込時、紙型の運動とボックスの運動と一致せず紙型の端が折れる現象	①紙型が厚すぎる場合 ②紙型の腰が弱い場合 ③紙型が大きい場合	厚い紙型を使わず正確な寸法に切断する

（出典）飯坂・武捨（1966）

表１　紙型と鉛版の故障

押すと、まずボックスは動いてシリンダーに結合し、結合と同時に地金が自動的に流れ込む。12秒位たつと、ボックスは離れ、シリンダーは半廻転して、前方に出て来る。この廻転の時、鋸の歯が動いて、ゼイ片と本体とを切り離す。ここで作業員の一人は本体を取って仕上機にのせ一人はゼイ片を取り去る。この時、後方のシリンダーとボックスは前と同様の順序で地金の注入が行われている。かくして丸鉛版は次々と鋳込まれて行く。

仕上機（Auto shaver）に乗った鉛版は、正しく成形されながら裏とフチ（約55度の角度をなす）を削り、厚さを一定にした後冷水で冷却して仕上げられる。シリンダーには何本もの横溝がつけてある。これは鋳造した鉛版の冷却を早くすること、鉛版の目方を軽くすること、仕上機の刃の負担を軽くすること、輪転機にかけるときの吸付きをよくすることなどの目的でつけてある。

オートプレートの鋳込み速度は1分間に4本、仕上機の能力は1分間に6本である。鉛版用の地金は活字よりやや錫が多く、大体の次のような配合が使われている。

アンチモン：12 ～ 15％
錫：4 ～ 8％
鉛：残り

鋳込みの温度は320 ～ 290℃を適正とされている。丸鉛版を適当に削るときは、平鉛版のときと同じく、丸版ルーチングマシンを用いる。

なお飯坂･武捨（1966）では、大量印刷に耐えられるよう表面硬度を上げるために硬い金属すなわち、鉄、ニッケル、クロームなどを鍍金するとあるが、後述するように、新聞印刷ではこの過程は行われていないようである。

最後に、紙型と鉛版の故障に関する用語には表1のようなものがある。

2.4　新聞印刷と紙型鉛版法

日本における凸版輪転機の始まりは、マリノニ式輪転機であり、1890年明治政府の官報局で、次いで1891年に東京朝日である。ここに丸鉛版が登場したのである。この紙型鉛版法の特徴としては以下の点が挙げられている（「鉛版工の汗」刊行委員会　2000）。

①紙型は原版の平らな平版はもちろんのこと、半円筒形に曲げて、湾曲した丸鉛版が作れる
②丸鉛版を刷版にして、凸版輪転機によって、大量の印刷物を刷ることができる
③紙型に取ってしまえば、元の組版を解版しても、長く保存でき、また簡単に持ち運び可能である
④使用済みの鉛版は、溶かせばそのまま原料となり、安価である

しかしながら時代が下るに従って、以下のような紙型鉛版法の弱点が表れてきたという（「鉛版工の汗」刊行委員会　2000）。

①再現性が悪い
②精度が悪い
③耐刷力に難がある
④鉛版が重い
⑤鉛版が鉛合金であるため、鉛中毒防止の注意が必要

このように、紙型の縮みで多色など色が合わせづらい、など技術的なことのほか、作業量増加の中から

腰痛の発生、公害問題の高まりの中で鉛中毒など、労働環境の問題も出てきたのである。そして、大型コンピューター電子技術の発達によって活版、写真製版技術がコンピューター製版に替わり新聞１ページ大のフィルム出力が出来るようになると、フィルムとの整合性のよい、オフセット新聞輪転機の開発、分散工場の指向とファクシミリ送信技術の進歩、多色刷り要請の環境などによって、紙型鉛版法もフィルムとPS版[4]および樹脂版にとって替わらざるを得なかった（「鉛版工の汗」刊行委員会　2000）。

「鉛版工の汗」刊行委員会（2000）によれば、鉛版紙型法を用いた新聞印刷の工程は以下のようであった。

編集出稿の原稿は、活版・文選の手で活字となり、植字では見出しを付けて記事風の小組にし、大組では写真や広告と組み合わせて新聞１ページに仕上げる。大組は紙型（しけい）職場に渡され、水を含ませた厚紙・紙型を載せてローリング機で圧力を加えて凹凸を転写する。紙型取りされた紙型は、凹凸によって成型されているが、このまま地金を流したのでは、ヘコんだ部分は鉛の圧力で平らになってしまいケツ[5]が付く。これを防ぐために余白部分に裏からボール紙を貼りつける「裏貼り」を行う[6]。

乾燥された紙型は鉛版職場へ。鉛版（えんばん）とは、新聞などを印刷する凸版輪転機の刷版として用いられた半円形の鉛合金版で、重量は1本約20キログラムであった。オフセット輪転機が普及する1970年～1985年頃まで、全国の新聞社で使用された。

紙型は定型に断裁され、鉛版鋳造機（オートプレート）にセットされる。摂氏約300度に溶解した鉛合金（鉛・錫・アンチモン）を鋳込んで出来た鉛版は、裏削り機（オートセーバー）で規定の厚さに削られ、冷却されて輪転職場へ。高速輪転機にセットされ、いよいよ新聞が刷り始まる。

刷り終わった鉛版は鉛版職場に戻され、再び釜中で溶解された。リサイクル率90数パーセントを誇る、優れものであった（「鉛版工の汗」刊行委員会　2000）。

2.5　紙型鉛版法で使われる機械

韓国ソウルにある東亜日報社新聞博物館（PRESSEUM）には、活版印刷時代の新聞製作機械が展示されており、その中には紙型鉛版法で用いるものも含まれている。韓国の新聞製作においても、かつては紙型鉛版法が行われていた（신문박물관（편）2001、2013）ため、筆者が2020年2月に同館で撮影した写真を用いて、紙型取りや鉛版鋳造の工程で使う機械を以下紹介する[7]（図４～10）。

図４　紙型（東亜日報1987年１月19日）

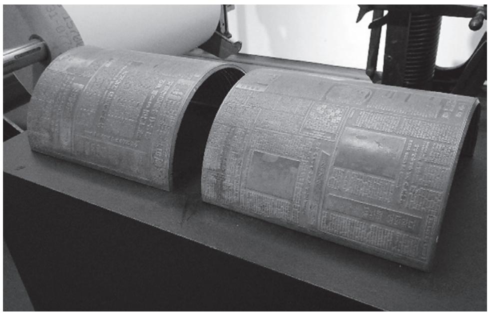


図５　鉛版

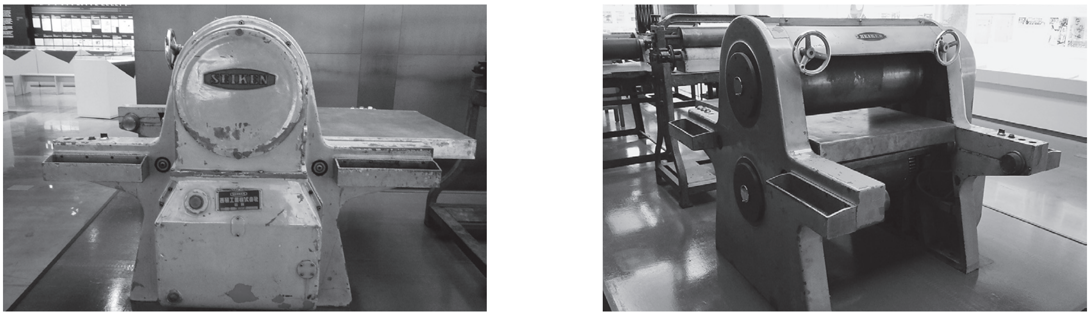


図６　（左右とも）紙型圧縮機（西研工業株式会社　福岡　昭和51年11月製）

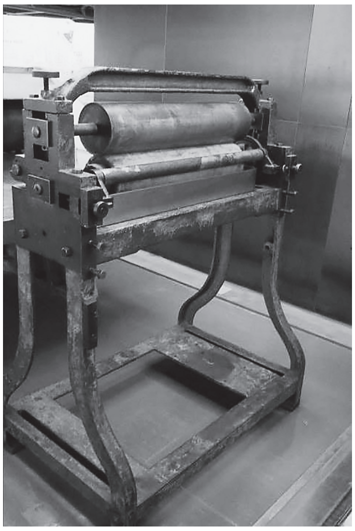


図７　紙型加湿機

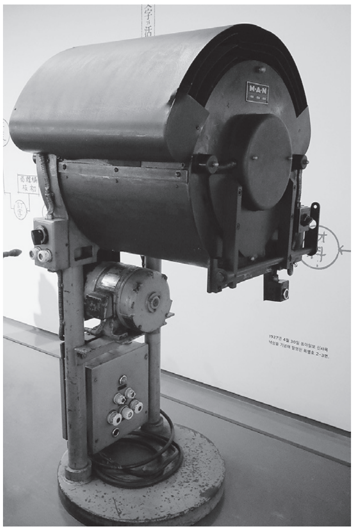


図８　紙型乾燥機（M・A・N 1970年製）

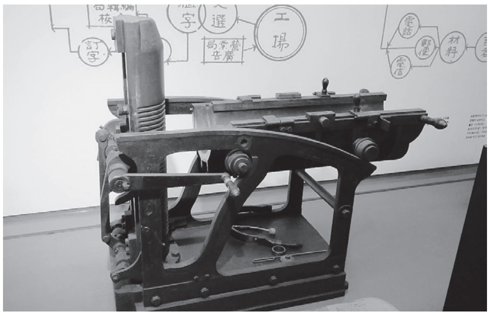


図９　手動鉛版鋳造機

図10　鉛窯

3　紙型用紙について

3. 1　紙型用紙の規格

日本新聞協会制定の「紙型用紙の規格」によれば、①ボディの組成ならびに表面加工は均一であること、②１枚の厚さは均一であること（偏差0.025mm以内）、③均一な吸水性を有し、乾燥の速いこと、④所定の収縮率（３％×1.4％）を有しムラのないこと、⑤適切な加圧により、原版を損傷することなく正確に複写する可塑性を有すること、⑥表面は平滑で剥離せず300℃の鋳造温度に耐えること、⑦熱の伝導がよく、かつ均一で、またガス抜け（透気性）がよいこと、⑧溶融鉛合金の流入性および離型性がよいこと、⑨１分間に４回の割合いで繰り返される鉛合金ならびに鋳造機の機械的衝撃に30回程度耐えること、と規定されている（紙業タイムス出版部(編) 1983)。

---

[4] 親水性層をもたせたアルミニウム板に感光液をあらかじめ塗布してある版材。製版用のフィルムを密着させて露光することで，感光性樹脂の化学変化によって，平版印刷の版が作成される（印刷用語集　https://www.jfpi.or.jp/webyogo/index.php 2020年７月27日取得)。

[5] 「表１　紙型と鉛版の故障」を参照。

[6] 丸版の鋳込では殆ど乾燥前に施工されている。裏貼り用紙には稍弾力があって厚さ0.020吋（0.51㎜）前後のものが広く使用される。使用前に糊付け面にアラビヤゴム溶液を塗って乾かし細長く切って保存し貼付直前水気を与えて空白部に貼込みその裏から軽く押しておく。然し乍ら超スピード印刷を要求されうる新聞社でこの作業だけは不思議にも現在指先で行われ工費と時間を無駄にしている（YZ生　1954)。

[7] 日本においても、日本新聞博物館（ニュースパーク）に紙型、鉛版、ローリングマシンが所蔵されている（同館ホームページ https://newspark.jp/ 2020年８月４日取得)。

3. 2　日本の主な紙型用紙メーカー

3. 2. 1　日本の主な紙型用紙メーカー

表２に示したように、紙型用紙の生産は吉田製紙(東京都)、田中製紙工業（岐阜県)、特種製紙(静岡県）の三メーカーが分担し、市場占有率は各社とも約三分の一を占め、新聞用のほかには出版用の紙型用紙や、韓国、台湾等の需要も同時に賄ってきた（日本新聞協会(編）1976)。

メーカー名	生産高（月産）	価格
吉田製紙株式会社	15万枚（うち約2割が 一般印刷関係用）	並判（新聞用一尺九寸二分×一尺五寸）75円 小判（一般印刷用一尺七寸五分×一尺三寸二分）65円
特種製紙株式会社	7万枚	一枚70円
田中製紙工業株式会社	10万枚（4万ポンド） （尚2割増産の予定）	菊判（一尺九寸×一尺五寸）50円 半截（一尺二寸×一尺七寸六分）40円 大判（二尺二寸×一尺七寸）80円 四六判（一尺四寸×一尺七寸六分）45円 新聞用の価は別

（注）印刷情報編集部（1957）より作成。小川商店については省略した。

表２　紙型用紙の生産高と価格

吉田製紙株式会社は1932（昭和７）年、新聞社関係の要望にこたえてドライマット紙型用紙製造研究に着手し数年で完成後、改良製造が行われ吉田のドライマット紙型用紙として量産が続けられ、輸出も行われた。生産高は月産15万枚でこの約２割が一般印刷関係に用いられていた（印刷情報編集部　1957)。

特種製紙株式会社は静岡三島に工場を持ち、1927（昭和２）年にドイツのエロタイプ紙型用紙を研究、製造し以来、朝日、毎日など新聞社関係に多く使用されていた。生産高は月産７万枚であった（印刷情報編集部　1957)。

田中製紙工業株式会社は岐阜、美濃市に工場を持ち、1922（大正11）年鉛版紙型用地柾紙の製法を完成した。以後、ドライマット原紙の需要活発となり、1950（昭和25）年、本格的研究を開始し、1953（昭和28年）に一般印刷用乾式紙型用紙の製造法を完成し、後に新聞印刷用紙型の製法を完成、需要漸増し、量産期に入った。尚、今後同社の研究方針として、使用者側の開梱と同時に使用可能な製品、いわゆる使用者が給水熟成を必要としない製品の製造を目的としているので期待されていた（印刷情報編集部　1957)。

なお外国製の紙型用紙としては、アメリカでは「ウッド（Wood)」､「バージェス（Burges)」､「ベベリッジ（Beveridge)」､「サーティファイド（Certifiéd)」などが有名であり、このうちウッドは日本でも相当使われていた。ドイツ、スイス、スエーデンなどの紙型もテスト程度入って来るだけで実用されてはいない（飯坂・武捨　1966)。

3. 2. 2　吉田製紙

本学に多く残されているヨシダタイプは吉田製紙の紙型であるが、同社は後述するように1969（昭和44）年に倒産してしまったため、社史なども残っていないようである。そこで、吉田製紙に関する新聞や雑誌記事などから、以下まとめる。

ヨシダタイプの創始者である吉田梅太郎は元来岐阜の和紙製造家として既に和紙界に著名であったが、1931、1932（昭和６、７）年頃それまで雁皮の製造で潤った同地の業界が急にその需要が減少して来たので、原因を調べてみるとドイツの乾式紙型の輸入によって先ず新聞関係がこれに切り替わり、このために需要が減ったものとわかった。そこで一年発起して乾式紙型の研究に取りかかったという（印刷情報編集部　1953a)。

吉田梅太郎は1931（昭和６）年当時大森で、ささやかな手漉きによる原紙の製造に着手したが、生来研究者型の同氏は営業よりもむしろ品質の研究改善に熱中するという風であったため、比較的その名は業界に知られなかった（印刷:Printing monthly 編集部　1951)。しかし朝日新聞の江崎技術部長、東日の久野工務部長らの激励もあったとされる（印刷情報編集部　1953a)。

吉田梅太郎は、息子の吉田博（吉田製紙社長）と参加した座談会記事の中で、乾式紙型が始まった当時

の話として、高速度輪転機が入ってきて、一方読者ができるだけ早い時間に沢山のものを早く見たいという要求に応えるため、それに付随する紙型も要求され、それまでの叩きの紙型ではダメになった。不正確な版ではまずく、いわゆる高速度印刷ができるという建前から紙型も朝から十数枚鋳込む。そのためにドイツのエロタイプが入ってきて、1931（昭和６）年頃だが、ローラー法と平圧法との両方が用いられたと述べている。（印刷情報編集部　1953b）。

ヨシダタイプの特長は、その原料繊維の配合の妙と表面加工の優秀にあるといわれる。材料には印画紙断裁屑などが配合されているのも、その秘法の一つかもしれないとされ、当時から吉田梅太郎の製品の良き実験者であった毎日新聞の斎藤正人は、ドライマットが紙でありながら、普通の紙として具うべき条件は何一つ具える必要はなく、それが専ら鋳型としての性能を具備すべきものであることを指摘し、その可塑性の物理的追及が処女地として残されていると述べたという（印刷:Printing monthly 編集部　1951）。

吉田梅太郎はまた、戦争で外来の用紙は全部とまったが1940、1941（昭和15、16）年には私の研究品が役に立ってほとんど国産品で間に合っていたので何等の脅威も受けなかったとも述べている（印刷情報編集部　1953a）。

吉田梅太郎は1944（昭和19）年以来隠退して現場をあまり観察しなくなっていたが、1950（昭和25）年から千住工場の建設に従って、ふたたび研究に没頭した。当時書いた雑誌記事では、新聞用と書籍用の両方の紙型について、紙型取りの方法、水分量、熟成時間（シーズニング）について説明している（吉田1952）。

1951（昭和26）年10月25日には、吉田製紙の20周年祝賀会が開かれた（印刷:Printing monthly 編集部1951）。これを報じた記事では、小菅の本社工場の他に千住に新しく竣成した、日産3500枚の能力を持つドライマット専門工場の設備について書かれている（印刷:Printing monthly 編集部　1951）。

「足立区の観光と産業」には、この吉田製紙株式会社千住工場の広告が、工場外観と作業風景の写真入りで掲載されている。文面には「紙型製作にドライマット方式が考案されたのは昭和初年のことで、米、独に続いて日本では当社が元祖であり（専売特許第102929号）量質ともに東洋一である。ドライマットは板紙製造設備により原紙を製造し、これに特殊な調合薬液を表面加工した高級洋紙である」と書かれている（足立区観光協会　1961）。

1962（昭和37）年には創業30周年と会社設立15年を記念して、東京スタジアムで行われた日米野球の第一戦、デトロイトタイガース対大毎の試合に、新聞界、印刷界の関係者約500名を招待して記念観戦会を行っている（印刷情報編集部　1962）。

吉田梅太郎は1963（昭和38）年7月22日に68歳で亡くなったが、訃報記事では「昭和6年日本で最初に新聞紙型の製作を始めた」（毎日新聞　1963年7月24日）、「吉田氏は日本ではじめて新聞の紙型を作成した紙型の権威」（読売新聞　1963年7月24日）と紹介された。

1969（昭和44）年11月17日、吉田製紙は事業外の理由により不渡り手形を出して工場閉鎖の事態に立ち至り、19日に倒産した。同社の倒産は年末総選挙と新年号印刷を目前に控え、需要増大が見込まれた時期だけに深刻な問題となったが、新聞協会資材専門部会の敏速な措置と、その後の2社の増産によって、混乱もなく事態は乗り切られた（新聞協会（編）1976）。

3. 2. 3　特種製紙

特種製紙は1926年に佐伯勝太郎によって創立され、その後合併や分社を経て、現在は特種東海製紙株式会社となっている[8]。

「特種製紙五十年史」によれば、紙型用紙の製造について、以下のようなことが書かれている（特種製紙五十年史編纂委員会（編）1976）。

---

[8] 特種東海製紙ホームページ　https://www.tt-paper.co.jp/company/history/（2020年５月７日取得）

昭和の初めにエロタイプなる商品名の紙型がドイツから輸入され、各新聞社はその便利さにひかれ研究し試用し始めた。特種製紙では1932（昭和7）年に試験抄きを行い、1933（昭和８）年にマンニング式抄紙機を新設して紙型用紙の製造開始となり、星座名を採ってカシオペアと命名された。

紙型用紙の試験研究は、エロタイプの本態を分析して、紙料、抄造法、調合薬品、加工法、加工薬品などについて充分に調査し、カシオタイプの品質向上に裨益した。戦前から今日までの研究対象品は、針葉樹パルプ、広葉樹パルプ、エスパルトパルプ、藁パルプ、木綿繊維、麻繊維、三椏（みつまた）繊維、石綿繊維、藺草（いぐさ）繊維、白土、タルク、炭酸マグネシウム、硫酸バリウム、白艶華、胡麻油、ロート油、カルナバ蠟、蜜蠟、木蠟、ヒマシ油、ステアリン、澱粉、デキストリン、ゴム乳液、カゼイン、豊年グルー、アルギン酸、こんにゃく、サボジン、グリセリン、ホルマリン、明礬（みょうばん）などだった。

試験品が新聞社鉛版工場でトラブルを起こし、分秒を争う印刷に支障を来たしたことも度々だった。新聞社側の希望としては、鋳込本数が30本に耐えること、印刷面特に写真面の上りが綺麗なこと、活字がヘタらないこと、紙型と鉛版の離れがよいこと、入りがよくてしかも戻らないこと、ナメがないこと、ヘコが出ないこと、ブク[9]が発生しないことなどが、主な指示だった。それで一つの欠点を直すと他の欠点が発生し、あちら立てればこちら立たず、進退きわまった。各新聞社にもそれぞれに家風があって一定しない。鉛・錫・アンチモンの比率、溶融合金の温度、冷却、昇華損失の補給、裏打程度、加湿法と加湿量など、大切な技術は各社秘密であった。戦後、日本新聞協会が音頭をとり、各工務局の技術交流をはかり、紙型用紙の規格を制定した。しかし、この紙は他の特殊紙と異なり、規格だけではどうにもならない微妙な要素が多く、まことに難物の紙であることが、経験を積むに従って、いやというほどメーカーに、幾分は印刷工場鉛版係にも認識されるようになった。

紙型はステレオタイピングボードと言うように厚紙ボードであるので、抄造湿紙を何回もドラムに巻き付けて厚紙化するマンニング法で生産する。湿紙の乾燥を乾燥室で試みたが、エロヒンによる熱風が選択通過して、均一な姿勢の良い乾燥紙型が得られなかった。それで、戦前は天日乾燥であった。研究や実験をしてみたが、いずれも紙型の品質を天日乾燥紙型以上に向上するものではないことを知り、むしろ紙を脆弱化するので、天日乾燥と同様、乾燥中自由な収縮を許容する方式を採用し、1948（昭和23）年から三年計画で漸次ドライヤーを増設し、枚葉湿紙切断法、枚葉湿紙自動運行法、枚葉乾燥紙自動切断法など研究成果を生かして、紙型生産設備を大成した。

紙型の加工は、従来から刷毛塗り手作業であった。三回の加工作業のうち、第一回加工は加工薬の内部浸透を考慮し層間剥離を防ぎ、第二回加工は耐熱加工を主にし、第三回加工は仕上げ加工で紙面の保護安定剤であった。薄化粧にした時もあり、或いはまた厚化粧になった時もありで、新聞社の鋳込み成績で変化したこと、原質及び原質薬品以上である。

手塗加工には不均一があり、個人差があり、これで紙型がいつまでも安定しないのだと強く主張する人も出てきた。手塗りの良さを堅持し、省力で生産性の良い機械加工を研究し始め、1958（昭和33）年、小型の試験塗工機を開発し、これで暫く稼働研究し、1963（昭和38）年、今日の加工機を完成した。

また「特種製紙83年史」[10]によれば、同社の紙型製造の撤退について、以下のようなことが述べられている。

鉛鋳型の鋳造過程では、鉛毒病や重量物運搬による腰痛障害のリスク防止に、鋳造鋳型を樹脂鋳型に変えて鉛害防止と鋳型の軽量化したノンパックやARS紙型の開発にも成功している。生産は、どの工程でも熟練による特有な技術力が要求された事から、作業者の職場移動の少ない職場であったことで、仲間意識が強く家族的な雰囲気がある職場になった。紙型からの完全撤退は1985（昭和60）年１月で、活版印刷か

---

[9] 紙型の繊維の中に空気が入っていて、湯でその空気がふくらみ写真面などが小さくヘコむこと（「鉛版工の汗」刊行委員会　2000)。ナメ、ヘコの意味は、「表１　紙型と鉛版の故障」を参照。

[10] 特種東海製紙会社　室伏敬冶さん提供。

らオフセット印刷の移行により紙型を使う必要がなくなったためであった。

3. 2. 4　田中製紙工業

田中製紙工業は享保年間に現在の美濃市殿町で美濃紙問屋として創業し、大正時代に手抄き紙の工場生産を始めた際に、高付加価値の特殊紙に製品を絞ったが、その一つが、手抄きによる紙型用紙の改良工夫であった（田中　1988）。

新聞印刷業界に於いては、戦後いち早く紙型用紙の本格的使用に踏み切り、その要請と援助のもとに、東京の吉田製紙株式会社が、まず製法を完成し、「ヨシダタイプ」の商品名をもって生産を開始。続いて静岡の特種製紙株式会社が、「カシオタイプ」の商品名で製造販売に乗り出し両社で業界需要の80%程度を生産できる体制を確立していた。そこへ三番手の後発メーカーとして紙型用紙を始めたのが田中製紙工業であった[11]。

田中製紙は1950（昭和25）年にドライマットの本格的研究に取り組み、1953（昭和28）年、岐阜県製紙試験場の指導のもと、施設を整え、テストを続け、1956（昭和31）年に至り、やっとあちこちの社から少量ずつながら、スペア紙型用に発注があり、一般印刷用と合わせて月産８万枚となり、何とか黒字にこぎつけた。1959（昭和34）年には田中紙型（商品名ミノタイプ）の品質は飛躍的に向上、先発Y社[12]製をしのぐまでになった。ことに印刷面の鮮明さにはユーザーが目を見張った。従来の、ともすれば不安定な天然系薬剤を新しい合成薬剤に切り替えたこと、さらに発想を転換して、繊維加工用薬剤を紙に応用したことなどが相乗的効果をもたらしたものといえる。1963（昭和38）年２号ライン増設に伴い創業10周年記念式典が挙行された（田中　1988）。1964（昭和39）年には「ヨシダタイプ」に大きく水をあけ、名実ともに日本一の座を占めるに至った[13]。

1969（昭和44）年、ライバルY製紙の倒産による新聞協会からの緊急増産要請に応えて、日曜祭日返上の2ラインのフル操業が続いた。昭和50年代に入るとノンパットマット（裏張り（ママ）不要紙型）の要望が起こり、2年がかりで実用化に成功した（田中　1988）。

新聞印刷も脱紙型鉛版ということで、昭和50年代後半から新しい印刷技術へと変化が急であった。規模の小さな新聞社は変わり身が早かったが、大きな新聞社ほど紙型用紙の使用が遅くまで残った。最後まで供給の責任を果たしたことに対し、1982（昭和62）年に日本新聞協会から感謝状を送られた。30年余り新聞製作に不可欠な紙型用紙を生産して、日本新聞界へ多大な貢献をしたことには間違いなく、紆余曲折もあったが、田中製紙工業として大きな誇りであったという[14]。

3. 3　日本における紙型用紙の研究

武捨（1960）は「紙型鉛版法は精度の点でつかみにくい技術で、ある印刷機メーカーが“鉛版は生き物だ”と嘆いていたのも無理はない」とし、「印刷マンにとっても、まことに不安定で、扱いにくいシロモノであるが、新聞のようなハイスピードの印刷には、これに優る方法は見つからず、依然として新聞印刷の主流をなしている」と述べている。

新聞社の紙型技術者と研究者の座談会での発言でも「いまの紙型どりの技術は作業者の熟練技能にたよっているようなもの」「いまの紙型というものは型取り精度は悪いのですが、タスク手作業が早いからこれにかわるものは当分出てこないのではないかとも思います」と述べられている（寺西他　1957）。

また、長谷川（1950）は紙型用紙の持つべき条件について、

---

[11] 田中製紙工業株式会社専務取締役　田中郁夫さんの手紙（2019年8月28日付）。
[12] 吉田製紙を指すと思われる。
[13] 田中製紙工業株式会社専務取締役　田中郁夫さんの手紙（2019年8月28日付）。
[14] 同上。

1．紙型取りの面よりの条件
Ⅰ塑造性のあること
Ⅱ湿気のある時は柔軟性にして乾燥後は抗力を有すること
Ⅲ適当の収縮のあること

2．円鉛版鋳造の面よりの条件
Ⅰ耐熱性にして耐久力のあること
Ⅱ地金との附着力のよいこと
Ⅲ熱の伝導のよいこと

を挙げているが、これらはお互いに全く相反する要件もあるとし、メーカーは紙質それ自身をよくすること、表面塗装に充分の考慮を払うことを努力することと述べている（長谷川　1950）。

このように紙型取りは作業者の熟練技能に頼る点があることや、紙型用紙には塑造性と耐久性という相反する性能が要求されることについて、実験などを通して科学的に捉えようとする研究が日本でも行われていた。

たとえば、高野他（1954）は紙型の可塑性に関して「ドライマットといえども、水分を与えて軟らかにしないければ紙型を取るわけにはゆかぬし、整形してのちはこれを乾燥して水分を追い出さねば鋳造ができない。従ってドライマットと水とは非常に密接な関係があり、紙型の技術は終始この加湿と乾燥の操作の研究の上に成り立っている」とし、加湿、熟成のなったマットに圧力をかえて、紙型の状態変化を考察した。そして含水量と戻りの関係から最良熟成時間を得たり、繊維素の収縮現象を解析して、相対的収縮率や紙型用紙の含水率とその水分蒸発による収縮の相対的緩和時間との関係を数式化している。

竹原（1963）は、紙型用紙の問題点は①可塑性、②耐鋳造性、③寸法安定性に分類できるとし、新聞用紙の組成—可塑性—粘弾性の関係について実験を行った。そして振動リード法によって求めた粘弾性的特性と、工場実験における可塑性とはよく一致すること、特に紙型の入りと動的弾性とは、分散分析における寄与率がよく一致しており、内部タイムスケールとも比較的関係を示しているとした。

また「Aの会社の紙型とBの会社の紙型では、紙自体の組成が異なっているので、当然紙型のとり扱いを違えねばなりません。従って紙型の入りを一定にするためには､例えば圧を変えなければならない(略)。ですから、クッション材料は同じでも、いつも全く条件が同じとはいえません」（寺西他　1957）ということに関連して、武捨（1960）は紙型・鉛版用機器の問題点について取り上げ、ローリングマシンよる紙型取りの際に組版に載っている写真版・凸版が、組版の進行方向に若干ズレる現象や、紙型乾燥中に紙型表面が実際どのくらいの温度で加熱されているかという正確な指示ができないこと、鉛版鋳造時の鉛版冷却の不平均や、釜の効率と温度管理などを取り上げている。

4　山形県立米沢女子短期大学が所蔵する新聞紙型の調査

4.1　新聞紙型目録の作成と集計

附属図書館所蔵の新聞紙型については、これまで調査されたことはなかったので、前述したように筆者らは2019年度に資料調査を行った。具体的には、これまで保管されていた本学A号館1階の資料標本室（以前の附属図書館書庫であった部屋）から、A号館４階の資料標本室（同じ名前だが別の部屋である）に新聞原紙を全て移動した（図11、12）。その上で、紙型目録の作成と紙型の写真撮影を行った。新聞原紙自体の所蔵目録についても詳しいものは作成されていなかったため、新聞原紙の簿冊を1冊ずつ目視で欠号の有無を記録しながら、新聞原紙の目録も作成した。

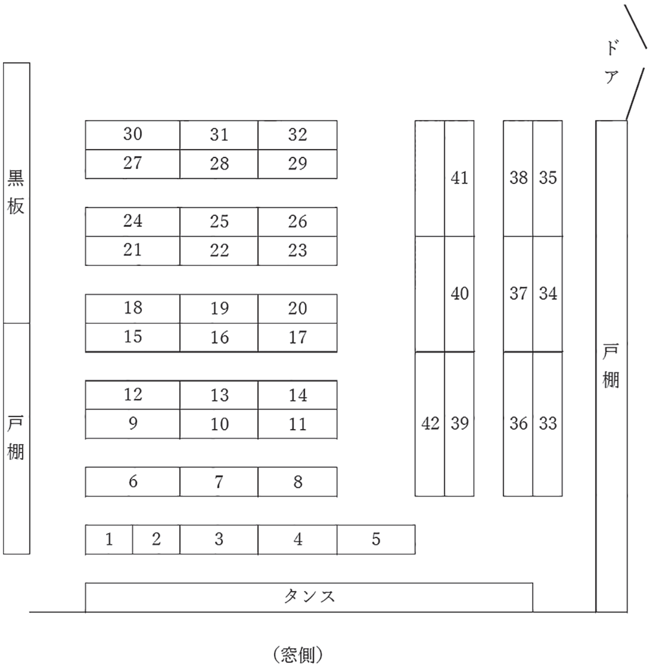
本学に残る紙型には活字だけでなく図表、広告、見出し、カット図案なども紙型取りされている。写真はそのまま紙型取りされているものと、写真の大きさの枠だけ設けてあるものがある[15]。紙型の裏面には、

ねずみ色の細長い紙で裏貼りがされている。

紙型は1枚あたり新聞1面分を紙型取りされているものがほとんどだが、1枚の紙型用紙で2ページ分や4ページ分を紙型取りしている場合もある。具体的には、後述する山形新聞・山形放送社報は紙型用紙1枚で2ページ分を紙型取りしている。また、新聞名や発行日は不明だが「生活のチエ」（目録番号142）、「薬草　現代生活にとけこむ漢方」（目録番号194）、「衣　おしゃれと違うエチケット」および「住　明るいわが家を…」（目録番号304）という見出しのある印刷物では、紙型用紙1枚で4ページ分を紙型取りしている。

本学が所蔵する新聞紙型は全て使用済みのものと見られ、表面が黒く汚れていたり、キツネ色に焦げていたりする。文字は反転しておらず、そのまま読める。また、新聞原紙を綴じるための表紙・裏表紙として用いられており、新聞原紙を綴じた冊子の形態で残っている。そのため、中に綴じた新聞名と年月などを直接紙型に書いたり、張り紙されているものもある。博物館などで保存されている紙型は未使用のものが多いが、本学の新聞紙型は使用済みの紙型であり、鉛版鋳造に使用された後の状態が分かる貴重な資料と思われる。

附属図書館に残されていた紙型は全部で731枚あり、山形新聞の印刷に使われたものが663枚と、全体の9割を占める。これ以外では、山形県立山形西高校の学校新聞である「山形嚶鳴新聞」の紙型が6枚、山形大学新聞



（注）図中の番号は、書棚・机の番号を表す。
書棚は上の段からA～E、机の上はA、机の下はBと表す。

図11　新聞原紙配架図（A号館4階　資料標本室）

図12　新聞原紙の保管状況
（左）A号館1階資料標本室（旧図書館書庫）（2018年12月25日撮影）
（右）A号館4階資料標本室へ移転後（2019年12月24日撮影）

新聞名	枚数	割合
山形	663	90.7%
山形嚶鳴	6	0.8%
山形大学	1	0.1%
山形新聞・山形放送社報	1	0.1%
不明	60	8.2%
総計	731	99.9%

（注）四捨五入のため割合の合計は100%にならない。

表3　紙型取りされた新聞名と枚数

発行年	枚数	割合
昭和35（1960）年	146	20.0%
昭和36（1961）年	65	8.9%
昭和38（1963）年	112	15.3%
昭和39（1964）年	90	12.3%
昭和41（1966）年	107	14.6%
昭和43（1968）年	73	10.1%
昭和44（1969）年	30	4.1%
不明	108	14.8%
総計	731	100.1%

（注）発行日不明のうち年だけ分かるものも当該年に加えた。四捨五入のため割合の合計は100%にならない。

表4　紙型取りされた紙面の発行年

15 山形新聞社印刷センターには、凸版（1975年頃まで写真やイラスト、広告部分の版として使われ、亜鉛鉛板を加工して作られる）の実物が展示されている。

会が発行していた「山形大学新聞」の紙型が１枚、「山形新聞･山形放送社報」の紙型が１枚残されている。不明は60枚（8.2%）で、これは新聞原紙を綴じる際に紙型用紙の端を切ってそろえたため、新聞紙名の部分が切り落とされたことが原因であることが多い（表３）。

新聞発行年をまとめると、1960（昭和35）年から1969（昭和44）年までの紙型が所蔵されており、多い順に1960（昭和35）年が146枚（20.0%）、1963（昭和38）年が112枚（15.3%）、1966（昭和41）年が107枚（14.6%）などとなっている。一方､1962（昭和37）年､1965（昭和40）年､1967（昭和42）年の紙型はない。不明は108枚（14.8%）で、新聞紙名と同様に新聞原紙を綴じる際に紙型用紙の端を切ってそろえたため、日付の部分が切り落とされたものである（表４）。

発行年の月日を見ると、一年中おしなべてあるのでなく、例えば1960（昭和35）年であれば10月と12月上旬、1961（昭和36）年であれば３月下旬といったように、毎年特定の時期に多くまとまっている。これは後述するように、当時、附属図書館での新聞の合綴は月初めの休館時にひと月分をまとめて夏休みに表紙をつけたので、この作業日程に合わせて山形新聞社からもらい受けていたためではないかと思われる。

紙型寸法の平均は縦55.12㎝、横42.37㎝であり、前述したように紙端をほぼ新聞紙の大きさに切ってある（表５）。ちなみに新聞紙のサイズはブランケット判（406.5mm×546mm）である。

寸法	縦	横
平均（cm）	55.12	42.37
標準偏差（cm）	0.74	1.30

表５　新聞紙型の寸法

紙型を表紙として中に綴じてある新聞紙名は、山形新聞と朝日新聞がそれぞれ三割強を占めて、最も多かった。また綴じ込んである新聞の発行年は､1955（昭和30）年から1974（昭和49）年に渡っており、紙型取りされた新聞の発行年の範囲を超えている。表６を見ると、紙型取りされた新聞の発行年と、紙型で綴じてある新聞の間には対応関係があるが、分布には幅があり、紙型用紙を多くもらっておいて、その前後の年の新聞原紙を綴じていたようである。

同じ日付かつ同じページ番号の紙型同士を見比べてみると、１面は朝･夕刊や版建ての違い、４面は地域版の違いであることが大半だった。ほとんどの紙型は１面につき１枚ずつしか作られなかったようである。

一方、同じ日付かつ同じページ番号で、紙面の内容も同じだった紙型は21組あり、加えて一部の記事のみが異なっただけの紙型も４組あった。これらの紙型は全て使用済みであったが、一方は黒い汚れが少なく、もう一方は黒い汚れが多いものの組み合わせになっているので、いったん鉛版を鋳造してから、なんらかの理由で紙型を取り直して鉛版を作り直したものと考えられる。

綴じてある新聞の発行年	紙型取りされた新聞紙面の発行年								
	S35	S36	S38	S39	S41	S43	S44	不明	総計
S30	6								6
S31	4								4
S32	2	2							4
S33	28	6							34
S34	38	12						2	52
S35	37	16							53
S36	20	23	5					9	57
S37	9	3	24					18	54
S38	2	2	38					8	50
S39		1	32	19	12			6	70
S40			3	55	6			10	74
S41				16	51			7	74
S42			8		20	21		23	72
S43			2		17	45	3	7	74
S44					1	7	23	11	42
S47							1	2	3
S48							3	1	4
S49								4	4
総計	146	65	112	90	107	73	30	108	731

（注）複数年に渡って綴じてられている場合は始年で分類した。
網掛け部分は紙型で作られた新聞と綴じられた新聞が同じ年。

表６　紙型取りされた新聞紙面と、綴じてある新聞の発行年

4.2　紙型の色について

本学に残されている紙型用紙の表面（コーティングされている面）の色は､「黄色」が459枚（62.8%）､「水色」が271枚（37.1%）、その他の色が1枚となっている（表７）。ただし、ここで分けた「黄色」や「水色」は単色でなく、それぞれ色味にかなりの幅がある[16]。

すなわち「黄色」はさらに、①濃いレモン色、②きつね色の焦げの入った黄土色、③その他の黄色に分けることができる。「水色」も①濃いエメラルド色と②その他の水色に分けることができる。「その他の黄色」はレモン色から水色に近いものまで、「その他の水色」も灰色から水色や青緑色に近いものまで、色のバリエーションの幅が大きく、「その他の黄色」か「その他の水色」かの判断に困るような色合いの紙型もあった(図13)。

	表の色		裏の色	
	枚数	割合	枚数	割合
黄色	459	62.8%	146	20.0%
水色	271	37.1%	420	57.5%
色あせ	0	0.0%	147	20.1%
その他	1	0.1%	18	2.5%
総計	731	100.0%	731	100.1%

（注）四捨五入のため割合の合計は100%にならない。

表７　新聞紙型の色

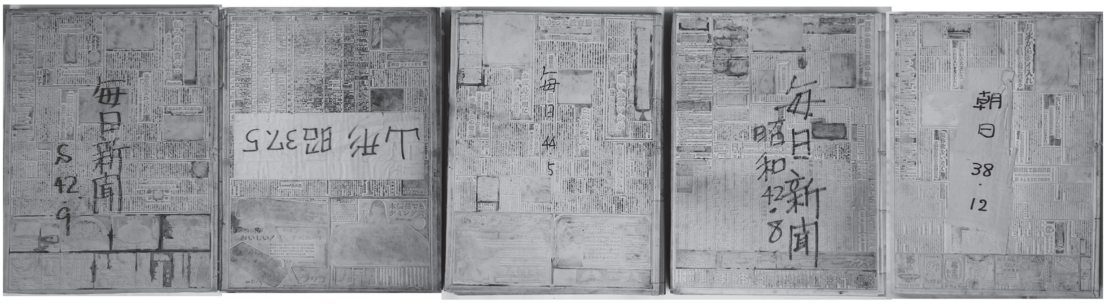


図13　新聞紙型の表面色の違い

（左から）水色（エメラルド色）　山形新聞　昭和43年７月15日４面（市内版）

水色（その他）　山形新聞　昭和35年10月27日４面

黄色（その他）　山形新聞　昭和43年７月12日９面

黄色（黄土色）　山形新聞　昭和41年５月24日２面

黄色（レモン色）　山形新聞　昭和38年６月５日４面

発行年	黄色				水色			他		総計
	レモン	黄土色	その他	（小計）	エメラルド	その他	（小計）	灰色	（小計）	
昭和35（1960）年			8	9		138	138			146
昭和36（1961）年			30	30		34	34	1	1	65
昭和38（1963）年	112			112						112
昭和39（1964）年			90	90						90
昭和41（1966）年		106	1	107						107
昭和43（1968）年	1	4	22	27	46		46			73
昭和44（1969）年	7			7	23		23			30
不明	56	1	21	78	17	13	30			108
総計	176	111	172	459	86	185	271	1	1	731

（注）網掛け部分は当該年で一番枚数の多いものを示す。

表８　紙型取りされた新聞紙面の発行年と表面の色（詳細）で分類した紙型の枚数

紙型取りされた紙面の発行年別にみると、紙型の枚数は年代と色に偏りがある。表面が黄色の紙型のうち、レモン色は1963（昭和38）年に多く、黄土色はほとんどが1966（昭和41）年に集中している。一方、表面が水色の紙型のうち、エメラルド色のものは1968～1969（昭和43～44）年にしか見られず、その他

[16] 色の分類は記録者によってばらつきが見られたので、紙型表面の色に関して、事後にコーダー1名（亀ヶ谷）が紙型写真を見て再分類を行った。

の水色も1960～1961（昭和35～36）年に集まっている（表８）。

紙型用紙の裏面（ボデー）の色は、「黄色」が146枚（20.0%）、「水色」が420枚（57.5%）、色あせ・その他があわせて165枚（22.6%）であった。表面と同様に裏面も色味に広い幅があり、「黄色」にはクリーム色から青っぽい黄土色までが含まれ、「水色」も青っぽい色からあせた茶色っぽい色までを含んでいる。また、「黄色」はコーティングの黄色が裏面まで透けて見えているようである一方、「水色」は裏面のボデーの紙自体が着色されているように見える。「色あせ」や「その他の色」は古い紙型ほど多くみられるので、経年変化のために色があせて見えたり、グレーや茶色、白色っぽく変色したものと思われる。

		裏面の色				
		黄色	色あせ	水色	他	総計
表面の色（詳細）	黄土色	111	-	-	-	111
	レモン	21	21	134	-	176
	その他黄色	9	21	140	2	172
	エメラルド	-	11	68	7	86
	その他水色	5	93	78	9	185
	他(灰色)	-	1	-	-	1
	総計	146	147	420	18	731

表９　表・裏面の色で分類した紙型の枚数

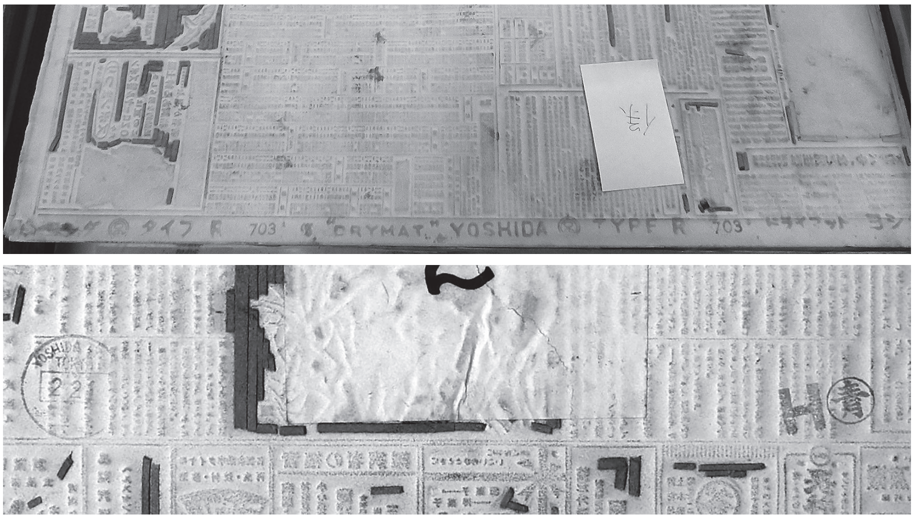


図14　「ヨシダタイプ」の印字例

表面が「その他の黄色」の紙型には、表面の外枠に青色が残っているものがある（例えば、山形新聞　1961（昭和36）年３月30日１面）。また、紙型の表裏の色を比べると、表面が黄土色の紙型は全て裏面が黄色であった一方、これ以外の表面の色の紙型では裏面が水色や色あせのものが多い（表９）。これらからして、表面が「黄色」の紙型の中には、もともと「水色」だったものが変色して黄色くなったものも含まれると考えられる。

4.3　紙型裏面の社名・数字スタンプについて

紙型用紙には、アルファベットとカタカナで、「ヨシダ」「タイプ」「ドライマット」「DRYMAT」「YOSHIDA」「TYPE」といった文字、「BH901」や「R（703）」などといったアルファベットと数字、そして会社のマークと思われる図案が、紫色もしくは緑色のインクで裏面の長辺に印刷されていたり、丸型印として押されているものが見られた（図14）。これらの紙型は吉田製紙のものと思われる。このような社名等が印刷されている紙型の表面は、水色のものも黄色のものも両方存在している。図14を見ると「H㊔」というスタンプもあることから、吉田製紙の紙型には「青」があり、さらに青以外の色があったのかもしれないということが類推される。

これとは別に、裏面に社名等が全く印刷されておらず、ただ中央付近に「04064」などといった数字スタンプが押されている紙型用紙もあった（図15）。このような紙型は表面・裏面とも黄色しかなく、前述した吉田製紙とは異なるメーカーの製品のようにも思われる。

4.4　紙型メーカーの特定について

本学所蔵の紙型のうち、裏面に社名等が印刷されているヨシダタイプは製紙会社が特定できたものの、

それ以外の紙型についてはメーカーが分からない。

「Aの会社の紙型とBの会社の紙型では、紙自体の組成が異なっているので、当然紙型のとり扱いを違えねばなりません」（寺西他　1957）という発言からわかるように、複数のメーカーの紙型を使用している新聞社の場合はそれぞれ取り扱いを変える必要があったので、現場では一目見て分かる紙型の色の違いを用いて紙型のメーカーを区別していたとしても、不思議ではないだろう。

しかし製紙会社や山形新聞社などに紙型の色について問い合わせてみると回答内容には相違があって、紙型の色とメーカーの対応関係を統一的に把握することができなかった。さらに、「特種製紙五十年史」に掲載されている紙型のカラー写真や同社が保存している紙型の紙片の写真を送ってもらって見たものの、本学所蔵の紙型とは色合いが違って見え、同定することができなかった。

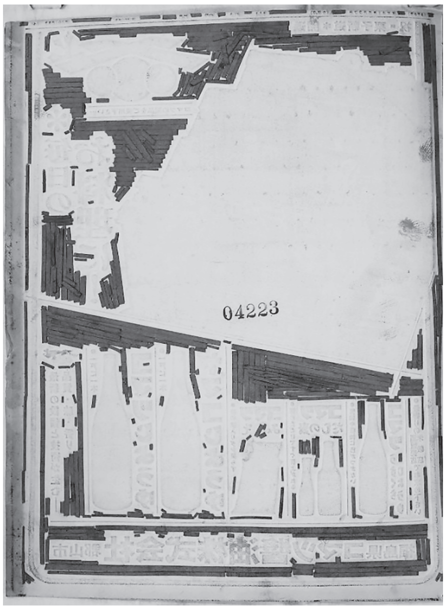


図15　裏面に押された数字スタンプの例

そこで、メーカーごとのデータが分かっている紙型の厚さを使って、紙型の色やスタンプの有無などと関連性があるかを調べた。具体的には、紙型の裏表の色、裏面の吉田製紙の社名の有無、数字スタンプの有無を組み合わせて、５枚ずつ選んだ紙型の厚さの平均（１枚の紙型ごとに３ヶ所を測定した）を計測したところ、0.76㎜が大半であった。吉田製紙の社名が裏面に印刷されておらず表裏とも水色の紙型のみが0.75㎜であったものの、大差ではなかった（表10）。表11を見ると、カシオ新聞（特種製紙）、ヨシダ新聞（吉田製紙）、ミノタイプ（美(ママ)濃製紙）の紙型の厚さはいずれも0.76㎜で同じなので区別がつかない。特種製紙が1973（昭和48）年に開発したARS紙型が1.56㎜などと厚いが、紙型の使用時期から考えて本学には所蔵されていないものと思われ、上の測定結果からもそのことが裏付けられた。

	吉田製紙の社名	
表の色×裏の色	あり	なし
黄色×水色	0.76	0.76
水色×水色	0.75	0.76

表の色×裏の色	数字スタンプあり
黄色×黄色	0.76

（注）単位は㎜。紙型5枚ずつを測定した平均値。

表 10　紙型の厚さ（裏面の印字×裏･表の色別）

このように、紙型の色や厚さから製造元の製紙会社を特定することは難しいようである。田中製紙工業からの回答でも「色に付いても水を含め乾燥させ鉛(ママ)板を何本も鋳込むと表面の色もあせて解らなくなりあまり判断が出来なくなります」[17]とあり、鋳込み作業によって紙型のコーティング部分の色が変色することが述べられている。これを考慮に入れると、前述したように、表面が黄色の紙型用紙の中には、元々水色だったものが変色して黄色っぽくなってしまったものも含まれていると考えた方が妥当だと思われる。ただし、黄色・水色どちらの色の紙型であっても裏面に吉田製紙の社名等が印刷されているものが見つかっていることから、ヨシダタイプには表面の色が水色・黄色どちらもあった可能性も否定できない。

一方、表面が黄土色の紙型については、裏面が水色の紙型は見つからず、必ず裏面に数字スタンプが押されているなど、ヨシダタイプと紙型の外見が異なっているため、別メーカーの紙型用紙である可能性も否定できない。しかし、紙型の厚さは特種製紙も田中製紙工業も同じなので、どちらの製品であるかを断定するまでには至らなかった。

---

[17] 田中製紙工業株式会社専務取締役　田中郁夫さんの手紙（2019年10月２日付）。東京営業所で30年間営業担当していた方に尋ねた内容。

銘柄		厚さ(mm)	重さ(g/m^2)	密度(g/m^3)	抗張力(kg)	破裂度 (kg/cm^2)	伸び(%)	灰分(%)
ノンパック	特種製紙	1.53	1280	0.83	77	-	10	8.2
ARS紙型	特種製紙	1.56	1300	0.83	106	-	12	8.2
ウッド	アメリカ	1.54	900	0.59	59	-	10	20.7
カシオ新聞	特種製紙	0.76	750	0.96	56	17.6	14	5.3
エロタイプ	ドイツ	0.74	710	0.97	-	21.5	9	5.0
ヨシダ新聞	吉田製紙	0.76	710	0.94	-	15.8	7	16.0
ミノタイプ	美濃製紙	0.76	750	0.98	49	-	10	5.2
バージェス	アメリカ	0.84	650	0.76	65	-	5	14.0
カシオ印刷	特種製紙	0.80	680	0.85	47	-	10	15.5

（出典）特種製紙五十年史編纂委員会（編）（1976）

表11　紙型の銘柄別仕様

田中製紙工業によれば、田中製紙工業の美濃タイプ[18]は表面が黄色でソフトな感じであり、ボデーは白だという。また昭和30年代初めの頃は美濃タイプもスタンプを押していたが、新聞社よりスタンプが有ると「裏面にボール紙を貼る時スタンプが邪魔をして凹と凸部分の見分けが出来にくいからスタンプを止めて欲しい」との要望があり、それ以来スタンプを押すのを止めた。裏のロットナンバーは確か押していたが、この色（紫色）が美濃タイプかどうかは確かではないという[19]。

一方、特種製紙のカシオタイプには黄色と水色の両方の紙型があったという[20]。また後述するように、山形新聞社では紙型は２種類を使っていて、緑色がミノタイプ、黄色がカシオタイプだったとされるが[21]、既にヨシダタイプが使われていなかった頃の話であることから、本学に残る紙型が使われていた頃よりも、やや後の状況を述べたものと思われる。

「山形新聞　1966（昭和41）年５月24日１面」の紙型の裏面を見ると、数字スタンプの上に裏貼りの紙が貼られている。このことから数字スタンプは紙型取りの裏貼り作業前に押されていたことが分かる。また数字スタンプは紙型取りされた紙面の天地と無関係に押されていることか

目録番号	新聞名	発行日	書き込み内容
34	山形新聞	S39.6.18	青ペンで「ツブス」「Mの字全部.」「ツブシて下さい.」「ステロ不完全の様」「それから」「Pモダヨ.」。他にも何か記載あり
48	山形新聞	S38.6.7	鉛筆で「注意…怪しいブルケイ」
49	山形新聞	S38.6.6	赤ペンで「井上」
253	山形新聞	S39.6.15	鉛筆で「6」「ツブス」
266	山形新聞	S39.6.16	鉛筆で「8」か、「ツブス」
446	山形新聞	S41.5.22	鉛筆で「90」「ツナグ」
455	山形新聞	S41.5.27	赤ペンで「マルデダメオ」「・ラ」
469	不明	S38(月日不明)	赤ペンで「6」。鉛筆で「ツブス」
487	山形新聞	S43.7.15	ピンクのペンで「ツナグ」
493	山形嚶鳴新聞	S43.7.17	鉛筆で「西高」
496	山形新聞	S38.6.6	赤ペンで「13」「本日の最高221ｇ　本日の最低204ｇ」
499	山形新聞	S38.6.7	赤ペンで何か記載あり。黒ペンで「（不明）ヘコマス」か
519	山形新聞	S38.6.5	鉛筆で「注意してください」と何か記載あり
529	不明	不明	赤ペンで「16」「2」「ツブス」
557	山形新聞	S43.7.16	表面にピンクペンの鏡文字「㊟バラ凸あり」
560	不明	不明	ピンクで「つなぐ」。黒ペンで何か記載あり
562	不明	不明	ピンクで「トル」
565	山形新聞	S41.5.24	鉛筆で「ツブス」「87」
578	山形新聞	S43.7.13	ピンクで「つなぐ」
586	山形新聞	S43.7.14	赤で「ブス」
594	山形新聞	S43.7.14	ピンクで「ツナグ」
598	不明	不明	鉛筆で「6」「本版」か
639	山形新聞	S38.6.6	赤ペンで「斉藤」（藤はくずし字）
666	山形新聞	S38.6.6	赤鉛筆で「この～」
699	山形新聞	S43.7.16	黒ペンで「2」。赤鉛筆で「ツナグ」

（注）内容不明のもの、数字のみの書き込みは省略した。

表12　紙型裏面への書き込み（紙型の送付先を除く）

[18] ミノタイプと同じ。

[19] 田中製紙工業株式会社専務取締役　田中郁夫さんの手紙（2019年10月2日付）。東京営業所で30年間営業担当していた方に尋ねた内容。

[20] 特種東海製紙会社　室伏敬冶さんのメール（2019年10月17日付）。

[21] 山形新聞社OBの佐々木猛さんの話。

ら、紙型取り作業以前に押印されていたのかもしれない。もし黄土色の紙型裏面に押された数字スタンプがロットナンバーであるとすれば、ミノタイプである可能性もあるが[22]、田中製紙工業と特種製紙のどちらのメーカーも黄色の紙型を生産しており、山形新聞社でも両方のメーカーの紙型を使っていたとすれば、やはりヨシダタイプ以外の紙型のメーカー名を特定することは難しいと言わざるをえないだろう。

目録番号	新聞名	発行日	書き込み内容
81	山形新聞	S35.12.5	ペンで米沢市米沢女子短大図書館
144	山形新聞	S39.6.20	青筆で「6月20日迄米沢(専)御中」
278	山形新聞	S36.3.29	黒ペンで「米沢市米沢女子短大図書館」
642	山形新聞	S38.6.9	「米沢 (専)気付 支局行」

表13　紙型の送付先と思われる書き込み

4.5　紙型裏面への書き込みについて

吉田製紙の社名などや数字スタンプ以外にも、紙型の裏面には、鉛筆、ボールペン、マジックペンなどで、さまざまな書き込みがなされている。山形新聞社に問い合わせたものの、この意味は不明で、書いていた記憶はないとのことだった[23]。

書き込みの内容は､数字がとても多い一方､｢ツナグ｣「ツブス」「トル」「注意…怪しいブルケイ」「本日の最高221ｇ　本日の最低204ｇ」、鏡文字で「㊟バラ凸あり」といった言葉も書かれている。これらは裏貼りに関する注意事項のようにも思われる（表12、図16）。

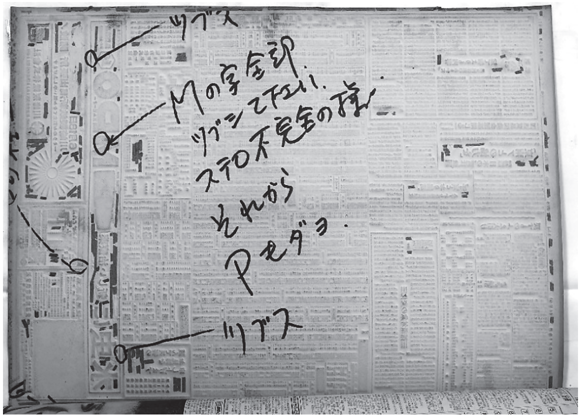


図16　紙型裏面の書き込み例

また、山形嚶鳴新聞（1968（昭和43）年７月17日付）の紙型の裏面には、鉛筆で「西高」と書かれていることから、この鉛筆の書き込みが新聞印刷作業時に書かれていたことが分かる。

他方、表・裏面とも黄色で数字スタンプが押された紙型には、裏面への書き込みが見られなかった。

最後に、紙型の届け先の宛名と思われる書き込みについては表13にまとめた。これを見ると1960（昭和35）年と1961（昭和36）年は本学図書館宛てに送られていたが、1963（昭和38）年と1964（昭和39）年は山形新聞の米沢専売所（支局）に送られていたようだ。

4.6　山形新聞以外の新聞紙型について

本学の附属図書館で所蔵する紙型はほとんどが山形新聞の紙面であるが、山形大学や山形県立山形西高校の学生新聞、山形新聞・山形放送社報の紙型も含まれている。

山形新聞社では、1968（昭和43）年まで山形工業高校、山形東高校、山形西高校、山形南高校、山形北高校などの学校新聞を印刷しており、新聞部の生徒さんが大組レイアウトを持ち込んでいたという[24]。したがって、本学の附属図書館が山形新聞社から使用済み紙型をもらった際に、同社で印刷していた高校や大学の学生新聞の紙型が混ざったのであろう。

なお、学校新聞の紙型が残されていた事例としては、大阪府立岸和田高校で1949（昭和24）年12月~1950（昭和25）年９月までの「岸高新聞」10枚と1950（昭和25）年６月の「全国高校新聞通信連盟報」１枚の計11枚が発見された例がある（毎日新聞大阪版　2014年９月21日）。

---

22 山形新聞社OBの佐々木猛さんによれば、数字スタンプは裏貼りの時に押したのではなく、入荷前から入っていたのではないかという。

23 山新オフセット　岡崎淳さんのメール（2019年３月５日付）。

24 山新オフセット　岡崎淳さんのメール（2019年３月５日付）。

4.6.1　山形大学新聞

苦悶する自治会

図17　山形大学新聞（昭和38年５月25日）

本学の附属図書館には、1963（昭和38）年５月25日（第106号）発行の山形大学新聞の１面の紙型が１枚だけ所蔵されている。発行所は「山形大学新聞会　山形市小白川町文理学部構内」で、印刷所は「山形新聞社」とある（図17）。

１面タイトルは「苦悶する自治会」で、当時の自治会活動が極めて変則的である理由として、学生大会の非情な遅れや予算の未解決、学校側の学友会の存続主張、クラブに対する圧力を挙げている。ページの下部には会社の新聞広告で埋められている。

「山形高等学校　山形大学文理学部五十年史」によれば、1952（昭和27）年２月10日に文理学部新聞部が山形大学新聞を創刊した。1957（昭和32）年12月16日には、文理学部新聞部と教育学部出版局が、山形大学発展のために統一新聞の必要性を認め、新たに山形大学連合新聞会を組織すると共に、新しい山形大学新聞を発刊した。文理学部新聞部の「山形大学新聞」は28号まで発刊されたが新発足に当り教育学部の号数と合せて62号から発行した。更に1958（昭和33）年５月３日には農学部も連合新聞会に加わった（山形高等学校五〇年　山形大学文理学部二〇年記念会（編）1970）。

「山形大学大学史関係資料目録（一）」には、1957（昭和32）年～ 1966（昭和41）年にかけて発行された山形大学新聞が記載されているが、本学で所蔵する発行日の新聞は記載されてなかった（山形大学史資料研究会　2001）。なお、目録に記載されている山形大学新聞について山形大学附属図書館に照会したものの、現在では所在不明となっていて確認することができなかった。

4.6.2　山形嚶鳴新聞

大幅に変った授業体制

図18　山形嚶鳴新聞（昭和43年７月17日）

本学には、1964（昭和39）年６月18日１・２面、1968（昭和43）年７月17日１・２面、1969（昭和44）年７月１日２面、発行日・ページ数が不明な紙型1枚の計６枚の山形嚶鳴新聞が残っている。なお、発行日・面数が不明な紙型は、紙型を綴じ込む新聞紙の大きさに合わせるために上部を切り取ってしまってあるが、「題字」があるので１面である。

発行所は「県立山形西高等学校新聞部」、印刷所は「山形新聞社」とある。記事内容は学校生活や新任（教員）紹介など多岐に渡り、論説や「尖光」「西風」というコラム欄もある。新聞下部には商店の広告も入っており、一般紙と同じレイアウトとなっている（図18）。

「山形西高等学校百年史」によれば、「嚶鳴」とは詩経から採った文字で、1903（明治36）年７月12日には、在校生と卒業生、教職員の親睦と修養の組織である「嚶鳴会」が発会式を挙げた。「嚶鳴＝朋友相親み互に相戒め合う」の言葉は、当時、県立女子師範学校と高等女学校の二校が併設されていた同高校生徒の常に変わらぬ精神をあらわすものとして、また同高校の理想の姿をあらわすものとして強調され、継承されていった。そして運動部や文化部、それに同窓会も嚶鳴の名のもとに各地で広く活躍し、嚶鳴の名は県内はもとより全国的に知られるようになった（山形県立山形西高等学校創立百周年記念事業実行委員会記念史部会（編）1999）。

戦後の県立高校の統合と分離の流れの中で、山形南高から山形西高が分かれて発足したことにより、新聞部も独立して新聞を発行することになって、1952（昭和27）年９月に「嚶鳴新聞」が創刊された。この

年はこの創刊号だけであったが、翌年には、新しく結成された山形市内高等学校新聞連盟（山西・山東・山南・山工・山商で結成）が開催した新聞批評会に参加している。女生徒だけでの新聞発行は嚶鳴新聞が最初だったという（山形県立山形西高等学校創立百周年記念事業実行委員会記念史部会（編）1999）。

山形西高で所蔵されている山形嚶鳴新聞は1969（昭和44）年以降のものでしかなく、大きさも普通の新聞の半分の大きさで、印刷所も「小松印刷」であったという[25]。本学所蔵の新聞はこれ以前に発行されたものであり、既に新聞現物もないことから、山形西高の学校史を知る上でも貴重な資料と思われる。

4.6.3　山形新聞・山形放送社報

本学に所蔵されているのは「山形新聞・山形放送社報」の1968（昭和43）年７月16日の３～４面で、紙型１枚を横に使って２ページ分が紙型取りされている。掲載記事の見出しは「36時間の速報合戦　参院選開票番組」、「放送界へはばたく新人」、「東北初のテレビ放送　立ち会い演説　ついに選管説得」、「YBCが14本占める　テレビ視聴率ベスト20　トップは「そっくりショー」」などであった（図19）。

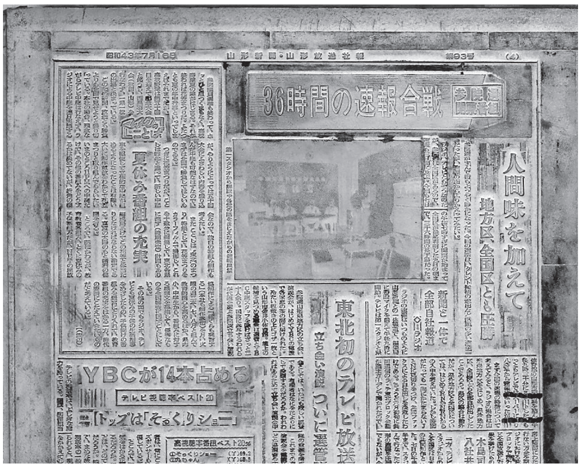


図19　山形新聞・山形放送社報
（昭和43年７月16日）

「山形新聞・山形放送社報」は社内報で、1953（昭和28）年３月５日に「山形新聞社報」として第１号が発行され、1957（昭和32）年１月からは「山形新聞・山形放送社報」に、1976（昭和51）年１月からは「山新グループ報」と名称を変え、山新グループ各社で現在取り組んでいる事業の紹介や社員の人事、慶弔などを掲載し各社の役員および社員に配布している。当初は不定期の発行だったようであるが、1957（昭和32）年１月以降は定期的に発行され、現在は年4回発行している。紙面の大きさはタブロイド判サイズで、新聞紙面のような体裁であり、グループ各社から寄せられた原稿や写真は、本紙と同じように新聞制作システムで編集し輪転機で印刷している[26]。

4.7　所蔵新聞目録の作成と米沢こども新聞について

本研究では新聞紙型の目録化と同時に、附属図書館に所蔵されている新聞原紙そのものの目録も作成した。所蔵新聞は寄贈分も含めて36種類であった（表14）。このうち、教育学術新聞は1955（昭和30）年から、米沢こども新聞、山形新聞、毎日新聞、朝日新聞は1958（昭和33）年から新聞原紙が所蔵されている。これらは最初、紙型用紙や厚紙で表紙をつけて綴じられていたが、その後は糸だけで綴じられるようになっ

図20　米沢こども新聞
（左）よねざわ小学生新聞と米沢中学生新聞の綴り表紙
（右）米沢こども新聞　第１号（昭和33年１月15日）

---

[25] 山形西高の学校司書である鐙水正美先生の話（電話取材、2019年３月１日）
[26] 山形新聞読者センターからのメール（2020年９月１日付）。

ている。

保存されている新聞の中には米沢や本学とゆかりの深いものがある。ここでは、米沢こども新聞（1958～1967年分を所蔵）、よねざわ小学生新聞（1967～1985年分を所蔵）、米沢中学生新聞（1967～1985年分を所蔵）を取り上げたい。これらの新聞は、手書きのボール紙表紙を付けて綴じられている（図20）。

米沢こども新聞は、松が岬公園に遊園地「児童センター」を開園した吉野正八が発行を呼びかけた米沢のこども向け新聞で、企画に参加したメンバーの中には、後に本学学長となる上村良作がいた。1958（昭和33）年１月に第１号が発刊され、市内の全小中学生に無料で配布された。1959（昭和34）年秋、新聞の資金づくりを主たる目的として「こども新聞」メンバーによる演劇公演「夕鶴」が行われたが、衣装は本学の全面協力があった。1966（昭和41）年には上村良作の誘いで、編集委員のボランティアとして本学国文科(ママ)の学生数人が参加した[27]という（高橋　2017、2018）。

1963（昭和38）年8月に米沢児童文化協会が設立され新聞の発行元となり、1967（昭和42）年６月第82号より「よねざわ小学生新聞」と「米沢中学生新聞」の２本立てとなった（高橋　2018）。その後、2012（平成24年）１月の第310号から「米沢小中学生新聞」となり（高橋　2017）、2019（令和元）年５月発行の340号をもって最終号となったが、市民活動として長く子ども向けの新聞を発行してきた事例は全国的に珍しいと報じられている（山形新聞　2019年６月８日）。

5　本学が所蔵する新聞紙型の来歴

5.1　新聞紙型が本学へ来た経緯

なぜ新聞紙型は本学の附属図書館に残っていたのだろうか。当時の司書への聞き取り[28]によると、昭和30年代に山形県立図書館に古文書解読の講習会に行った時に、三春さんという優秀な司書から、山形新聞で「ボール紙」がもらえると聞いて、図書館の近くにある山形新聞社に案内してもらって、もらいに行った。無料でもらっていて、なくなったら送ってもらっていた。そのうちに紙型用紙は使わなくなって、ボール紙の方がきれいだったのでそれを使うようになったという。また、新聞原紙を綴じる作業は見よう見まねで司書２名が行い、月初めの休館時にひと月分をまとめ、夏休みに表紙をつけたという。

この「三春さん」とは、三春伊佐夫のことだと思われる。三春伊佐夫は旧制山形中学卒業後、1985

新聞名	所蔵期間	新聞名	所蔵期間
朝日	1958-2017	毎日（日曜くらぶ）	2003-2005
朝日 (be)	2003-2006	文部広報	1964-2000
河北	1981-2015	文部科学広報	2001-2003
教育学術	1955-2001	山形	1958-2004
公短協	1984-2001	米沢	1984-2015
産経	1972-2015	米沢こども	1958-1967
私大通信	1989-1993	よねざわ小学生	1967-1985
週刊読書人	1999-2008	米沢中学生	1967-1985
出版ダイジェスト	1989-2001	米沢日報（週刊）	1998-2001
地域公団ニュース	1980-1991	米沢日報（日曜版）	1987-1999
中日夕刊	1998	読売	1963-2016
朝鮮時報	2001-2004	ヨミウリウェイ	1999-2001
図書	1999-2008	ASAHI おきたま TOWNNET	1999
日経	1987-2017	Herald Tribune(月刊)	2001-2002
日経流通	1986-2006	TESOL Motters	1994-2000
日本教育	1972	The Japan Times 週刊ST	2002
日本読書	1964	TLS	1990-2002
毎日	1958-2015	TLS（付録）	1990-2002

（注）A号館4階資料標本室所蔵分（2020年3月現在）のみ。

表14　山形県公立大学法人附属図書館の所蔵新聞名と所蔵期間

---

[27] 共同研究外部協力者で元米沢女子短期大学附属図書館司書の阿部絹子さんによれば、上村先生が推薦した学生2～3名が編集や取材をしていて、編集作業は当時、松岬公園内にあった児童センターで行っていたという。また、米沢こども新聞の表紙は本学の司書がつけたという。

[28] 共同研究外部協力者で元米沢女子短期大学附属図書館司書の阿部絹子さんが、元同僚の高橋淑子さんから聞いた話（筆者が2018年12月10日に阿部さんから聞き取りした）。

年に53歳で急逝するまで山形県立図書館や教育庁文化課、文化財専門委員を歴任し、歴史学特に近現代史の分野で大きな足跡を残した。そして業績の一つとして「古文書講習会の創設」が挙げられている（小形1987）。

当時は、家の取り壊しなどの際に古文書を図書館に持ってくる人がいたため、必要に迫られて司書が古文書の勉強をしていた。また、県立図書館の古文書解読講座は、のちに本学学長となる柏倉亮吉が講師を務めていたという[29]。

なお、本学が所蔵する最古の新聞紙型は1960（昭和35）年10月７日発行の山形新聞の紙面であることから、古文書解読の講習会があった「昭和30年代」とは昭和35年（1960年）頃であったと考えられる。

また当時の県立図書館は、旧山形県庁である文翔館の手前にある山形県県民会館（やまぎんホール）の位置にあった。他方、山形新聞社は現在と同位置にあって、両者は歩いて行ける距離に位置している。

さらに、前述したように本学所蔵の紙型には「米沢市米沢女子短大図書館」と大書されたもの（表13）も残っており、なくなったら送ってもらっていたことが分かる（図21）。

山形県立図書館には本学と同じように、使用済みの新聞紙型を綴り表紙にした新聞原紙が３冊現存している[30]（図22）。新聞原紙の製本形態は本学の附属図書館所蔵のものとよく似ており、本学の新聞紙型より古いものが残っていることから、山形県立図書館では本学が使い始める以前から紙型を利用していたと思われる。山形県立図書館が所蔵する、新聞紙型を表紙として綴じてある新聞原紙の簿冊は以下の通りである。

図21　「米沢市米沢女子短大図書館」と書かれた紙型（山形新聞、昭和35年12月５日）

（１冊目）

表表紙：山形新聞の紙型　昭和29年７月22日１面　41.5cm×56.2cm

裏表紙：山形新聞の紙型　昭和29年７月23日３面　42cm×56cm　裏に紫色の丸いハンコで「YOSHIDA」らしき印字あり。

中　身：図書新聞　昭和29年１月１日～ 12月18日　左側３カ所を糸でとめてある。背表紙に寒冷紗と赤い紙が使われている。

（２冊目）

表表紙：山形新聞の紙型　昭和33年６月23日　６面　42.2cm×56cm　裏に緑色の丸いハンコで「YOSHIDA TYPE・T54・吉田製紙株式会社・千住」と読み取れる印字あり。また緑色の印字で「HB」もあり。

裏表紙：山形新聞の紙型　昭和32年12月23日　１面　42.6cm×56.4cm　裏に緑色の丸いハンコで「YOSHIDA

---

[29] 共同研究外部協力者で元米沢女子短期大学附属図書館司書の阿部絹子さんの話。

[30] 山形県立図書館経営課調査相談主査の小関智子さんによれば、新聞原紙は県立図書館で保存してあるが、表紙は普通の厚紙になっている。よく利用されたものは表紙が傷んで厚紙に交換されたが、この3冊は図書新聞なので利用が少なく、新聞紙型の表紙が残ったのではないかという。

TYPE・137・吉田製紙株式会社・千住」と読み取れる印字あり。また緑色の印字で「HB」もあり。
中　身：図書新聞　昭和34年１月１日～ 12月19日　左側２カ所を糸でとめてある。

（３冊目）
表表紙：山形新聞の紙型　昭和37年４月13日　端が裁断されているのでページ不明。
40.3cm×53.7cm　光文社が2000万部突破との全面広告のページ。
裏表紙：山形新聞の紙型　昭和37年４月17日３面　40.5cm×53.7cm
中　身：図書新聞　昭和37年４月７日～ 12月15日　左側３カ所を糸でとめてある。小口が紙型ごと裁断されている。

5.２　本学に紙型が来た頃の附属図書館の状況

1963（昭和38）年に米沢女子短期大学は米沢市立から県立に移管されたが､現在の場所に新築移転するのは1972（昭和47）年である。従って、附属図書館で紙型を使って新聞原紙を綴じていた1960（昭和35）年から1969（昭和44）年までの時期には、まだ山形県立米沢東高校の中に校舎があった頃になる。

図書館は、開学時は米沢東高校正面玄関から入って右角の１室にあり、1953（昭和28）年からは同高校の東南の一隅にあった調理室に移転、1961（昭和36）年９月には同高校寄宿舎跡にあるユニットキッチン室、1962（昭和37）年２月には隣接する調理実習室と食器庫、同年夏休みには大学学生ホールへと移り、同年10月27日に、大学校舎内の家庭管理実習室とその準備室として予定されていた場所に「附属図書館」のネームプレートを掲げるに至った。このように「ジプシーのように図書室が移転していた」ため、手狭であったり、湿気が多い場所もあった。またこの間、1959（昭和34）年９月には伊勢湾台風でポプラの大木が書庫を直撃し図書が雨ざらしになったり、1964（昭和39）年６月には新潟地震で図書館書架が全倒壊し、机・椅子破損の大被害を受けた（米沢女子短期大学創立五十周年記念事業実行委員会五十周年記念誌発行部会（編）2003)。本学にはその新潟地震を伝える記事の紙型も残っている（図23)。

図22　山形県立図書館に残る新聞紙型
（山形新聞、昭和29年７月22日１面）

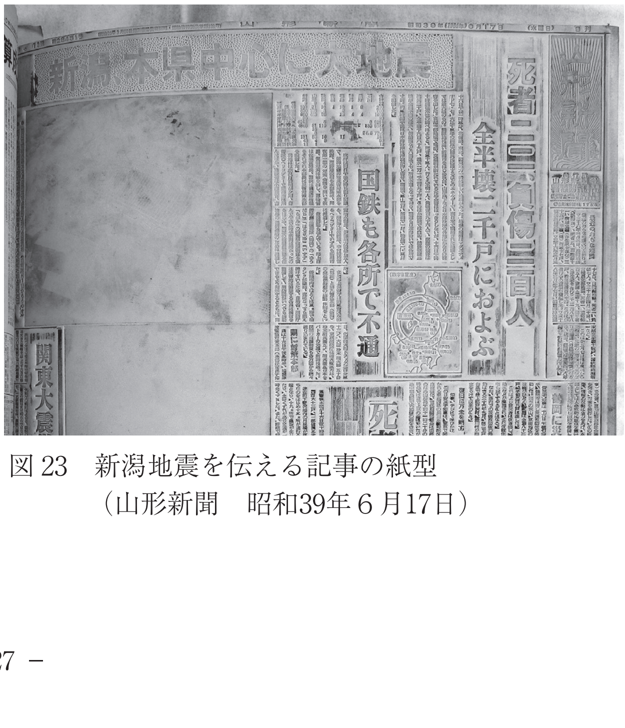

国鉄も各所で不通
全半壊二千戸におよぶ

図 23　新潟地震を伝える記事の紙型
（山形新聞　昭和39年６月17日）

1968（昭和43）年５月には閉架式から開架式に変更された後（米沢女子短期大学創立五十周年記念事業実行委員会五十周年記念誌発行部会（編）2003)、1972（昭和47）年８月に附属図書館は新校舎（現在のA号館）1階に移転し、開学以来初めて、図書館専用に施工された施設となった。当初、書庫は電動書架で閉架式を考えたが、全国的に大学図書館が開架式の傾向にあり、館員の定員増も困難な状況を考慮し、急遽書庫スペースの倍

増を図り、地下に掘り下げる設計変更がなされ、二層300平方メートルの開架式書架が出来上がった。これにより、1962（昭和37）年から盛夏に行ってきた全図書の曝書は和書だけで済むことになった（米沢女子短期大学創立三十年誌編集委員会（編）1982）。

その後、学科増設計画と併せて新たな図書館建設計画がはじまり、1983（昭和58）年11月に新図書館、つまり現在の図書館の場所（B号館１・２階）へ移転した。この新図書館の特色の一つとして、密集書架を設け、雑誌のバックナンバーや新聞の保管用として、常時閲覧できるようにしたことが挙げられている（米沢女子短期大学創立四十周年誌編集委員会（編）1992）。

「山形県立米沢女子短期大学創立五十周年記念誌」の年表・資料によれば、紙型を山形新聞社からもらって来た高橋淑子さんは1959（昭和34）年から、阿部絹子さんは1962（昭和37）年から、事務局の図書館担当として勤務している（米沢女子短期大学創立五十周年記念事業実行委員会五十周年記念誌発行部会（編）2003）。

高橋淑子さんは1956（昭和31）年４月に設置認可された米沢女子短期大学国語科の第1期生で、司書として1959（昭和34）年４月から1977（昭和52）年３月までと、図書館管理係長として1981（昭和56）年４月から1986（昭和61）年３月までの計22年間在職した（米沢女子短期大学創立五十周年記念事業実行委員会五十周年記念誌発行部会（編）　2003）。一方、阿部絹子さんは1962（昭和37）年に国語科を卒業して以来、2001（平成13）年３月末まで母校の図書館一筋に勤務した（山形県立米沢女子短期大学同窓会「さわらび会」編　2003）。

「山形県立米沢女子短期大学三十年誌」には、新聞原紙の合綴について「学術雑誌や新聞の全国紙二種、地方紙一種については、文化・家政系の記事索引が作成されており、三四年からの新聞は月毎に合綴されている。五三年から全国紙二種の縮刷版を購入しているが、地方版だけは合綴して利用に供している」と記述されている（米沢女子短期大学創立三十年誌編集委員会（編）1982）。つまり、附属図書館所蔵の新聞原紙が合綴されて保存されるようになったのは1959（昭和34）年以降のことであり、前述したように附属図書館が山形新聞社から紙型をもらうようになったのは1960（昭和35）年頃と考えてよいだろう。合綴作業の際には、手が黒くなりぬるぬるした感触があったり、目打ちが曲がってまっすぐ刺さらなくて大変だったそうである[31]。

5.3　本学に紙型が来た頃の山形新聞社の状況

附属図書館が新聞紙型をもらい受けていた頃の山形新聞社は、ラジオ・テレビ放送開始や新社屋への移転、中央紙の地方進出に対抗するための活版印刷のオートメーション化と新聞の増ページ化が進んでいく時期であった。

山形新聞社は1956（昭和31）年８月に、池貝鉄工製の山新式FA型超高速度輪転機を導入し、活字鋳造機3台、写真製版機1台を増設した。そして1956（昭和31）年後半からは県下各地の詳細な報道を目指し「庄内版」「内陸版」「市内版」の3版制を実施した（後藤　1966、年表・山形新聞120年編纂委員（編）1996）。本学の附属図書館が所蔵する新聞紙型にも、これら地域版の紙面が数多く含まれている。

1959（昭和34）年４月１日からは、夕刊４ページ、朝刊６ページの10ページ建てとなった。夕刊１面ではニュースよりは読み物と解説に主力を注ぎ、親しみ易い紙面とし、２面は文化、映画、家庭、ふるさと芸能、子供、婦人などの欄を交互に特集し、日曜付けには特に地方経済欄とすることにした。３面、４面は従来通りニュースと解説に向けた。朝刊は１、２面は従来通りだが、３面にはラジオ・テレビ版の外に毎日約５段分のスポーツニュースを入れ、４面は全部をスポーツ記事に当てる。５面は従来通りの社会面で６面に新しく地方総合版を創設した（後藤　1966）。

この頃、たまたま中央各紙が毎日12ページ建てとなる臨時増ページ競争時代に入り、定価も値上げして、

---

31 高橋淑子さんの手紙（2020年９月１日付）および阿部絹子さんの話。

猛然と地方進出を狙い、新聞製作工程に於いても、従来の東京本社と地方読者との距離短縮をするために「朝日」はハイスピードファクシミリからオフセット印刷に切りかえ、「毎日」「読売」はモノタイプ遠隔操作、ホーガン文字電送、漢字テレタイプなどの活用による技術革新を図っていた。これ等は地方新聞の距離的優位性をおびやかす事になるのは必定で、これに対抗する地方新聞としては中央紙に負けないだけの新聞製作工程の完全機械化より外はない。「山形新聞」服部社長の方針も全面的にこれをとり入れ、新社屋の建設と並行して飛躍的な諸設備の機械化、オートメーション化を急速に進行していくことにし、先ず共同通信社との間に漢字テレタイプの送受信について打ち合わせ、その実現についての準備に入った。同時に1959（昭和34）年７月には時速15万枚刷りの山新式FA-2型高速度輪転機一基、モノタイプ4台、赤外線紙型乾燥機、ローリング各１台その他の附属機械一式を増設した（後藤　1966）。

1960（昭和35）年には新社屋の山形新聞放送会館が完成し、本社移転した。明治末期に建設された七日町の社屋は狭く、将来の飛躍を考えれば移転が必要となっていた。旅籠町の新社屋は新聞、テレビ、ラジオを包含する日本最初のマスコミ総合ビルとなった。新聞はまだ鉛活字で印刷する時代で、活版室には「馬」と呼ばれる活字台が並んでいた。しかし、社屋移転を機に諸機器のオートメーション化を図り、活字を鋳造しながら自動的に組み上げる鋳植機を設置し、共同通信の配信記事と同様に自社記事も自動組みするため漢字テレタイプ方式を採用した（年表・山形新聞120年編纂委員（編）1996）。これが実現すれば送信者（共同通信）がテレタイプをたたくと受信者（山形新聞）のセットに孔のあいたテープが流れ出て同時にその原稿が印字される仕組みで、整理者はその原稿を見て取捨順序をきめ、工場ではこのテープを全自動モノタイプにかけると活字は自動鋳植されて１行15字詰めの小組みが出来あがる。従って、文選、植字の手数が省け、時間的にも労力的にも画期的な節約が出来ることになる。また、支社支局と本社との間にこれが活用されるとすれば十分にそのオリジナリティも発揮され（庄内と本社間の漢字テレタイプ制は1962（昭和37）年実施）、ローカル色も生かすことが出来て、新聞作製に一大革命をもたらすことになるとされた（後藤　1966）。

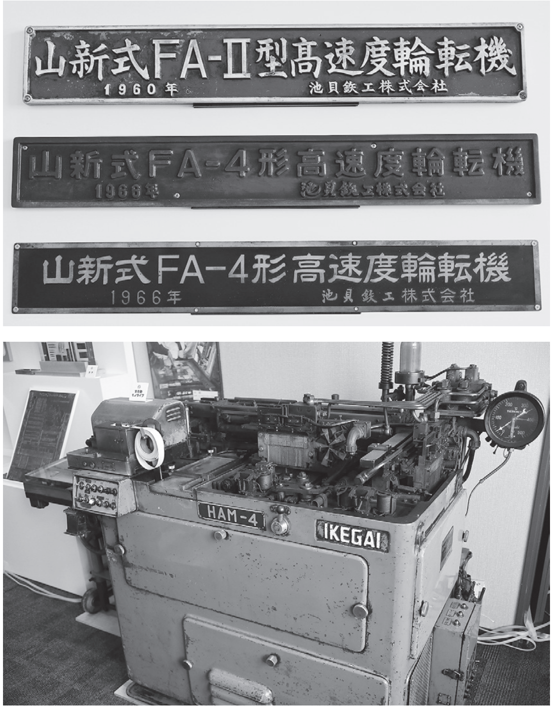


図24　輪転機のプレート（上）と
全自動モノタイプ（下）
（山形新聞社印刷センター所蔵）

1960（昭和35年）７月には朝夕刊12ページ建てとし、完全3版制を実施し、地方問題の解説、地域文化の開発、地方家庭と密着した婦人欄、文化欄、地方出版に重点をおく読者欄等の充実をはかり、地方新聞としての特殊性を強化することになった。それと同時に工程の機械化を進め、FA型超高速輪転機、オートプレート、オートセーパー[32]、漢字テレタイプ、全自動モノタイプ、同手動モノタイプなどを発注した（図24）。新社屋は７月中に略々完成を見て、20日までに印刷機械設備の移転を終わり、10月７日に落成式が行われた（後藤　1966）。

1961（昭和36）年10月１日には工場部門の完全オートメーション化を実施、全自動モノタイプ、漢字テレタイプを増設、写真植字機、高速度腐蝕機、荷造り梱包機を導入した（年表・山形新聞120年編纂委員（編）1996）。これに関して後藤（1966）には、増設されたFA-4型高速輪転機、キャリアーを通って印刷から発送まで自動化されている様子、最新のC2式横型鉛版自動鋳造機の写真が掲載されている。また後藤（1971）

---

[32] オートシェーパーのことだと思われる。

には、オートキッパー（横型C-2式自動円（ママ）版鋳造機）、オートシェーパー（横型鋳造用裏仕上機）、竪型自動焦点カメラなども導入されたことが述べられている。

これらはすでに活動している編集の漢字テレタイプ２セット、および工務の全自動モノタイプ、手動モノタイプ４台とあいまって、作業時間の短縮、ひいては、消化能力の増強、ニュース報道の時間的拡大をもたらすもので、地方新聞としては画期的な近代化が実現されたことであり、従来、置賜地方には鉄路輸送していたものも陸送（自動車）に切りかえ、東京各紙よりも早く配達できるようになった（後藤　1966）。

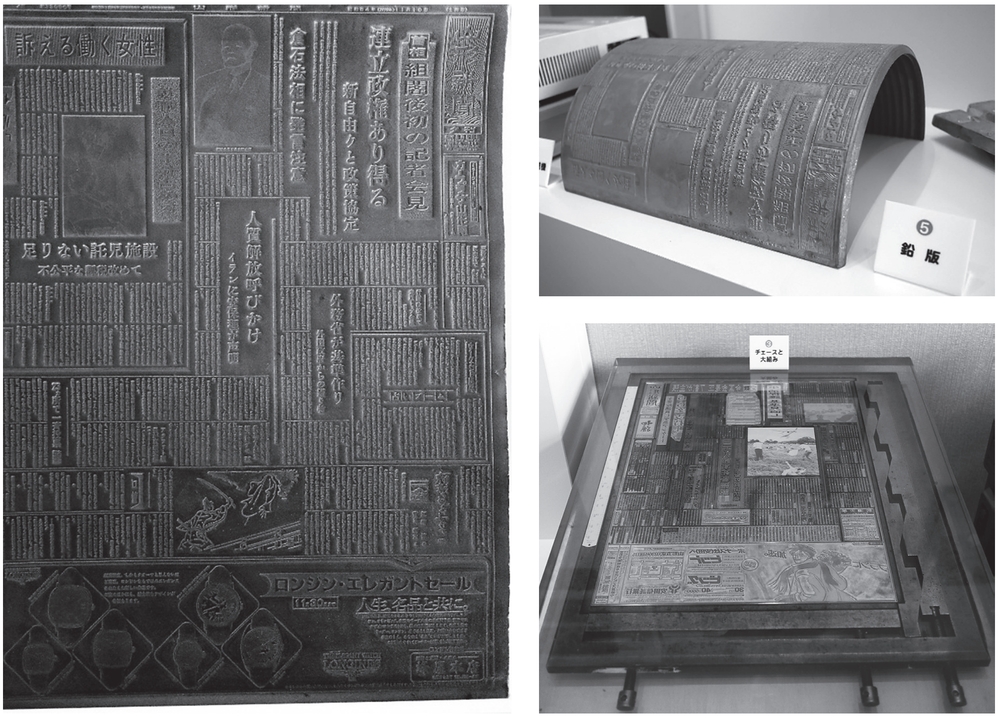


図25　山形新聞の紙型（左）・鉛版（右上）・チェースと大組み（右下）
（山形新聞社印刷センター所蔵）

1962年（昭和37）年４月１日には鶴岡に庄内支社を開設し、漢字テレタイプを装置して「庄内版」を現地編集した。この年に「置賜版」も発行し、「庄内」「内陸」「置賜」「市内」と地方版を４版制にした（後藤　1966、年表・山形新聞120年編纂委員（編）1996）。1963（昭和38）年９月に置賜支社を新築し、写真電送機、漢字テレタイプ装置を配置した（年表・山形新聞120年編纂委員（編）1996）。

1965（昭和40）年４月には月20頁を増ページし、1966（昭和41）年５月31日には山新式FA-4型超高速度輪転機２台を増設、その他オートキッパー（自動鉛版鋳造機）、オートシェーパー（自動鉛版仕上機）など14種類にわたる新鋭機器を導入し、設備を近代化した（後藤　1966、後藤　1971、年表・山形新聞120年編纂委員（編）1996）。また、1966（昭和41）年７月にはグラビア高速度輪転機によるカラー特集を発行した（年表・山形新聞120年編纂委員（編）1996）。

1972（昭和47）年２月12日には、１基につき４ページ建てで、１時間に15万部の印刷能力がある超高速輪転機２基が始動した（年表・山形新聞120年編纂委員（編）1996）。しかし、その後は紙型鉛版法による活版印刷から、オフセット印刷とコンピュータシステム（CTS）による新聞制作の時代へと変わっていく[33]。1982（昭和57）年７月３日には、電子編集システム・CTSの第１陣、集配信・校正システムの始動式があり、1984（昭和59）年10月25日には紙面をコンピューターシステム（CTS）で制作するための機器の設置をほぼ終え、システムの愛称を「シリウス」と命名し、第１段階として「ラジオ・テレビ」「経済」面で電子編集を始めた。1985（昭和60）年７月28日夕刊が28日組から全面的に電子編集・CTSに移行し、1986（昭和61）年１月１日から山形新聞全紙面がコンピューターシステム（CTS）での制作に移行した。９月１日に山形新聞は創刊110年を迎え、９月27日に最新鋭の多色刷りオフセット輪転機2台の増設工事を終え、始動した（年表・山形新聞120年編纂委員（編）1996）。

[33] 山形新聞社OBの佐々木猛さんによれば、山形新聞で紙型が使われていたのは1979（昭和54）年までであった。

5. 4　山形新聞における紙型使用について

山形新聞社では当時、紙型は使い捨てで、気にも留めずほしい人にはあげていたため[34]、入手は簡単だったと思われる。しかし今ではガラスに閉じ込めた僅かな活字と鉛版２枚、紙型１枚が現存するのみという[35]。

山形新聞社印刷センターには、その鉛版や紙型、ガラスに閉じ込められたチェースと大組みなどの実物が展示されている（図25）。紙型と鉛版は山形新聞夕刊の1979（昭和54）年11月10日１面のもので、紙型の表面は酸化のため黒くなっているが、元々は黄色かったという。裏面はくすんだ黄色で､社名等や書き込みはなく、「置・内・市」という赤いスタンプが押してあるだけである。裏貼りの紙色も赤灰色で、本学が所蔵している紙型とは外観が異なっているように見える。

図26　（上）チェースに活字を組むところ（手前）と紙型を作るためのプレス工程
（下）プレス後、紙型を剥がすところ
（山形新聞社、1979年11月30日撮影）

山形新聞社OBの佐々木猛さん（昭和43年入社）によると、入社時からヨシダタイプはなく、緑色と黄色の2種類の紙型を使っていた。緑色がミノタイプでウエットドライ（メーカーで加湿されて来る）だった。黄色がカシオタイプでドライタイプ（水分を含んでいない）のため、スプレーガンで水分を裏からかけて、１日寝かせていた。２種類の紙型は同時に使っていたが、収縮率が違うのでそれぞれ区別していた。黄色い方は収縮率が小さいので水分が多くても縮まない一方、緑色の方は収縮率が大きいので、水分が多いと乾燥をしっかりしないといけなかった。新聞社から製紙会社への注文は、ドライからウェットに変わった時に水分量を25ｇに指定することはあった。紙型を鉛版から剥がす時に紙がむけるが、紙型で白くなった所がそれである。紙型の上にはタルク（顆粒の白い粉）を撒いていた。鉛合金の温度は360度で、キッパーが2台あったため室温は40度にも上り、塩をなめて働いたという。

図26に掲げたように、山形新聞社にはチェースに活字を組むところと、紙型を作るためのプレス工程およびプレスされた紙型を剥がすところの写真が残っている[36]。この紙型を乾燥機にかけたのち、キッパー（ママ）（鉛版製造機）[37]に取り付け、半円状の鉛版を作るという。

6　おわりに 〜 保存と活用に向けて

本論文では、紙型鉛版法や紙型用紙、紙型メーカーなどについてまとめた後、本学の附属図書館所蔵の新聞紙型の資料調査を行い、紙型や新聞原紙の目録作りを行って、その特徴を明らかにしてきた。また、

---

[34] 新聞紙型を新聞製作の研究資料として公共団体に無料で贈呈した例としては、1928年の東京朝日新聞の事例がある。この広告記事によれば、新聞製作順序の研究資料として、各学校、博物館、図書館、在郷軍人会、青年団、教育会、婦人会などの団体に限り、荷造料、送料実費を送付すると本紙1ページの紙型を申込順に送るとしている（朝日新聞（東京朝刊）1928年６月16日）。

[35] 山新オフセット　岡崎淳さんのメール（2019年３月５日付）。

[36] 山新オフセット　岡崎淳さんのメール（2019年３月５日付）および山形新聞社読者センターのメール（2019年３月13日付）。

[37] 山形新聞社OBの佐々木猛さんによれば、オートプレートで鋳造した鉛版はノンブルより10㎝のヘタができるが、キッパーで鋳造した鉛版はヘタが15㎜と小さい。

新聞紙型が本学にやってきた来歴や、当時の附属図書館や山形新聞社の様子もまとめた。

調査を通して、本学の附属図書館所蔵の紙型は、①保存状態のよい新聞紙型が大量に残っていること、②使用済み紙型なので、裏貼りや裏面への書き込み、鉛版鋳造後の紙型表面の色の変化などといった、紙型鉛版法の作業内容が分かること、③一般紙である山形新聞以外に学校新聞や社内報の紙型も含まれており、学校史や社史の史料としても貴重であること、といった点が特長として挙げられる。

加えて、これらの紙型がいつ頃、どのようにして本学にやってきたのかという来歴がかなり明らかになっている点も、資料的価値が高いと思われる。本学で保存されてきた新聞紙型と新聞原紙は、当時の附属図書館において若い司書たちが奮闘していた様子を伝え、また山形新聞社においては、活版印刷による新聞製作の機械化が進んでいく当時の現場の様子を伝えているのである。

新聞原紙が保存されていれば、縮刷版ではわからないカラー紙面や、各地域版の紙面も読むことができる。筆者らは附属図書館所蔵の新聞原紙自体の目録作りも行ったが、その過程で「米沢こども新聞」などのように、本学や地域とゆかりの深い新聞が残っていたことも、今回の研究で明らかにすることができた。

本論文ではまた、先行研究がほとんどない使用済み紙型や紙型用紙の色についても考察することができた。しかしながら、ヨシダタイプ以外の紙型のメーカーを特定する方法や、裏面の書き込みの解明など、分からなかった点もまだ多く、今後の研究に期待したいところである。メーカー名が印刷されていない紙型の製造元が、紙型の色や形態から弁別できるようになれば、今後、紙型の資料調査を行う際に役立つことだろう。

活版印刷の衰退とともに紙型に関する記憶は当時の関係者の間でもあいまいになってきており、忘れ去られつつある。紙型自体も、本来は故紙として再利用されてしまうものなので、本学のように現在まで大量に残っているといった事例はかなり貴重なことであろう。

各地の図書館においても、古い新聞原紙を処分してしまう所も少なくないと聞く。しかし、紙型であれ普通の厚紙であれ、表紙を付けて月別に新聞原紙を綴じて製本化して残してあったということは、将来に渡る新聞原紙の閲覧利用を前提として保存されていたからであろう。このような工夫は、本学の財政事情から縮刷版が買えなかった新聞や、そもそも縮刷版が出版されない新聞を、学生たちに何とか利用させたいという意図によるものであった。

共同研究外部協力者であり、本学の附属図書館の司書でもあった阿部絹子さんは、今回の共同研究で目録を作っても、利用がなければやがて捨てられるので、新聞原紙をずっと研究で使ってもらうことが必要だ、と警鐘を鳴らしている。

まずは、今回作成した紙型や新聞原紙の所蔵目録を活用して、図書館利用者が紙型や新聞原紙を閲覧できるようにするのが重要であろう。その際は、脱酸化処置のような保存処理はコストが高い上に、これまでの紙の劣化を元に戻せるわけではないので、もしも破損した場合は修復をしながら、利用と保存を両立させていくのが現実的だと思われる。ただし表紙なしでそのまま綴じられている新聞原紙は、一番上のページの「日焼け」が進んでいたので、日の当たらないように保存するのがよいだろう。また、今回の資料調査では、紙型の裏貼りに使われていた細長いねずみ色の紙片が、作業中に剥がれて落ちてしまう事例が少なからずあった。この紙型の裏貼りの補修については、紙工作用の糊、接着剤をお勧めするとの回答を得ている[38]。

図27　生活文化史Ⅰの授業風景
（2019年12月24日）

次に、新聞紙型や新聞原紙を将来に渡って保存し続

[38] 山新オフセット　岡崎淳さんからのメール（2019年３月５日付）。

けるためには、教育や研究での活用を図って、その価値を後世に伝え、利用者を育て続けなければならない。教育への活用事例としては、例えば本学日本史学科の「生活文化史Ⅰ」での取り組みが挙げられる。この授業では、活版印刷と活字の説明をする際に、錦絵や活字本、木版画とともに新聞紙型の実物を教室内の学生に回覧させたり、資料標本室で学生に紙型を直接見学させるといった形で、毎年、新聞紙型を活用している（図27）。このような取り組みをさらに増やして、新聞紙型や新聞原紙の保存を図らなければならないだろう。

最後に、本論文の作成にあたって多くの方々の協力を得た。共同研究外部協力者の阿部絹子さんを始め、問い合わせや取材に応じて頂いた新聞社、製紙会社、図書館、博物館の方々、そして暑い夏も雪降る冬も、大量の新聞紙の山を台車と荷物用エレベーターでA号館の１階から４階まで移動させ、手作業で１冊１冊ずつ欠号を探しながら目録作りを行って頂いた山形県立米沢女子短期大学の学生たちに感謝の意を表して筆をおくことにする。

7　引用文献

足立区観光協会　1961　足立区の観光と産業　足立区観光協会
「鉛版工の汗」刊行委員会　2000　鉛版工の汗　「鉛版工の汗」刊行委員会
深田一弘　2015　新聞製作技術の軌跡　その5　紙型鉛版　CONPT　39（3）16-18
後藤嘉一　1966　続山形縣新聞史話　山形新聞社
後藤嘉一　1971　続・山形県新聞史話＝1970年代前期＝　山形新聞社
長谷川勝三郎　1950　紙型用紙並に新聞用紙に就いて　パルプ紙工業雑誌　4（5）23-29
飯坂義治・武捨久男　1966　実用印刷技術　産業図書
印刷情報編集部　1953a　ドライマットの発展を探る　―吉田製紙株式会社―　印刷情報　13（6）19
印刷情報編集部　1953b　座談会　濕式紙型と乾式紙型　印刷情報　13（7）36-41
印刷情報編集部　1957　市場の紙型用紙　印刷情報　17（4）23
印刷情報編集部　1962　創業30周年を祝う　日米野球に招待（吉田製紙KK）　印刷情報　22（12）145
印刷：Printing monthly 編集部　1951　工場巡礼　二十年苦闘の成果　―吉田製紙KK―　印刷：Printing monthly　34（11）33
小堀正三等　1962　現代印刷技術総覧　日本印刷新聞社
年表・山形新聞120年編纂委員（編）1996　県民とともに120年　山形新聞社
日本新聞協会（編）1976　日本新聞協会三十年史　日本新聞協会
小形利彦　1987　三春伊佐夫氏を悼む　山形史学研究　21・22（合併号）58-59
紙業タイムス社出版部（編）1983　オールペーパーガイド― 紙の商品事典　上巻・文化産業篇　紙業タイムス社
志田清（編）　1953　われらの印刷技術　紙型鉛版篇　昭和28年版　朝日新聞社
高野和容他　1954　紙型の可塑性　印刷雑誌　37（12）38-43
高橋捷夫　2017 「米沢の心」を育てたい！　～「米沢こども新聞（現・米沢小中学生新聞）」の歴史と現在の課題～　あずまね　34　69-81
高橋捷夫　2018 「少年小説を書きたい」－小野榮さんが「こども新聞」にかけた想いを考える―　米沢文化　17　62-65
竹原悟　1963　紙型用紙の研究　日本印刷学会論文集　6（14）20-25
武捨久男　1960　紙型・鉛版用機器の問題点　印刷雑誌　43（4）10-15
田中治助　1988　紙型づくり三代　新聞経営　102　37-40
寺西二郎他　1957　紙型どりの技術と科学　印刷雑誌　40（5）6-12
特種製紙五十年史編纂委員会（編）1976　特種製紙五十年史　特種製紙株式会社

右田伸彦　1956　新しく決ったパルプ略号の解説　紙パ技協誌　10（7）357-359
山形大学史資料研究会　2001　山形大学大学史関係資料目録（一）山形大学史資料研究会
山形高等学校五〇年　山形大学文理学部二〇年記念会（編）1970　山形高等学校　山形大学文理学部五十年史　山形高等学校五〇年　山形大学文理学部二〇年記念会
山形県立山形西高等学校創立百周年記念事業実行委員会記念史部会（編）　1999　山形西高等学校百年史　山形県立山形西高等学校創立百周年記念事業実行委員会
山形県立米沢女子短期大学同窓会「さわらび会」（編）　2003　さわらび　－山形県立米沢女子短期大学同窓会「さわらび会」五十周年記念誌－　山形県立米沢女子短期大学同窓会「さわらび会」
米沢女子短期大学創立五十周年記念事業実行委員会五十周年記念誌発行部会（編）　2003　山形県立米沢女子短期大学創立五十周年記念誌　山形県立米沢女子短期大学
米沢女子短期大学創立三十年誌編集委員会（編）1982　山形県立米沢女子短期大学三十年誌　山形県立米沢女子短期大学
米沢女子短期大学創立四十周年誌編集委員会（編）1992　山形県立米沢女子短期大学四十周年誌　山形県立米沢女子短期大学
吉田梅太郎　1952　新聞用と雑誌用　印刷:Printing monthly　35（2）17-18
YZ生　1954　硬化樹脂による鉛版紙型裏貼り　印刷情報　14（9）10

（韓国語文献）
신문박물관（편）2001 활판인쇄로 신문만들기 신문박물관（新聞博物館（編）　2001　活版印刷で新聞作り　新聞博物館）
신문박물관（편）2013 신문박물관 PRESSEUM　신문박물관（新聞博物館（編）　2013　新聞博物館 PRESSEUM　新聞博物館）

（付録）山形県公立大学法人附属図書館所蔵　新聞紙型目録　　（2020年8月20日現在）

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
1	2C	不明	不明	不明	54.5	43.0	1443	山形	S36.12	黄色		水色		マジックで「15」
2	2C	山形	不明	不明	53.7	42.7	1444	山形	S36.12	黄色	レモン	水色		マジックで何か記載あり
3	2C	山形	不明	不明	54.9	43.0	1445	山形	S36.11	水色		水色		山形新聞日曜版
4	2C	山形	S35.12.2	3	54.2	41.7	1446	山形	S36.11	水色		水色		紫色インクで「BH901ドライマット　ヨシダ　YOSHIDA（マーク）TYPE」
5	2C	山形	S35.11.29	4	54.7	42.8	1447	山形	S36.10	水色		水色		市内版
6	2C	山形	S35.12.(不明)	4	55.0	43.0	1448	山形	S36.10	水色		水色		内陸版
7	2C	山形	S38.6.2	3	54.8	42.8	1449	山形	S36.09	黄色	レモン	水色		
8	2C	山形	S38.6.2	8	55.1	43.1	1450	山形	S36.09	黄色	レモン	水色		
9	2C	山形	S36.3.30	2	56.0	43.0	1452	山形	S36.08	水色		水色		
10	2C	山形	S35.12.22	4	55.9	42.6	1453	山形	S36.08	水色		水色		庄内版。BH901 YOSHIDA (マーク) TYPE
11	2C	山形	S35.12.3	2	56.0	42.9	1454	山形	S36.07	水色		黄色	青っぽい黄土色	YOSHIDA (マーク) TYPE BH901
12	2C	山形	S36.3.26	5	55.9	42.9	1455	山形	S36.07	水色		黄色		YOSHIDA (マーク) TYPE BH205 ヨシダ（マーク）タイプ
13	2C	山形	S35.12.4	4	55.9	43.0	1456	山形	S36.06	水色		水色	青っぽい（くすみ）	YOSHIDA (マーク) TYPE BH901
14	2C	山形	S35.12.5	3	55.9	43.0	1457	山形	S36.06	水色		水色	青っぽい（くすみ）	YOSHIDA (マーク) TYPE BH901
15	2C	山形	S36.3.28	3	55.9	43.0	1458	山形	S36.05	水色		水色	青っぽい（くすみ）	YOSHIDA (マーク) TYPE BH205。鉛筆で「55」。15と422は同一紙面
16	2C	山形	S36.3.28	4	56.0	43.0	1459	山形	S36.05	水色		水色	青っぽい（くすみ）	市内版。鉛筆で何か記載あり
17	2C	山形	S36.3.28	4	56.0	43.0	1460	山形	S36.04	水色		水色	青っぽい（くすみ）	庄内版。YOSHIDA (マーク) TYPE BH205。鉛筆で「56」
18	2C	山形	S36.3.28	1	55.7	43.0	1461	山形	S36.04	水色		水色	青っぽい（くすみ）	夕刊。YOSHIDA (マーク) TYPE BH205。鉛筆で「56」
19	2C	山形	S36.3.27	1	55.9	42.8	1464	山形	S36.03	水色		水色	青っぽい（くすみ）	YOSHIDA (マーク) TYPE BH205。鉛筆で「55」
20	2C	山形	S35.10.13	3	55.8	43.0	1465	山形	S36.03	水色		水色	青っぽい（くすみ）	YOSHIDA (マーク) TYPE BH887。鉛筆で「55」
21	2C	山形	S35.12.7	4	55.9	42.8	1466	山形	S36.02	水色		水色	青っぽい（くすみ）	庄内版。YOSHIDA (マーク) TYPE BH901。鉛筆で何か記載あり
22	2C	山形	S35.12.7	1	55.8	42.8	1467	山形	S36.02	水色		水色	青っぽい（くすみ）	YOSHIDA (マーク) TYPE BH901。鉛筆で「54」
23	2C	山形	S35.10.12	3	55.8	42.9	1469	山形	S36.01	水色		色あせ		YOSHIDA (マーク) TYPE BH887
24	2C	山形	S35.10.13	1	56.0	42.7	1470	山形	S36.01	水色		水色	青っぽい（くすみ）	夕刊。YOSHIDA (マーク) TYPE BH887
25	2C	山形	S35.12.4	8	55.8	42.7	1471	山形	S35.12	水色		色あせ		YOSHIDA (マーク) TYPE BH901
26	2C	山形	S35.12.1	2	55.9	43.1	1472	山形	S35.12	水色		水色	青っぽい（くすみ）	YOSHIDA (マーク) TYPE BH901
27	2C	山形	S36.3.30	2	56.0	42.9	1473	山形	S35.11	水色		水色	青っぽい（くすみ）	YOSHIDA (マーク) TYPE BH205。鉛筆で「56」
28	2C	山形	S36.3.30	3	56.1	43.0	1474	山形	S35.11	水色		水色	青っぽい（くすみ）	YOSHIDA (マーク) TYPE BH205
29	2C	山形	S36.3.28	3	56.0	43.0	1475	山形	S36.10	水色		色あせ		YOSHIDA (マーク) TYPE BH205。鉛筆で「55」
30	2C	山形	S36.3.29	4	56.0	43.1	1476	山形	S36.10	水色		水色	青っぽい（くすみ）	市内版。YOSHIDA (マーク) TYPE BH205
31	2C	山形	S36.3.31	3	56.1	43.0	1477	山形	S35.09	水色		色あせ		YOSHIDA (マーク) TYPE BH（番号不明）。鉛筆で何か記載あり
32	2C	山形	S36.3.31	6	56.0	43.1	1478	山形	S35.09	水色		色あせ		総合版。YOSHIDA (マーク) TYPE BH205。鉛筆で何か記載あり

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
33	3A	山形	S39.6.18	5	55.5	42.0	1479	山形	S39.12	黄色		黄色		黄色インクで「YOSHIDA (マーク) TYPE R393」。鉛筆で「6-3」
34	3A	山形	S39.6.18	2	55.4	41.8	1480 1481	山形	S39.12	黄色		水色		青ペンで「ツブス」「Mの字全部.」「ツブシて下さい.」「ステロ不完全の様」「それから」「Pモダヨ.」。他にも何か記載あり（詳細は写真番号1481にて）
35	3A	山形	S39.6.17	6	55.2	42.0	1482	山形	S39.11	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA (マーク) TYPE R393」。写真添付の跡あり。35と671は同一紙面
36	3A	山形	S36.6.17	3	55.6	42.0	1483	山形	S39.11	黄色		水色		ペンで数字「8-26」か
37	3B	山形	S39.6.19	4	55.2	42.1	1484	山形	S39.10	黄色		水色		置賜版。鉛筆で「6」か
38	3B	山形	S39.6.20	1	55.3	41.3	1485	山形	S39.10	黄色		水色		夕刊。緑色インクで「YOSHIDA (マーク) TYPE R393」。鉛筆で「4」
39	3B	山形	S41.5.23	4	55.0	43.0	1486	山形	S39.09	黄色	黄土色	黄色		紫色スタンプで「04064」。鉛筆で「10」
40	3B	山形	S41.5.23	7	54.8	43.1	1487	山形	S39.09	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」
41	3B	山形	S39.6.19	1	55.3	41.7	1488	山形	S39.08	黄色		黄色	青っぽい	夕刊。鉛筆で線あり
42	3B	山形	S38.6.11	7	55.8	42.8	1489	山形	S39.08	黄色	レモン	水色		R887か。鉛筆で「13」
43	3B	山形	S41.5.21	6	55.0	42.9	1491	山形	S39.07	黄色	黄土色	黄色		鉛筆で「06」。スタンプで「04064」
44	3B	山形	S41.5.21	10	55.1	43.1	1492	山形	S39.07	黄色	黄土色	黄色		鉛筆で「6」。赤で「2」。スタンプで「04064」
45	3B	山形	S38.6.6	1	54.6	42.1	1493	山形	S39.06	黄色	レモン	水色	青っぽい	赤ペンで文字
46	3B	山形	S38.6.6	1	54.8	42.2	1494	山形	S39.06	黄色	レモン	水色	青っぽい	夕刊。緑色インクで「YOSHIDA (マーク) TYPE R887」。赤ペンで「15」
47	3B	山形	S38.6.10	3	54.7	41.4	1495	山形	S39.05	黄色	レモン	水色	青っぽい	鉛筆で「14」か
48	3B	山形	S38.6.7	5	54.9	41.6	1496	山形	S39.05	黄色	レモン	水色	青っぽい	緑色インクで「YOSHIDA (マーク) TYPE R887」。鉛筆で「注意…怪しいブルケイ」
49	3B	山形	S38.6.6	4	55.7	41.5	1497	山形	S39.04	黄色	レモン	水色	青っぽい	市内版。赤ペンで「井上」
50	3B	山形	S38.6.6	4	55.5	41.5	1498	山形	S39.04	黄色	レモン	水色		置賜版。YOSHIDA (マーク) TYPE。赤ペンで何か記載あり
51	3B	山形	S38.6.11	1	55.3	41.4	1499	山形	S39.03	黄色	レモン	水色	青っぽい	鉛筆で「13」
52	3B	山形	S38.6.6	2	55.2	41.5	1500	山形	S39.03	黄色	レモン	水色	青っぽい	YOSHIDA (マーク) TYPE R887。赤ペンで何か記載あり
53	3B	山形	S38.6.8	6	55.2	41.3	1501	山形	S39.02	黄色	レモン	水色	青っぽい	黄色の線あり
54	3B	山形	S38.6.10	12	55.1	41.5	1502	山形	S39.02	黄色	レモン	水色	青っぽい	
55	3B	山形	S38.6.11	4	54.9	42.4	1503	山形	S39.01	黄色	レモン	色あせ		内陸版。緑色インクで「YOSHIDA (マーク) TYPE R887」。鉛筆で「13」
56	3B	山形	不明	不明	54.1	42.2	1504	山形	S39.01	黄色	レモン	水色	青っぽい	市内版、鉛筆で何か記載あり
57	3C	山形	S38.6.7	8	54.8	41.8	1505	山形	S38.12	黄色	レモン	水色		R887。鉛筆で「これを（不明）」。赤ペンで何か記載あり。黄ペンで何か記載あり
58	3C	山形	S38.6.10	4	55.2	41.5	1506	山形	S38.12	黄色	レモン	水色		置賜版。YOSHIDA (マーク) TYPE。鉛筆で「13」
59	3C	山形	S38.6.6	5	54.7	41.4	1507	山形	S38.11	黄色	レモン	色あせ		
60	3C	山形	S38.6.6	4	55.0	41.5	1508	山形	S38.11	黄色	レモン	水色	青っぽい	庄内版。赤ペンで何か記載あり
61	3C	山形	S38.6.11	6	54.8	41.0	1509	山形	S38.10	黄色	レモン	色あせ		緑色インクで「YOSHIDA (マーク) TYPE R887」。鉛筆で「15」。青ペンで「38.6.1～38.6.10」。61と645は同一紙面

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色(詳細)	裏の色	裏の色(詳細)	備考（裏面の書き込みなど）
62	3C	山形	S38.6.11	8	54.9	41.8	1510	山形	S38.10	黄色	レモン	色あせ		鉛筆で「これを（不明）」と「13」
63	3C	山形	S38.6.6	不明	54.6	41.0	1511	山形	S38.09	黄色	レモン	色あせ		赤ペンで何か記載あり
64	3C	山形	S38.6.10	1	54.4	41.3	1512	山形	S38.09	黄色	レモン	色あせ		夕刊。鉛筆で「17」
65	3C	山形	S38.6.6	7	55.8	42.1	1513	山形	S38.08	黄色	レモン	色あせ		YOSHIDA（マーク）TYPE R887
66	3C	山形	S38.6.10	2	55.2	42.0	1514	山形	S38.08	黄色	レモン	色あせ		鉛筆で何か記載あり。黄ペンで何か記載あり
67	3C	山形	不明	不明	54.3	43.0	1515	山形	S38.07	黄色	レモン	色あせ		内陸版。鉛筆で「3」
68	3C	山形	不明	1	54.5	43.0	1516	山形	S38.07	黄色	レモン	水色	青っぽい	夕刊。鉛筆で「9」
69	3C	不明	不明	不明	53.1	40.9	1517	山形	S38.06	水色		色あせ		
70	3C	山形	S35.10.24	5	54.4	41.6	1518	山形	S38.06	水色		色あせ		青色インクで「YOSHIDA（マーク）BH901」
71	3C	山形	S38.6.4	3	54.9	42.7	1519	山形	S38.05	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA R887」。鉛筆で「14」
72	3C	山形	S38.6.4	1	54.7	42.8	1520	山形	S38.05	黄色	レモン	水色		夕刊。緑色インクで「YOSHIDA R887」。鉛筆で「14」
73	3C	山形	S38.6.3	4	55.0	42.9	1521	山形	S38.04	黄色	レモン	水色		置賜版。鉛筆で「7」。黄ペンで何か記載あり
74	3C	山形	S38.6.3	不明	54.6	42.8	1522	山形	S38.04	黄色	レモン	水色		YOSHIDA（マーク）。鉛筆で「10」
75	3C	山形	不明	不明	54.2	42.8	1523	山形	S38.03	黄色	レモン	水色		市内版。黄線。鉛筆で「○」
76	3C	山形	S38.6.4	8	54.9	42.8	1524	山形	S38.03	黄色	レモン	色あせ		鉛筆で「7」
77	3E	山形	S35.12.1	4	56.0	42.9	1525	山形	S35.05	水色		水色		内陸版。青色インクで「YOSHIDA BH901」
78	3E	山形	S35.12.1	4	55.8	42.9	1526	山形	S35.05	水色		水色		市内版。青色インクで「YOSHIDA BH901」。鉛筆で何か記載あり
79	3E	山形	S35.11.30	4	55.6	42.8	1527	山形	S35.04	水色		色あせ		市内版。青色インクで「YOSHIDA BH901」。鉛筆で何か記載あり
80	3E	山形	S36.3.30	6	56.0	43.0	1528	山形	S35.04	水色		色あせ		YOSHIDA BH205
81	3E	山形	S35.12.5	2	55.9	42.8	1529	山形	S35.03	水色		水色	色あせ	YOSHIDA BH901。ペンで「米沢市米沢女子短大図書館」
82	3E	山形	S35.11.30	3	56.0	43.0	1530	山形	S35.03	水色		水色		YOSHIDA BH901。鉛筆で「③.55.60」
83	3E	山形	S35.10.14	4	57.3	44.0	1531	山形	S35.08	水色		色あせ		内陸版。YOSHIDA BH887。鉛筆で「55」
84	3E	山形	S35.10.17	3	57.2	44.1	1532	山形	S35.08	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA BH887」。84と107は同一紙面
85	3E	山形	S36.3.29	4	56.0	42.9	1533	山形	S35.07	水色		色あせ		庄内版。YOSHIDA BH205。鉛筆で何か記載あり
86	3E	山形	S35.10.24	4	55.8	42.5	1534	山形	S35.07	水色		水色	青っぽい	紫色インクで「YOSHIDA BH901」
87	3E	山形	S35.11.29	3	55.9	43.5	1535	山形	S35.06	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA BH901」。鉛筆で何か記載あり
88	3E	山形	S35.11.30	5	55.9	42.9	1536	山形	S35.06	水色		色あせ		YOSHIDA BH901。鉛筆で「55」
89	3E	山形	S35.12.3	3	55.9	42.8	1537	山形	S35.02	水色		色あせ		YOSHIDA BH901
90	3E	山形	S35.12.1	5	56.0	43.2	1538	山形	S35.02	水色		水色	色あせ	YOSHIDA BH901。鉛筆で「55」
91	3D	山形	S35.12.1	1	55.9	43.0	1539	山形	S35.01	水色		色あせ		夕刊。YOSHIDA BH901
92	3D	山形	S35.12.5	1	55.9	42.9	1540	山形	S35.01	水色		水色	青っぽい	夕刊。YOSHIDA BH901
93	3D	山形	S36.4.1	4	56.8	44.0	1541	山形	S34.12	水色		色あせ		内陸版。YOSHIDA BH205。鉛筆で「56」
94	3D	山形	S35.10.13	4	56.8	43.8	1542	山形	S34.12	水色		色あせ		庄内版。青色インクで「YOSHIDA BH887」。鉛筆で「55」
95	3D	山形	S35.12.2	2	56.0	42.7	1543	山形	S34.11	水色		色あせ		YOSHIDA BH901。鉛筆で「55」
96	3D	山形	S35.12.2	6	56.0	42.8	1544	山形	S34.11	水色		色あせ		YOSHIDA BH901。鉛筆で「55」
97	3D	山形	S35.10.17	2	56.7	44.4	1545	山形	S34.10	水色		色あせ		YOSHIDA BH887。鉛筆で「6」
98	3D	山形	S35.10.15	8	56.9	44.4	1546	山形	S34.10	水色		色あせ		各地版。YOSHIDA BH887。鉛筆で「55(あるいは15か)」
99	3E	山形	S35.10.8	1	56.2	44.2	1547	山形	S34.09	水色		色あせ		夕刊。紫色インクで「YOSHIDA BH887」。鉛筆で「5」か
100	3E	山形	S35.10.17	不明	56.2	44.1	1548	山形	S34.09	水色		色あせ		庄内版。YOSHIDA BH887

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
101	3E	山形	S35.10.11	4	57.3	44.1	1549	山形	S34.08	水色		色あせ		市内版。YOSHIDA（マーク） BH887。鉛筆で「55」
102	3E	山形	S35.10.8	2	56.8	44.2	1550	山形	S34.08	水色		色あせ		YOSHIDA（マーク） BH887
103	3E	山形	S36.3.29	8	55.9	43.0	1551	山形	S34.07	水色		色あせ		YOSHIDA（マーク） BH205。鉛筆で「55」
104	3E	山形	S36.3.27	1	55.9	43.1	1552	山形	S34.07	水色		水色	うすい	夕刊。YOSHIDA（マーク） BH205。鉛筆で「55」か
105	3E	山形	S35.10.12	2	56.0	43.2	1553	山形	S34.06	水色		色あせ		YOSHIDA（マーク） BH887。鉛筆で「55」
106	3E	山形	S36.3.31	2	55.9	43.2	1554	山形	S34.06	水色		色あせ		YOSHIDA（マーク） BH205。鉛筆で「56」と「（不明）」
107	3E	山形	S35.10.17	3	57.6	44.3	1555	山形	S34.05	水色		他	白っぽい	YOSHIDA（マーク） BH887。鉛筆で「571（不明）」。84と107は同一紙面
108	3E	山形	S35.10.16	8	57.3	44.2	1556	山形	S34.05	水色		他	白っぽい	各地版。YOSHIDA（マーク） BH887。鉛筆で何か記載あり
109	3E	山形	S36.3.31	4	55.6	42.9	1557	山形	S34.04	水色		水色	うすい	YOSHIDA（マーク） BH205。鉛筆で「568」
110	3E	山形	S36.3.31	7	55.9	43.1	1558	山形	S34.04	水色		水色	うすい	YOSHIDA（マーク） BH205。鉛筆で「56、56」
111	3E	山形	S35.10.15	3	56.4	44.3	1559	山形	S34.03	水色		他	白	青色インクで「YOSHIDA（マーク） BH887」。111と389は同一紙面
112	3E	山形	S35.10.15	不明	56.5	44.6	1560	山形	S34.03	水色		他	白	YOSHIDA（マーク） BH887
113	3E	山形	S35.11.30	4	56.0	43.0	1561	山形	S34.02	水色		水色	うすい	庄内版。YOSHIDA（マーク） BH901。鉛筆で「55」
114	3E	山形	S35.11.30	4	55.9	42.8	1562	山形	S34.02	水色		水色	うすい	YOSHIDA（マーク） BH901。鉛筆で「55」
115	3E	山形	S35.10.8	6	56.8	44.0	1563	山形	S34.01	水色		色あせ		YOSHIDA（マーク） BH901。115と316は同一紙面
116	3E	山形	S35.10.10	1	56.8	44.2	1564	山形	S34.01	水色		他	白	夕刊。YOSHIDA（マーク） BH887。鉛筆で何か記載あり
117	3E	山形	S35.12.2	2	55.7	43.0	1565	山形	S33.12	水色		色あせ		YOSHIDA（マーク） BH901
118	3E	山形	S35.12.2	4	55.9	42.8	1566	山形	S33.12	水色		色あせ		内陸版。YOSHIDA（マーク） BH901
119	3E	山形	S35.12.2	1	56.0	42.8	1567	山形	S33.11	水色		色あせ		夕刊。YOSHIDA（マーク） BH901。鉛筆で「55」
120	3E	山形	S35.12.1	4	55.9	43.0	1568	山形	S33.11	水色		色あせ		庄内版。YOSHIDA（マーク） BH901。鉛筆で「55」
121	3D	山形	S35.11.30	1	56.1	43.3	1569	山形	S33.10	水色		色あせ		夕刊。青色インクで「YOSHIDA（マーク） BH901」。鉛筆で「55」
122	3D	山形	S35.11.30	3	55.9	42.8	1570	山形	S33.10	水色		水色	うすい	YOSHIDA（マーク） BH901
123	3D	山形	S35.11.30	4	55.8	43.0	1571	山形	S33.09	水色		色あせ		内陸版。YOSHIDA（マーク） BH901。鉛筆で何か記載あり
124	3D	山形	S35.12.8	1	55.7	42.8	1572	山形	S33.09	水色		色あせ		夕刊。「YOSHIDA（マーク） BH969」。鉛筆で「55」
125	3D	山形	S35.10.14	3	57.7	44.0	1573	山形	S33.07	水色		色あせ		YOSHIDA（マーク） BH887。鉛筆で「5（不明）」
126	3D	山形	S35.10.11	4	56.9	44.8	1574	山形	S33.07	水色		色あせ		庄内版。YOSHIDA（マーク） BH887。鉛筆で何か記載あり。126と403は同一紙面
127	3D	山形	S35.10.24	1	55.8	43.0	1577	山形	S33.06	水色		色あせ		夕刊。YOSHIDA（マーク） BH901
128	3D	山形	S35.10.22	4	55.8	42.8	1578	山形	S33.06	水色		色あせ		市内版。YOSHIDA（マーク） BH901。鉛筆で「54」もしくは「521」
129	3B	山形	S38.（不明）	不明	54.6	42.8	1579	山形	S42.02	黄色	レモン	色あせ		赤鉛筆で丸に「注」。赤ペンで「//」。緑色インクで「YOSHIDA」
130	3B	山形	不明	不明	54.9	42.9	1580	山形	S42.02	黄色		色あせ		内陸版。赤ペンで「10」
131	3B	山形	S38.6.9	不明	54.7	42.9	1581	山形	S42.01	黄色	レモン	色あせ		黒ボールペンで「12」
132	3B	山形	不明	不明	54.5	43.0	1582	山形	S42.01	黄色	レモン	水色		赤ペンで「10」
133	3B	山形	不明	不明	54.3	42.8	1583	山形	S42.03	黄色	レモン	水色		市内版。緑色インクで「YOSHIDA（マーク）TYPE R(887) ドライマット ヨシダタイプ」。赤ペンで「5」

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
134	3B	不明	不明	不明	54.4	42.9	1584	山形	S42.03	黄色	レモン	水色		庄内版。緑色インクで「YOSHIDA TYPE (887)」
135	3B	不明	不明	不明	54.4	42.8	1585	山形	S42.04	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA TYPE (887)」。赤ペンで何か記載あり
136	3B	山形	不明	不明	54.3	43.0	1586	山形	S42.04	黄色	レモン	水色		庄内版。緑色インクで「YOSHIDA」。鉛筆で「15」
137	3B	山形	不明	1	54.7	42.7	1587	山形	S42.05	黄色	レモン	水色		夕刊。緑色インクで「YOSHIDA TYPE R(887) ドライマットヨシダタイプ」。赤ペンで記載あり
138	3B	山形	不明	不明	54.7	42.9	1588	山形	S42.05	黄色	レモン	水色		
139	3B	山形	S41.5.26	5	55.0	43.1	1589	山形	S42.06	黄色	黄土色	黄色		紫色のスタンプで「04064」。鉛筆で「11」
140	3B	山形	S41.5.27	3	54.7	43.2	1590 1591	山形	S42.06	黄色	黄土色	黄色		紫色のスタンプで「04064」。青ペンで何か記載あり
141	3B	山形	S39.（不明）	不明	54.2	40.1	1592	山形	S41.03	黄色		水色		鉛筆で「5」
142	3B	不明	不明	2,7,10,15	53.4	40.5	1593	山形	S41.03	黄色		水色		４つの紙面が一枚に製版されている。「生活のチエ」。折込紙では？　裏に青ペンで何か記載あり
143	3B	山形	S39.6.18	3	55.2	41.8	1594 1596	山形	S41.04	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA TYPE R(393)」。青ペンで「0-2」。143と193は同一紙面
144	3B	山形	S39.6.20	4	55.8	41.2	1595 1597	山形	S41.04	黄色		水色		市内版。青筆で「6月20日迄米沢 専（○で囲む）　御中」。緑色インクで「YOSHIDA TYPE R(393)」
145	3C	山形	S41.5.26	9	55.0	43.1	1909	山形	S41.05	黄色	黄土色	黄色	あせ	スタンプで「04064」。鉛筆で「88」
146	3C	山形	S41.5.26	10	55.1	42.8	1910	山形	S41.05	黄色	黄土色	黄色	あせ	スタンプで「04064」。鉛筆で「10」「90」
147	3C	山形	S41.5.27	4	54.8	43.1	1911	山形	S41.06	黄色	黄土色	黄色		内陸版。スタンプで「04064」。鉛筆で「89」
148	3C	山形	S41.5.27	9	54.8	43.0	1912	山形	S41.06	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「87」。148と608は「新潟地震」の有無以外は同一紙面
149	3C	山形	不明（S41か）	2	54.5	43.0	1913	山形	S41.07	黄色	黄土色	黄色	あせ	スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
150	3C	山形	S41.5.27	4	54.6	43.0	1914 1915	山形	S41.07	黄色		黄色	あせ	スタンプで「04223」
151	3C	山形	S41.5.27	3	54.9	43.1	1916	山形	S41.08	黄色	黄土色	黄色	うす	スタンプで「04223」。鉛筆で何か線あり
152	3C	山形	S41.5.27	2	54.6	43.1	1917	山形	S41.08	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04223」。鉛筆で「04」
153	3C	山形	S41.5.23	1	54.7	43.1	1918	山形	S41.09	黄色	黄土色	黄色	うす	夕刊。スタンプで「04064」
154	3C	山形	S41.5.23	2	54.7	43.0	1919	山形	S41.09	黄色	黄土色	黄色	うす	スタンプで「04064」。鉛筆で「86」
155	3C	山形	S41.5.24	1	54.9	43.1	1920	山形	S41.10	黄色	黄土色	黄色	うす	スタンプで「04064」
156	3C	山形	S41.5.23	12	54.9	43.0	1921	山形	S41.10	黄色	黄土色	黄色	うす	スタンプで「04064」が２つ。鉛筆で「10」
157	3C	山形	S44.7.7	4	54.7	41.0	1924 1926	山形	S44.09	水色	エメラルド	他	グレー	綴じ方異なる
158	3C	山形	S44.7.7	5	54.6	41.7	1925	山形	S44.07	水色	エメラルド	他	グレー	緑色インクで「YOSHIDA TYPE R115」。青ペンで囲みなど
159	3C	山形	S44.6.30	3	55.1	41.2	1927	山形	S44.06	水色	エメラルド	他	白	
160	3C	山形	S44.6.30	不明	55.7	41.5	1928	山形	S44.06	黄色	レモン	黄色	クリーム	スタンプで「0606　3」
161	3C	山形	S43.7.12	4	55.3	41.3	1929	山形	S44.05	黄色		水色		置賜版。緑色インクで「YOSHIDA TYPE R671」
162	3C	山形	S43.7.13	1	54.6	41.2	1930	山形	S44.05	黄色		他	グレー	緑色インクで「YOSHIDA TYPE R671」か。162と577は同一紙面

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
163	3C	不明	不明	不明	54.8	41.6	1931	山形	S44.04	水色	エメラルド	他	白	
164	3C	不明	不明	不明	54.9	41.4	1932	山形	S44.04	水色	エメラルド	他	白	
165	3C	不明	S44.7.4	4	54.7	41.5	1933	山形	S44.03	水色	エメラルド	水色	うすい青	緑色インクで「YOSHIDA R115」
166	3C	不明	S44.7.7	不明	54.9	41.4	1934	山形	S44.03	水色	エメラルド	水色	うすい青	緑色インクで「YOSHIDA R115」
167	3C	山形	S44.7.7	不明	54.0	40.8	1935	山形	S44.02	黄色	レモン	黄色	クリーム	庄内版。スタンプで「06063」。赤ペンで囲み枠。穴あき
168	3C	山形嚶鳴	不明	1	53.0	41.1	1936	山形	S44.02	黄色	レモン	黄色	クリーム	スタンプで「0606　3」。穴あき。新聞内にも穴あき。「題字」があるので1面と思われる
169	3C	山形嚶鳴	S44.7.1	2	55.0	41.2	1937	山形	S44.01	水色	エメラルド	他	グレー	緑色インクで「YOSHIDA R115」
170	3C	山形	S44.7.4	4	54.2	41.3	1938	山形	S44.01	水色	エメラルド	水色	青っぽい	庄内版
171	3D	山形	S38.6.3	5	55.0	42.8	1939	山形	S37.07	黄色	レモン	水色	青っぽい	鉛筆で丸
172	3D	山形	S38.6.3	9	54.8	43.1	1940	山形	S37.07	黄色	レモン	黄色		ボールペンで何か記載あり
173	3D	不明	不明	不明	54.3	43.2	1941	山形	S37.08	黄色	レモン	色あせ	あせた灰色	緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（887）」
174	3D	山形	不明	不明	53.9	42.8	1942	山形	S37.08	黄色	レモン	水色	青	庄内版
175	3D	山形	S38.6.2	1	54.8	42.8	1950	山形	S37.09	黄色	レモン	水色		ボールペンで何か記載あり
176	3D	山形	S38.6.2	2	55.0	43.0	1943	山形	S37.09	黄色	レモン	水色		赤ペンで「パ」。ボールペンで何か記載あり
177	3D	不明	不明	不明	54.3	43.0	1944	山形	S37.10	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（887）」。鉛筆で「10」
178	3D	山形	S38.6.3	1	54.5	42.7	1945	山形	S37.10	黄色	レモン	水色		鉛筆で「3」
179	3D	山形	S38.6.1	1	55.1	42.7	1946	山形	S37.11	黄色	レモン	水色		庄内版。ボールペンで「6-」
180	3D	山形	S38.6.3	2	54.9	42.8	1947	山形	S37.11	黄色	レモン	水色		鉛筆で「9」
181	3D	山形	S38.6.3	7	54.7	42.6	1948	山形	S37.12	黄色	レモン	水色	あせている	鉛筆で「10」
182	3D	山形	S38.6.3	11	54.8	43.0	1949	山形	S37.12	黄色	レモン	水色	あせた	緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（887）」
183	3D	山形	S38.6.1	4	54.8	43.1	1951	山形	S38.01	黄色	レモン	水色	あせた茶色っぽい	内陸版。ボールペンで「０-」
184	3D	山形	不明	1	54.6	43.0	1952	山形	S38.01	黄色	レモン	水色	あせた	緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（887）」。ボールペンで「5-」
185	3D	山形	S38.6.3	3	55.0	43.0	1953	山形	S38.02	黄色	レモン	水色		鉛筆で「11」
186	3D	山形	S38.6.2	4	55.2	42.9	1954	山形	S38.02	黄色	レモン	水色		ボールペンで「8-」
187	3D	山形	不明	4	54.6	41.9	1955 1956	山形	S40.09	黄色		水色		内陸版。鉛筆で何か記載あり。裏面は1955
188	3D	山形	不明	不明	54.4	41.9	1957	山形	S40.09	黄色		水色		庄内版。鉛筆で「D」
189	3D	山形	S39.6.16	8	54.7	42.3	1958	山形	S40.10	黄色		水色		緑色のインクで「YOSHIDA」。鉛筆で「6」
190	3D	山形	不明	1	54.4	41.9	1959	山形	S40.10	黄色		水色		夕刊。青ペンで何か記載あり
191	3D	山形	S39.6.16	4	54.9	42.0	1960	山形	S40.11	黄色		水色		庄内版。緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（393）」。鉛筆で何か記載あり
192	3D	山形	S39.6.16	1	54.6	41.9	1961	山形	S40.11	黄色		水色		夕刊
193	3D	山形	S39.6.18	3	54.6	41.6	1962	山形	S40.12	黄色		水色		青ペンで「17-2（不明）」。143と193は同一紙面
194	3D	不明	不明	8,11,14	53.9	40.9	1963	山形	S40.12	黄色		水色		４つの紙面が一枚に製版されている。「薬草　現代生活にとけこむ漢方」。緑色のスタンプで「251」。青ペンで「7-2」
195	3D	山形	S39.6.18	1	55.0	42.2	1964	山形	S41.01	黄色		水色	あせた茶色	夕刊。緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（393）」。青ペンで「17-24」

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
196	3D	山形	S39.6.19	不明	54.9	42.2	1965	山形	S41.01	黄色		水色		青ペンで「17-（不明）」
197	3D	山形	S39.6.19	5	54.6	42.1	1966	山形	S41.02	黄色		水色		鉛筆で「3」
198	3D	山形	S39.6.17	8	55.1	41.9	1967	山形	S41.02	黄色		水色		
199	3D	山形	S43.7.1	3	55.6	41.6	1968	山形	S43.01	黄色	黄土色	黄色		紫色のスタンプで「01173」
200	3D	山形	S43.6.30	8	55.5	41.5	1969	山形	S43.01	黄色	黄土色	黄色		紫色のスタンプで「01173」。青ペンで何か記載あり
201	3D	山形	S43.7.14	3	55.2	41.5	1970	山形	S43.02	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（703）」
202	3D	山形	S43.7.13	2	54.9	41.8	1971	山形	S43.02	水色	エメラルド	水色	あせた	緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（703）」
203	3D	山形	S41.5.25	8	54.6	41.2	1972	山形	S43.03	黄色	黄土色	黄色		紫色のスタンプで「04064」。鉛筆で「10」
204	3D	山形	S41.5.24	4	54.5	41.8	1973	山形	S43.03	黄色	黄土色	黄色		内陸版。紫色のスタンプで「04064」
205	3D	山形	S43.7.13	4	55.1	41.5	1974	山形	S43.04	黄色		水色		庄内版。ヨシダタイプのマーク
206	3D	山形	S43.7.13	1	55.7	41.6	1975	山形	S43.04	水色	エメラルド	水色		夕刊。緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（703）」
207	3D	山形	S43.7.12	4	55.6	41.5	1976	山形	S43.05	黄色		水色		内陸版。緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（671）」
208	3D	山形	S43.7.12	3	55.0	41.6	1977	山形	S43.05	黄色		水色	あせた	緑色インクで「YOSHIDA TYPE」
209	3D	山形	S43.7.15	10	54.9	41.1	1978	山形	S43.06	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（703）」
210	3D	山形	S43.7.15	8	54.8	41.5	1979	山形	S43.06	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（703）」
211	3D	山形	S38.6.7	1	54.6	41.5	1980	山形	S43.07	黄色	レモン	水色	あせた茶	赤ペンで何か記載あり
212	3D	山形	S41.5.24	10	54.8	41.9	1981	山形	S43.07	黄色	黄土色	黄色		紫色のスタンプで「04064」。鉛筆で「89」
213	3D	山形	S41.5.23	4	54.6	42.0	1982	山形	S43.08	黄色	黄土色	黄色		市内版。紫色のスタンプで「04064」。鉛筆で「86」
214	3D	山形	S41.5.24	5	54.8	41.9	1983	山形	S43.08	黄色	黄土色	黄色		紫色のスタンプで「04064」。鉛筆で「89」
215	3D	山形	S43.7.16	4	55.8	41.5	1984	山形	S43.09	水色	エメラルド	水色		中央版。緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（703）」
216	3D	山形	S43.7.16	2	55.7	41.5	1985	山形	S43.09	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（703）」
217	3D	山形	S43.7.15	4	54.3	41.6	1986	山形	S43.10	水色	エメラルド	水色		内陸版。緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（703）」
218	3D	山形	S43.7.14	6	54.6	41.6	1987	山形	S43.10	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（703）」
219	3D	山形	S38.6.8	3	54.8	22.7	1988	山形	S43.11	黄色	レモン	水色		ボールペンで「3」
220	3D	山形	S41.5.26	2	55.2	42.3	1989	山形	S43.11	黄色	黄土色	黄色		紫色のスタンプで「04064」。鉛筆で「10」「89」
221	3D	山形	S43.7.13	5	54.6	41.6	1990	山形	S43.12	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（671）」
222	3D	山形	S43.7.12	4	54.3	41.4	1991	山形	S43.12	黄色		水色		中央版。緑色インクで「YOSHIDA TYPE　R（671）」。黒ペンで「43年7月16日」。鉛筆で何か記載あり
223	3E	山形	S41.5.26	4	55.0	41.8	2037	山形	S42.07	黄色	黄土色	黄色		内陸版。スタンプで「04064」。鉛筆で「8（不明）」
224	3E	山形	S41.5.26	4	54.8	41.7	2038	山形	S42.07	黄色	黄土色	黄色		庄内版。スタンプで「04064」。鉛筆で「8」「90」
225	3E	山形	S41.5.25	4	54.6	41.6	2039	山形	S42.08	黄色	黄土色	黄色		庄内版。スタンプで「04064」
226	3E	山形	S41.5.25	9	54.5	41.7	2040	山形	S42.08	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」
227	3E	山形	S43.7.12	2	55.6	41.3	2041	山形	S42.09	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　R671」
228	3E	山形	不明	不明	54.3	43.1	2042	山形	S42.09	黄色	レモン	水色		庄内版。ボールペンで何か記載あり
229	3E	山形	S41.5.26	6	54.7	41.2	2043	山形	S42.10	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「D」（不明）、「90」
230	3E	山形	S41.5.26	1	54.7	41.9	2044	山形	S42.10	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「5」「86」
231	3E	山形	S43.7.12	1	55.6	41.4	2045	山形	S42.11	黄色		水色		夕刊。緑色インクで「YOSHIDA」。231と232は「34版」と「4版」の違い以外は同一紙面
232	3E	山形	S43.7.12	1	56.0	41.5	2046	山形	S42.11	黄色		黄色		夕刊。緑色インクで「YOSHIDA 671」。231と232は「34版」と「4版」の違い以外は同一紙面
233	3E	山形	S43.7.1	4	55.6	41.5	2047	山形	S42.12	黄色	レモン	黄色		中央版。スタンプで「01173」

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
234	3E	山形	S43.7.11	12	55.6	41.7	2048	山形	S42.12	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「01173」。黒ペンで何か記載あり
235	3E	山形	S41.5.22	12	55.0	43.1	2049	山形	S41.11	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」か
236	3E	山形	S41.5.21	4	55.1	42.9	2050	山形	S41.11	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「（不明）0」
237	3E	山形	S41.5.23	11	55.0	43.0	2051	山形	S41.12	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「87」
238	3E	山形	S41.5.23	1	55.0	43.0	2052	山形	S41.12	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「88」。ピンクで「6」
239	3E	山形	S36.3.28	5	54.9	43.0	2053	山形	S37.01	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA　205」
240	3E	山形	S35.10.24	3	54.8	43.0	2054	山形	S37.01	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA　901」
241	3E	山形	不明	1	54.3	42.9	2055	山形	S37.02	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA　901」
242	3E	山形	S35.12.3	4	54.4	42.7	2056	山形	S37.02	水色		水色		庄内版。紫色インクで「YOSHIDA　901」
243	3E	不明	不明	不明	54.6	43.1	2057	山形	S37.03	黄色	レモン	水色		青かすれ
244	3E	不明	不明	不明	54.5	42.9	2058	山形	S37.03	黄色	レモン	水色		
245	3E	山形	S38.6.1	3	54.2	43.0	2059	山形	S37.04	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA　887」。青かすれで「8」。245と368は「はじめて液剤をまく」の記事の有無以外は同一紙面
246	3E	不明	不明	不明	54.5	42.6	2060	山形	S37.04	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA　887」。青かすれ
247	3E	山形	S35.10.27	4	55.1	43.0	2061	山形	S37.05	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA　901」
248	3E	山形	S38.6.2	6	54.6	43.0	2062	山形	S37.05	黄色	レモン	水色		ボールペンで何か記載あり
249	3E	山形	S35.12.5	3	54.3	43.2	2063	山形	S37.06	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA　901」
250	3E	山形	S35.12.2	1	54.9	41.2	2064	山形	S37.06	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA　901」
251	3E	山形	S39.6.15	2	55.3	42.0	2065	山形	S40.01	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　393」。鉛筆で「4」
252	3E	山形	S39.6.17	9	54.8	42.2	2066	山形	S40.01	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA」。青ペンで何か記載あり
253	3E	山形	S39.6.15	1	55.2	41.1	2067	山形	S40.02	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　393」。鉛筆で「6」「ツブス」
254	3E	山形	S39.6.15	9	55.6	41.9	2068	山形	S40.02	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　393」。鉛筆で何か記載あり
255	3E	山形	S39.6.18	4	55.3	41.5	2069	山形	S40.03	黄色		水色		青ペンで「16-24」か
256	3E	山形嚶鳴	S39.6.18	1	55.0	41.6	2070	山形	S40.03	黄色		水色		青ペンで何か記載あり
257	3E	山形	S39.6.17	1	54.8	42.0	2071	山形	S40.04	黄色		水色		青ペンで「2」か。新潟地震の記事
258	3E	山形	S39.6.17	4	54.7	41.4	2072	山形	S40.04	黄色		水色		内陸版。緑色インクで「YOSHIDA　393」。青ペンで「6-28」
259	3E	山形	S39.6.17	5	54.6	41.4	2073	山形	S40.05	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA」。青ペンで何か記載あり。259と303は同一紙面
260	3E	山形	S39.6.15	3	55.0	41.8	2074	山形	S40.05	黄色		水色		鉛筆で「5」
261	3E	山形	S39.6.15	5	55.3	41.8	2075	山形	S40.06	黄色		水色		鉛筆で「4」「（不明2文字）グ」
262	3E	山形	S39.6.15	4	55.3	41.8	2076	山形	S40.06	黄色		水色		鉛筆で「8」
263	3E	山形	S41.5.23	3	55.0	42.9	2077	山形	S40.07	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で何か記載あり
264	3E	山形	S41.5.22	11	54.7	43.1	2078	山形	S40.07	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「8」と何か記載あり。505と506は同一紙面。264はこれらから「バイク事故」がないだけの紙面
265	3E	山形	S39.6.16	4	55.0	41.9	2079	山形	S40.08	黄色		水色		内陸版
266	3E	山形	S39.6.16	7	55.0	42.0	2080	山形	S40.08	黄色		水色		鉛筆で「8」か、「ツブス」
267	4A	山形	S44.7.4	不明	54.3	41.2	2082	日本教育	S43.07～12	水色	エメラルド	水色	あせ	緑色インクで「YOSHIDA　R115」
268	4A	山形	S44.7.4	4	54.3	41.3	2083	日本教育	S43.07～12	水色	エメラルド	水色		内陸版

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
269	4A	山形	不明	不明	54.5	43.0	2084	日本教育	S38.01～06	黄色	レモン	黄色	あせ	置賜版。鉛筆で「14」
270	4A	山形	不明	2	54.7	42.7	2085	日本教育	S38.01～06	黄色	レモン	水色		鉛筆で何か記載あり
271	4C	不明	不明	不明	54.3	40.7	2086	産経	S49.05	黄色	レモン	黄色		紫色のスタンプで「06063」
272	4C	不明	不明	不明	54.3	40.8	2087	産経	S49.05	黄色	レモン	黄色		スタンプで「06063」
273	4E	山形	S35.12.2	7	55.8	42.9	2088	教育学術	S30.10～S31.03	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA　901」
274	4E	山形	S35.12.2	8	55.9	43.0	2089	教育学術	S30.10～S31.03	水色		水色	あせ	各地版。紫色インクで「YOSHIDA　901」
275	4E	山形	S35.10.25	5	56.1	43.1	2090	教育学術	S33.04～S35.08	水色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA　901」
276	4E	山形	S35.10.25	7	55.9	42.9	2091	教育学術	S33.04～S35.08	水色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA　901」
277	6A	山形	S36.3.29	3	56.0	43.1	2092	日本教育	S34.04～09	黄色		水色		紫色インクで「YOSHIDA　205」
278	6A	山形	S36.3.29	2	56.0	43.1	2093	日本教育	S34.04～09	黄色		黄色		紫色インクで「YOSHIDA　205」。黒ペンで「米沢市米沢女子短大図書館」
279	6A	山形	S35.11.29	2	56.0	43.1	2094	日本教育	S34.10～S35.03	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA」
280	6A	山形	S36.3.27	6	56.0	42.9	2095	日本教育	S34.10～S35.03	水色		水色		各地版。紫色インクで「YOSHIDA　205」。鉛筆で「54」か
281	6A	山形	S35.10.25	4	55.9	43.1	2096	日本教育	S33.10～S34.03	水色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA」。鉛筆で何か記載あり
282	6A	山形	S35.10.25	2	56.0	43.0	2097	日本教育	S33.10～S34.03	水色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA　901」
283	6A	山形	S38.6.4	4	54.7	42.8	2098	日本教育	S36.07～S37.01	黄色	レモン	黄色	あせ	庄内版。鉛筆で「12」
284	6A	山形	S38.6.4	4	54.9	42.8	2099	日本教育	S36.07～S37.01	黄色	レモン	水色		内陸版。鉛筆で何か記載あり
285	6A	山形	S35.12.3	1	55.8	43.0	2100	日本教育	S32.10～S33.03	水色		水色		夕刊。紫色インクで「YOSHIDA　901」
286	6A	山形	S35.12.6	5	55.9	43.0	2101	日本教育	S32.10～S33.03	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA　901」。鉛筆で「71」か
287	6A	山形	S35.12.1	3	55.9	43.0	2102	日本教育	S33.04～09	水色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA　901」
288	6A	山形	S35.12.1	2	55.9	42.9	2103	日本教育	S33.04～09	水色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA　901」
289	6A	山形	S38.（不明）	4	54.6	42.8	2104	日本教育	S37.06～12	黄色	レモン	水色	あせ	内陸版
290	6A	山形	S38.6.5	7	54.6	40.8	2105	日本教育	S37.06～12	黄色	レモン	水色		紫色インクで「YOSHIDA」。鉛筆で何か記載あり
291	6A	山形	不明	不明	54.7	42.7	2106	日本教育	S37.01～06	黄色	レモン	水色		鉛筆で「14」。ペンで「81」か
292	6A	不明	不明	不明	54.6	43.0	2107	日本教育	S37.01～06	黄色	レモン	水色		紫色インクで「YOSHIDA」。鉛筆で「15」
293	6B	山形	S38.6.6	3	54.5	41.6	2109	日本教育	S39.01～06	黄色	レモン	黄色	あせ	
294	6B	山形	S38.6.10	4	54.4	41.4	2110	日本教育	S39.01～06	黄色	レモン	水色		市内版。鉛筆で「18」
295	6B	山形	S35.12.5	4	55.9	42.8	2111	日本教育	S36.04～09	水色		色あせ		庄内版。紫色インクで「YOSHIDA　901」。鉛筆で「8」「533」「585」
296	6B	山形	S35.12.3	6	55.9	43.0	2112	日本教育	S36.04～09	水色		水色	あせ	各地版。紫色インクで「YOSHIDA　901」
297	6B	山形	S35.12.2	4	55.7	42.9	2113	日本教育	S35.08～S36.03	水色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA　901」
298	6B	山形	S35.11.30	7	55.9	43.2	2114	日本教育	S35.08～S36.03	水色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA　901」。鉛筆で「55」か
299	6B	山形	S35.10.13	4	55.9	42.1	2115	日本教育	S35.04～07	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA」。鉛筆で「55」
300	6B	山形	S36.3.31	4	55.9	43.0	2116	日本教育	S35.04～07	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「55」か
301	6B	山形	S41.5.23	8	54.9	42.9	2117	日本教育	S41.01～06	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「/」「88」
302	6B	山形	S41.5.24	4	54.9	43.0	2118	日本教育	S41.01～06	黄色	黄土色	黄色		庄内版。スタンプで「04064」。鉛筆で「88」
303	6B	山形	S39.6.17	5	55.4	41.9	2119	日本教育	S40.01～06	黄色		水色		259と303は同一紙面
304	6B	不明	不明	1,8,9,16	55.9	43.1	2120	日本教育	S40.01～06	黄色		水色		４つの紙面が一枚に製版されている。「衣　おしゃれと違うエチケット」「住　明るいわが家を…」。緑色インクで「YOSHIDA」。青ペンで何か記載あり
305	6B	山形	S36.3.29	4	55.9	43.0	2121	日本教育	S32.04～09	黄色		水色		内陸版。紫色インクで「YOSHIDA　205」

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色(詳細)	裏の色	裏の色(詳細)	備考（裏面の書き込みなど）
306	6B	山形	S36.3.31	5	56.0	43.3	2122	日本教育	S32.04～09	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA　205」。鉛筆で「57」「5（不明）」
307	6B	山形	S35.12.2	3	56.0	42.9	2123	日本教育	S31.10～S32.03	水色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で「55」
308	6B	山形	S35.12.3	4	55.9	43.0	2124	日本教育	S31.10～S32.03	水色		水色	あせ	市内版。紫色インクで「YOSHIDA 901」
309	6B	山形	S35.12.5	4	55.7	43.1	2125	日本教育	S31.04～09	水色		水色	あせ	内陸版。紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で何か記載あり
310	6B	山形	S35.12.1	1	55.9	42.9	2126	日本教育	S31.04～09	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で何か記載あり
311	6B	山形	S35.10.25	6	55.8	43.0	2127	日本教育	S30.10～S31.03	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA」
312	6B	山形	S35.10.24	3	56.0	43.0	2128	日本教育	S30.10～S31.03	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で「54」
313	6B	山形	S35.11.30	2	55.9	43.1	2129	日本教育	S30.04～09	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で「（不明）5」
314	6B	山形	S35.11.30	2	55.6	42.9	2130	日本教育	S30.04～09	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で「55」
315	9A	山形	S35.10.11	4	57.2	44.3	2131	朝日	S35.07	水色		他	茶	内陸版。紫色インクで「YOSHIDA 887」
316	9A	山形	S35.10.8	6	57.3	44.2	2132	朝日	S35.07	水色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で「54」。115と316は同一紙面
317	9A	山形	S35.10.17	2	56.7	43.4	2133	朝日	S35.08	水色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA 887」
318	9A	山形	S35.10.17	1	57.0	42.6	2134	朝日	S35.08	水色		水色	あせ	夕刊。紫色インクで「YOSHIDA 887」
319	9A	山形	S35.12.1	3	55.8	43.0	2135	朝日	S35.09	水色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA 901」。319と430は同一紙面
320	9A	山形	S35.12.2	4	55.9	42.9	2136	朝日	S35.09	水色		水色	あせ	市内版。紫色インクで「YOSHIDA 901」
321	9A	山形	S35.10.12	4	55.8	42.9	2137	朝日	S35.10	水色		水色	あせ	庄内版。紫色インクで「YOSHIDA 887」
322	9A	山形	S36.3.27	5	56.0	43.0	2138	朝日	S35.10	水色		水色	あせ	うすく「RYM」。鉛筆で「55」か
323	9A	山形	S35.12.5	4	55.7	42.8	2139	朝日	S35.11	水色		水色	あせ	市内版。紫色インクで「YOSHIDA 901」
324	9A	山形	S36.3.30	4	55.9	42.9	2140	朝日	S35.11	黄色		水色		内陸版。紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「56」「57」
325	9A	山形	S36.3.27	4	55.9	43.1	2141	朝日	S35.12	黄色		色あせ	茶	鉛筆で「54.5」
326	9A	山形	S36.3.27	2	56.0	43.0	2142	朝日	S35.12	黄色		水色		紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で何か記載あり
327	9A	山形	S36.3.24	5	55.8	43.0	2143	朝日	S36.01	黄色		色あせ	茶	紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で何か記載あり
328	9A	山形	S36.3.29	3	56.0	43.3	2144	朝日	S36.01	黄色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で何か記載あり
329	9A	山形	S36.3.27	4	55.9	43.0	2145 2147	朝日	S36.02	黄色		水色	あせ	内陸版。「YOSHIDA TYPE TOKYO 221」、「H」、「青」（それぞれ緑インク、○で囲んである）。鉛筆で「54.5」
330	9A	山形	S36.3.29	6	56.1	43.1	2146	朝日	S36.02	黄色		水色	あせ	各地版。紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で何か記載あり
331	9A	山形	S36.3.27	7	56.0	43.0	2148	朝日	S36.03	黄色		水色		紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「54.5」、何か記載あり
332	9A	山形	S36.3.28	1	56.0	43.1	2149	朝日	S36.03	黄色		水色		紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「55」か、何か記載あり。332と341は同一紙面
333	9A	山形	S36.3.27	3	56.0	42.9	2150	朝日	S36.04	黄色		水色		紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で何か記載あり
334	9A	山形	S36.3.27	4	56.0	43.1	2151	朝日	S36.04	黄色		黄色		市内版。紫色インクで「YOSHIDA 205」
335	9A	山形	S36.3.27	4	55.7	43.0	2152	朝日	S36.05	黄色		水色		庄内版。緑色インクで「YOSHIDA」
336	9A	山形	S36.3.27	4	55.1	43.0	2153	朝日	S36.05	黄色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 205」

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
337	9A	山形	S36.3.28	4	55.9	43.0	2154	朝日	S36.06	黄色		水色	あせ	内陸版。紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「555」、何か記載あり
338	9A	山形	S35.12.1	4	56.0	43.0	2155	朝日	S36.06	水色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で「55」
339	9A	山形	S35.11.29	4	55.7	42.8	2156	朝日	S36.07	黄色		水色	あせ	内陸版。紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で「55」か
340	9A	山形	S35.11.18	5	55.8	43.1	2157	朝日	S36.07	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA 901」
341	9A	山形	S36.3.28	1	56.0	43.1	2158	朝日	S36.08	黄色		水色		紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「55、5」、何か記載あり。332と341は同一紙面
342	9A	山形	S36.3.28	4	56.1	43.2	2159	朝日	S36.08	水色		水色		各地版。紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で何か記載あり
343	9A	山形	S36.3.31	6	54.2	41.2	2160	朝日	S36.09	黄色		水色	あせ	各地版。紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で何か記載あり
344	9A	山形	S35.11.30	6	54.5	41.5	2161	朝日	S36.09	水色		他	茶	紫色インクで「YOSHIDA 901」
345	9A	山形	不明	不明	54.3	42.9	2162	朝日	S36.10	水色		色あせ	茶	各地版。紫色インクで「YOSHIDA 901」
346	9A	山形	S35.10.24	1	54.5	42.8	2163	朝日	S36.10	水色		色あせ	茶	紫色インクで「YOSHIDA 901」
347	9B	山形	S35.12.4	6	54.6	42.9	2164	朝日	S36.11	水色		他	茶	各地版。紫色インクで「YOSHIDA 901」
348	9B	山形	不明	不明	54.5	42.8	2165	朝日	S36.11	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で何か記載あり
349	9B	不明	不明	不明	54.3	43.0	2166	朝日	S36.12	黄色	レモン	黄色	あせ	緑色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「16」
350	9B	不明	不明	不明	54.3	42.8	2167	朝日	S36.12	黄色	レモン	水色		鉛筆で「17」か
351	9B	山形	不明	不明	54.1	43.1	2168	朝日	S37.01	水色		他	茶	各地版。紫色インクで「YOSHIDA 901」
352	9B	山形	S35.10.24	7	54.4	42.8	2169	朝日	S37.01	水色		水色	あせ	
353	9B	山形	S36.3.31	3	55.4	43.0	2170	朝日	S37.02	水色		黄色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「56.5」
354	9B	不明	S38.6.5	5	54.8	42.8	2171	朝日	S37.02	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA R 887」。鉛筆で何か記載あり
355	9B	不明	不明	不明	54.4	41.7	2172	朝日	S37.03	水色		黄色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA 901」
356	9B	山形	S35.10.13	4	54.1	42.8	2173	朝日	S37.03	水色		黄色		市内版。紫色インクで「YOSHIDA 901」
357	9B	不明	不明	不明	54.2	42.9	2174	朝日	S37.04	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA (不明)87」。鉛筆で「11」
358	9B	山形	S38.6.5	6	54.6	42.8	2175	朝日	S37.04	黄色	レモン	色あせ		鉛筆で「12」
359	9B	不明	不明	不明	54.5	43.1	2176	朝日	S37.05	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 205」
360	9B	不明	不明	不明	54.5	42.9	2177	朝日	S37.05	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 901」
361	9B	山形	不明	2	54.6	42.7	2178	朝日	S37.06	黄色	レモン	色あせ		緑色インクで「YOSHIDA 887」。ボールペンで「6. -」
362	9B	山形	S38.6.1	4	54.7	43.0	2179	朝日	S37.06	黄色	レモン	水色		市内版。緑色インクで「YOSHIDA 887」。ボールペンで何か記載あり
363	9B	山形	S38.6.11	4	54.8	43.0	2180	朝日	S37.07	黄色	レモン	水色	あせ	庄内版。鉛筆で「14」。363と517は同一紙面
364	9B	山形	不明	12	54.7	43.3	2181	朝日	S37.07	黄色	レモン	水色	あせ	緑色インクで「YOSHIDA 」。鉛筆で「9」
365	9B	山形	S38.6.2	5	54.7	42.6	2182	朝日	S37.08	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA 887」。ボールペンで何か記載あり
366	9B	山形	S38.6.1	6	54.8	42.5	2183	朝日	S37.08	黄色	レモン	色あせ		緑色インクで「YOSHIDA 887」
367	9B	山形	S38.6.1	7	55.1	42.7	2184	朝日	S37.09	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA 887」
368	9B	山形	S38.6.1	3	55.0	42.7	2185	朝日	S37.09	黄色	レモン	水色		鉛筆で「ケイカク」。245と368は「はじめて液剤をまく」の記事の有無以外は同一紙面

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色(詳細)	裏の色	裏の色(詳細)	備考（裏面の書き込みなど）
369	9B	山形	S38.6.1	4	55.1	42.8	2186	朝日	S37.10	黄色	レモン	水色		鉛筆で「ツ（不明2文字）」。ボールペンで何か記載あり
370	9B	山形	S38.6.1	1	55.0	42.8	2187	朝日	S37.10	黄色	レモン	水色		
371	9B	不明	不明	不明	54.6	43.1	2188	朝日	S37.11	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「55、5」
372	9B	山形	S35.12.5	6	54.3	43.0	2189	朝日	S37.11	水色		色あせ		各地版。紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で「13」
373	9B	山形	S36.3.31	8	55.9	43.1	2190	朝日	S37.12	他	灰色	色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「56」
374	9B	山形	S35.12.4	5	55.8	42.9	2191	朝日	S37.12	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA」
375	9B	山形	S39.6.20	3	55.4	42.0	2192	朝日	S39.11	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA」。鉛筆で「5」
376	9B	山形	S39.6.20	4	55.2	41.6	2193	朝日	S39.11	黄色		水色		庄内版。緑色インクで「YOSHIDA」。鉛筆で「1」か
377	9B	山形	S35.12.3	2	55.4	42.9	2194	朝日	S35.03	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 901」
378	9B	山形	S35.12.7	1	55.9	42.8	2195	朝日	S35.03	黄色		色あせ		夕刊。紫色インクで「YOSHIDA 969」
379	9B	山形	S35.10.9	1	56.4	43.6	2196	朝日	S35.04	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 887」
380	9B	山形	S35.11.5	4	56.7	44.1	2197	朝日	S35.04	水色		色あせ		市内版。紫色インクで「YOSHIDA 901」
381	9B	山形	S35.10.17	1	55.4	46.0	2198	朝日	S35.05	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「55」
382	9B	山形	不明	4	55.4	45.9	2199	朝日	S36.05	水色		色あせ		庄内版。紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で何か記載あり
383	9B	山形	S35.10.15	5	57.1	45.0	2200	朝日	S35.06	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「5（不明）」
384	9B	山形	S35.10.13	4	56.9	44.8	2201	朝日	S35.06	水色		色あせ		内陸版。紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「55」。384と392は同一紙面
385	9B	山形	S35.10.14	4	57.2	44.1	2202	朝日	S33.06	水色		色あせ		庄内版。紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「55」
386	9B	山形	S35.10.14	2	57.0	44.1	2203	朝日	S33.06	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「55」
387	9B	山形	S35.10.13	5	55.7	42.8	2204	朝日	S33.07	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「55」。社会党浅沼委員長刺殺の記事
388	9B	山形	S36.3.31	2	56.0	43.0	2205	朝日	S33.07	水色		色あせ		
389	9B	山形	S35.10.15	3	55.8	43.0	2206	朝日	S33.08	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 887」。111と389は同一紙面
390	9B	山形	S35.12.4	2	55.9	42.8	2207	朝日	S33.08	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 901」
391	9B	山形	S36.4.1	4	56.3	42.6	2208	朝日	S33.09	水色		色あせ		庄内版。鉛筆で「55」
392	9B	山形	S35.10.13	4	55.7	43.0	2209	朝日	S33.09	水色		色あせ		内陸版。紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で何か記載あり
393	9B	山形	S36.3.25	6	55.8	43.1	2210	朝日	S33.10	水色		水色		紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「56」と何か記載あり
394	9B	山形	S35.10.13	6	55.7	42.9	2211	朝日	S33.10	黄色		水色		各地版。紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「55」。384と392は同一紙面
395	9B	山形	S35.10.13	2	55.8	43.0	2212	朝日	S33.11	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で何か記載あり
396	9B	山形	S35.10.13	2	55.8	42.8	2213	朝日	S33.11	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 887」。396と399は同一紙面
397	9B	山形	S36.3.29	1	55.9	43.1	2214	朝日	S33.12	黄色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA」
398	9B	山形	S36.3.30	1	55.9	43.0	2215	朝日	S33.12	黄色		水色		夕刊。「YOSHIDA 205」。鉛筆で「56」「55.5」
399	9B	山形	S35.10.13	2	57.4	44.6	2216	朝日	S34.01	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「55」。396と399は同一紙面

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
400	9B	山形	S35.10.8	4	57.3	44.7	2217	朝日	S34.01	水色		色あせ		内陸版。紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で何か記載あり
401	9B	山形	S35.10.29	5	56.6	44.6	2218	朝日	S34.02	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で何か記載あり
402	9B	山形	S35.10.9	8	56.8	44.6	2219	朝日	S34.02	水色		色あせ		各地版。紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「54」
403	9B	山形	S35.10.11	4	56.8	44.7	2220	朝日	S34.03	水色		色あせ		庄内版。紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で何か記載あり。126と403は同一紙面
404	9B	山形	S35.10.11	1	56.8	44.5	2221	朝日	S34.03	水色		色あせ		夕刊。紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「5（不明）」
405	9B	山形	S35.10.8	3	56.9	43.8	2222	朝日	S34.04	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 887」
406	9B	山形	S35.10.11	4	57.0	57.0	2223	朝日	S34.04	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「57」
407	9B	山形	S35.10.15	4	56.5	43.9	2224	朝日	S34.05	水色		色あせ		庄内版。紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で何か記載あり
408	9B	山形	S35.10.10	4	56.4	44.0	2225	朝日	S34.05	水色		色あせ		庄内版。紫色インクで「YOSHIDA 887」
409	9B	山形	S35.10.7	7	57.4	43.8	2226	朝日	S34.06	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で「54」
410	9B	山形	S36.4.1	1	57.3	43.7	2227	朝日	S34.06	水色		水色		夕刊。紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「56」
411	9B	山形	S35.10.16	6	56.6	44.5	2228	朝日	S34.07	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で何か記載あり
412	9B	山形	S35.10.16	不明	56.0	45.2	2229	朝日	S34.07	水色		色あせ		「YOSHIDA 887」
413	9B	山形	S35.10.17	3	56.8	44.1	2230	朝日	S34.08	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で何か記載あり
414	9B	山形	S35.10.15	1	56.9	44.4	2231	朝日	S34.08	水色		色あせ		夕刊。紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で何か記載あり
415	9B	山形	不明	不明	55.9	43.6	2232	朝日	S34.09	水色		色あせ		庄内版。紫色インクで「YOSHIDA 887」
416	9B	山形	S35.10.14	不明	55.4	43.5	2233	朝日	S34.09	水色		色あせ		庄内版。紫色インクで「YOSHIDA 887」
417	9B	山形	S35.10.17	4	55.5	44.6	2234	朝日	S34.10	水色		色あせ		内陸版。紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「55」
418	9B	山形	S35.10.13	4	55.5	44.6	2235	朝日	S34.10	水色		色あせ		市内版。紫色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「55」
419	9B	山形	S35.12.7	4	54.7	41.4	2236	朝日	S34.11	黄色		色あせ		内陸版
420	9B	山形	不明	不明	53.9	40.8	2237	朝日	S34.11	黄色		色あせ		市内版。
421	9B	山形	S36.3.28	2	55.9	43.1	2238	朝日	S34.12	黄色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「56」と何か記載あり
422	9B	山形	S36.3.28	3	56.1	43.0	2239	朝日	S34.12	黄色		色あせ		鉛筆で2か所記載あり。15と422は同一紙面
423	9B	山形	S36.3.28	2	56.1	43.1	2240	朝日	S35.02	黄色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA 205」
424	9B	山形	S36.3.30	4	56.0	42.9	2241	毎日	S35.02	黄色		水色	あせ	市内版。紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「56」
425	11A	山形	S36.3.28	3	55.9	43.1	2242	毎日	S33.08	黄色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「56.5」「（不明）5」
426	11A	山形	S35.11.30	8	55.8	42.9	2243	毎日	S33.08	黄色		色あせ		各地版。紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で「55」
427	11A	山形	S36.3.31	1	55.9	42.9	2244	毎日	S35.01	黄色		水色	あせ	夕刊。紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で2か所記載あり
428	11A	山形	S35.11.30	1	55.7	42.8	2245	毎日	S35.01	黄色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で「55」
429	11A	山形	S35.12.1	6	55.9	43.0	2246	毎日	S35.02	黄色		水色	あせ	各地版。紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で「55」か

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
430	11A	山形	S35.12.1	3	55.8	42.9	2247	毎日	S35.02	黄色		水色	あせ	紫色インクで「YOSHIDA 901」。鉛筆で「55」。319と430は同一紙面
431	11A	山形	S36.3.29	4	56.0	43.2	2248	毎日	S35.03	黄色		色あせ		鉛筆で「55」
432	11A	山形	S36.3.27	7	55.9	43.0	2249	毎日	S35.03	黄色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「56」
433	11A	山形	S39.6.19	3	54.9	41.9	2250	毎日	S40.02	黄色		水色	あせ	表面にペンで「6 MA・T 2」。裏面に緑色インクで「YOSHIDA」。鉛筆で「5」。ペンで何か記載あり
434	11A	山形	S39.6.20	3	55.0	41.8	2251	毎日	S40.02	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA」。鉛筆で「7」
435	11A	山形	S38.6.9	4	54.5	42.7	2252	毎日	S40.03	黄色	レモン	水色	あせ	
436	11A	山形	S38.6.5	4	54.8	42.5	2253	毎日	S40.03	黄色	レモン	水色		置賜版。赤ペンで「13」か
437	11A	山形	S39.6.19	6	55.0	41.7	2254	毎日	S40.04	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA」。青ペンで「17（不明）-26」
438	11A	山形	S39.6.18	2	54.9	41.5	2255	毎日	S40.04	黄色		水色		青ペンで「17-26」か
439	11A	山形	S39.6.19	1	54.7	41.9	2256	毎日	S40.05	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA」。青ペンで「7-22」
440	11A	不明	不明	4,5,12,13	54.8	41.8	2257	毎日	S40.05	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　393」。青ペンで「7-20」
441	11A	山形	S39.6.17	4	54.6	41.6	2258	毎日	S39.08	黄色		水色		置賜版。緑色インクで「YOSHIDA」。青ペンで「16-2」
442	11A	山形	不明	2	54.6	41.9	2259	毎日	S39.08	黄色	レモン	水色		赤ペンで2か所記載あり
443	11A	山形	S39.6.19	4	55.0	42.9	2260	毎日	S39.09	黄色		水色		庄内版。鉛筆で「4」
444	11A	山形	S39.6.20	9	54.9	42.0	2261	毎日	S39.09	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　393」。鉛筆で「60」
445	11A	山形	S41.5.22	5	54.9	43.0	2262	毎日	S39.10	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で何か記載あり
446	11A	山形	S41.5.22	7	54.7	43.0	2263	毎日	S39.10	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」「ツナグ」
447	11A	山形	S39.6.19	4	55.1	42.3	2264	毎日	S39.11	黄色		水色		鉛筆で「5」
448	11A	山形	S39.6.20	8	55.0	41.6	2265	毎日	S39.11	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　393」。鉛筆で「2」
449	11A	山形	S39.6.17	4	55.4	41.8	2266	毎日	S39.12	黄色		水色		市内版。青ペンで「16-26」
450	11A	山形	S39.6.18	7	55.6	41.5	2267	毎日	S39.12	黄色		水色		青ペンで「10-23」
451	11A	山形	S39.6.18	4	55.0	41.4	2268	毎日	S40.01	黄色		色あせ		市内版。緑色インクで「YOSHIDA」。ペンで「17-2（不明）」
452	11A	山形	S39.6.15	8	55.1	41.6	2269	毎日	S40.01	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA」。鉛筆で「3」
453	11A	山形	S41.5.24	1	54.6	43.2	2270	毎日	S41.06	黄色	黄土色	黄色		夕刊。スタンプで「04064」
454	11A	山形	S41.5.24	3	54.7	43.4	2271	毎日	S41.06	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。赤鉛筆で何か記載あり
455	11A	山形	S41.5.27	6	54.1	43.2	2272 2274	毎日	S41.07	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」。赤ペンで「マルデダメオ」「・ラ」
456	11A	山形	S41.5.27	4	54.8	43.0	2273	毎日	S41.07	黄色	黄土色	黄色		庄内版。スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
457	11A	山形	S41.5.27	8	54.6	43.0	2275	毎日	S41.08	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「87」
458	11A	山形	S41.5.27	1	54.7	43.1	2276	毎日	S41.08	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「88」
459	11A	山形	S41.5.23	4	54.9	43.0	2277	毎日	S41.09	黄色	黄土色	黄色		庄内版。スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
460	11A	山形	S41.5.23	4	54.9	43.0	2278	毎日	S41.09	黄色	黄土色	黄色		内陸版。スタンプで「04064」。鉛筆で「（不明）6」
461	11A	山形	S41.5.21	1	54.7	42.6	2279	毎日	S41.10	黄色	黄土色	黄色		夕刊。スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
462	11A	山形	S41.5.21	4	55.0	43.2	2280	毎日	S41.10	黄色	黄土色	黄色		内陸版。スタンプで「04064」。鉛筆で「88」。ピンクペンで「5」
463	11A	山形	S41.(不明)	3	54.5	43.1	2281	毎日	S41.11	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
464	11A	山形	S41.5.21	2	54.8	43.2	2282	毎日	S41.11	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」。ピンクペンで「8」

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
465	11A	山形	S41.5.22	6	54.8	42.6	2283	毎日	S41.12	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「86」「4」
466	11A	山形	S41.5.23	9	54.7	43.0	2284	毎日	S41.12	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」
467	11A	山形	不明	6	54.4	42.6	2285	毎日	S42.01	黄色	レモン	水色		緑色のインク。赤ペンで何か記載あり
468	11A	不明	不明	不明	54.4	42.6	2286	毎日	S42.01	黄色	レモン	水色		赤ペンで「6」
469	11A	不明	S38.6.10	不明	54.4	43.0	2287	毎日	S42.02	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA　887」。赤ペンで「6」。鉛筆で「ツブス」
470	11A	不明	S38.6.10	3	54.5	42.8	2288	毎日	S42.02	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA　887」
471	11A	山形	不明	不明	54.5	43.0	2289	毎日	S42.03	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA　887」
472	11A	山形	不明	不明	54.5	42.9	2290	毎日	S42.03	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA　887」。赤ペンで何か記載あり
473	11A	山形	S38.6.5	2	54.4	43.0	2291	毎日	S42.04	黄色	レモン	水色		赤ペンで「13」。鉛筆で何か記載あり
474	11A	山形	S38.6.8	不明	54.8	43.1	2292	毎日	S42.04	黄色	レモン	水色		赤ペンで「15」
475	11A	山形	S41.5.21	7	54.7	43.1	2293	毎日	S42.05	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「88」。ピンクペンで「3」
476	11A	山形	不明	1	54.6	42.7	2294	毎日	S42.05	黄色	レモン	水色		ボールペンで「12」
477	11A	山形	S41.5.25	3	54.9	43.0	2295	毎日	S42.06	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「10」
478	11A	山形	S41.5.22	4	54.9	43.0	2296	毎日	S42.06	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」と何か記載あり
479	11A	山形	S41.5.25	7	54.6	41.8	2297	毎日	S42.07	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「89」
480	11A	山形	S41.5.25	4	54.6	41.4	2298	毎日	S42.07	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
481	11A	山形	S41.5.24	2	54.7	41.6	2299	毎日	S42.08	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「88」
482	11A	山形	S41.5.24	4	54.7	41.8	2300	毎日	S42.08	黄色	黄土色	黄色		置賜版。スタンプで「04064」。鉛筆で「77」「90」
483	11A	山形	S43.7.15	4	55.3	41.6	2301	毎日	S42.09	水色	エメラルド	水色		市内版。緑色インクで「YOSHIDA 703」。ペンで「2（不明）」
484	11A	山形	S43.7.15	2	55.2	41.4	2302	毎日	S42.09	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA 703」
485	11A	山形	S43.7.14	10	54.7	41.3	2303	毎日	S42.10	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA 703」
486	11A	山形	S43.7.15	4	54.8	41.4	2304	毎日	S42.10	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA」。ピンクのペンで２ヶ所記載あり。表面に赤ペンで「上右（不明）」「下左（不明）」
487	11A	山形	S43.7.15	11	54.7	41.4	2305	毎日	S42.11	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA 703」。ピンクのペンで「ツナグ」
488	11A	山形	S43.7.15	7	55.0	41.1	2306	毎日	S42.11	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA」
489	11A	山形	S44.7.7	9	54.0	42.2	2307	毎日	S44.04	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA 115」。489と569は同一紙面
490	11A	不明	不明	不明	54.0	41.5	2308	毎日	S44.04	水色	エメラルド	水色		
491	11A	山形	S43.7.12	9	54.5	41.3	2309	毎日	S44.05	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA」
492	11A	山形	S43.7.12	4	54.8	41.6	2310	毎日	S44.05	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA 671」。赤ペンで何か記載あり
493	11B	山形嚶鳴	S43.7.17	2	54.8	41.5	2311 2313	毎日	S42.12	水色	エメラルド	他	茶	緑色インクで「YOSHIDA」。鉛筆で「西高」
494	11B	山形	S43.7.15	2	54.8	41.6	2312	毎日	S42.12	水色	エメラルド	水色		
495	11B	山形	不明	2	54.6	41.9	2314	毎日	S39.04	黄色	レモン	水色		赤ペンで何か記載あり
496	11B	山形	S38.6.6	不明	54.6	41.9	2315 2316	毎日	S39.04	黄色	レモン	黄色		緑色インクで「YOSHIDA」。赤ペンで「13」「本日の最高221ｇ　本日の最低204ｇ」
497	11B	山形	不明	不明	54.2	42.2	2317	毎日	S39.05	黄色	レモン	水色		内陸版。鉛筆で「16」
498	11B	山形	S38.6.11	3	54.3	41.1	2318	毎日	S39.05	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA　887」。鉛筆で「12」

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
499	11B	山形	S38.6.7	4	55.7	41.4	2319	毎日	S39.06	黄色	レモン	水色		置賜版。赤ペンで何か記載あり。黒ペンで「（不明）へコマス」か
500	11B	山形	S38.6.10	2	55.6	41.4	2320	毎日	S39.06	黄色	レモン	水色		
501	11B	山形	S39.6.17	3	55.5	41.8	2321	毎日	S39.07	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　393」。青ペンで「6-21」
502	11B	山形	S39.6.20	4	55.4	42.2	2322	毎日	S39.07	黄色		水色		内陸版。鉛筆で「4」。青ペンで「17-2（不明）」
503	11B	山形	S39.6.19	8	54.9	42.0	2323	毎日	S40.06	黄色		水色		
504	11B	山形	S39.6.20	4	54.3	41.6	2324	毎日	S40.06	黄色		水色		置賜版
505	11B	山形	S41.5.22	11	54.5	43.1	2325	毎日	S40.07	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「4」「6」。505と506は同一紙面。264はこれらから「バイク事故」がないだけの紙面
506	11B	山形	S41.5.22	11	54.6	43.2	2326	毎日	S40.07	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「6」。505と506は同一紙面。264はこれらから「バイク事故」がないだけの紙面
507	11B	山形	S39.6.16	1	54.7	42.0	2327	毎日	S40.08	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA」。鉛筆で「4」。507と508は同一紙面
508	11B	山形	S39.6.16	1	54.4	42.1	2328	毎日	S40.08	黄色		水色		507と508は同一紙面
509	11B	山形	不明	2	54.2	41.5	2329	毎日	S40.09	黄色		水色		鉛筆で何か記載あり
510	11B	山形	S39.6.15	1	54.4	41.6	2330	毎日	S40.09	黄色		水色		夕刊。緑色インクで「YOSHIDA」。鉛筆で「8」
511	11B	山形	S39.6.16	5	55.0	42.0	2331	毎日	S40.10	黄色		水色		鉛筆で何か記載あり
512	11B	山形	S39.6.16	3	54.9	41.8	2332	毎日	S40.10	黄色		水色		
513	11B	山形	S39.6.16	3	55.0	41.8	2333	毎日	S40.11	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　393」。青ペンで「4」
514	11B	山形	S39.6.17	10	54.7	41.8	2334	毎日	S40.11	黄色		黄色		青ペンで何か記載あり
515	11B	山形	S39.6.20	2	54.8	41.3	2335	毎日	S40.12	黄色		他	茶	鉛筆で「5」
516	11B	不明	不明	不明	54.3	40.1	2336	毎日	S40.12	黄色		黄色		鉛筆で「2」
517	13B	山形	S38.6.11	4	55.2	41.3	2337	日本読書	S39.01～05	黄色	レモン	水色		庄内版。鉛筆で「14！」。363と517は同一紙面
518	13B	山形	S38.6.11	4	55.0	41.6	2338	日本読書	S39.01～05	黄色	レモン	水色		鉛筆で「15」か
519	18B	山形	S38.6.5	4	54.8	43.1	2339	教育学術	S36.06～S37.05	黄色	レモン	水色		鉛筆で「注意してください」と何か記載あり
520	18B	山形	不明	1	54.6	42.8	2340	教育学術	S36.06～S37.05	黄色	レモン	水色		鉛筆で「1（不明）」
521	18B	山形	S38.6.5	3	54.7	42.8	2341	教育学術	S37.05～S38.06	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA　887」
522	18B	山形	不明	不明	54.6	42.7	2342	教育学術	S37.05～S38.06	黄色	レモン	水色		庄内版。赤ペンで「15」
523	19A	不明	不明	不明	54.7	41.7	2343	朝日	S44.05	黄色	レモン	黄色		スタンプで「06063」
524	19A	山形	S44.7.6	3	55.0	42.3	2344	朝日	S44.05	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA　115」
525	19A	山形	S43.7.15	6	55.0	41.2	2345	朝日	S44.06	水色	エメラルド	水色	あせ	緑色インクで「YOSHIDA　（不明）03」
526	19A	不明	不明	不明	54.6	42.1	2346	朝日	S44.06	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA　115」
527	19A	山形	S44.7.7	5	54.0	41.7	2347	朝日	S44.07	水色	エメラルド	色あせ		青ペンで「注意」。527と702は同一紙面
528	19A	不明	不明	不明	54.3	41.7	2348	朝日	S44.07	水色	エメラルド	水色	あせ	緑色インクで「YOSHIDA　115」
529	19A	不明	不明	不明	54.5	42.6	2349	朝日	S42.03	黄色	レモン	水色		赤ペンで「16」「2」「ツブス」
530	19A	山形	不明	1	54.5	42.6	2350	朝日	S42.03	黄色	レモン	水色		赤ペンで「14」
531	19A	山形	不明	不明	54.5	43.2	2351	朝日	S42.04	黄色	レモン	水色		置賜版。赤ペンで「8」
532	19A	山形	不明	1	54.1	42.9	2352	朝日	S42.04	水色		色あせ		夕刊。紫色インクで「YOSHIDA 901」
533	19A	山形	S38.6.8	4	54.1	42.7	2353	朝日	S42.05	黄色	レモン	水色		内陸版。ボールペンで「6」
534	19A	山形	不明	不明	54.4	42.9	2354	朝日	S42.05	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA　887」
535	19A	山形	S41.5.23	3	54.6	42.9	2355	朝日	S42.06	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「89」

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
536	19A	山形	S41.5.23	不明	54.4	42.9	2356	朝日	S42.06	黄色	黄土色	黄色		置賜版。スタンプで「04064」。鉛筆で「87」
537	19A	山形	S41.5.25	1	54.9	41.3	2357	朝日	S42.07	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」
538	19A	山形	S41.5.25	6	54.7	41.2	2358	朝日	S42.07	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」
539	19A	山形	S43.7.15	9	54.8	41.1	2359	朝日	S42.08	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA　703」
540	19A	山形	S43.7.15	3	55.4	41.0	2360	朝日	S42.08	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA」
541	19A	不明	不明	不明	54.5	41.9	2361	朝日	S42.09	黄色	レモン	水色		赤ペンで何か記載あり
542	19A	山形	S41.5.23	2	54.7	41.8	2362	朝日	S42.09	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」
543	19A	山形	S43.7.12	4	55.4	41.1	2363	朝日	S42.10	黄色		水色		市内版。緑色インクで「YOSHIDA　671」
544	19A	山形	S43.7.13	7	55.6	41.3	2364	朝日	S42.10	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA」
545	19A	山形	S41.5.23	10	54.7	43.0	2365	朝日	S41.09	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」
546	19A	山形	S41.5.23	6	54.8	42.8	2366	朝日	S41.09	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「89」
547	19A	山形	S41.5.25	1	54.7	42.9	2367	朝日	S41.10	黄色	黄土色	黄色		夕刊。スタンプで「04064」
548	19A	山形	S41.5.25	4	54.6	42.9	2368	朝日	S41.10	黄色	黄土色	黄色		置賜版。スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
549	19A	山形	S41.5.21	4	54.7	43.0	2369	朝日	S41.11	黄色	黄土色	黄色		市内版。スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
550	19A	山形	S41.5.21	4	55.2	43.0	2370	朝日	S41.11	黄色	黄土色	黄色		置賜版。スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
551	19A	山形	S41.5.22	2	54.6	43.1	2371	朝日	S41.12	黄色	黄土色	黄色		鉛筆で「210」と何か記載あり
552	19A	山形	S41.5.22	3	55.0	42.9	2372	朝日	S41.12	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「8」
553	19A	山形	不明	1	54.8	42.8	2373	朝日	S42.01	黄色	レモン	水色		赤ペンで「13」
554	19A	山形	S38.6.9	不明	54.8	42.7	2374	朝日	S42.01	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA　887」。ボールペンで「8」
555	19A	山形	不明	1	54.4	42.7	2375	朝日	S42.02	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA　887」。赤ペンで何か記載あり
556	19A	山形	不明	不明	54.4	43.1	2376	朝日	S42.02	黄色	レモン	水色		鉛筆で「14」
557	19B	山形	S43.7.16	4	54.4	41.3	2377	朝日	S43.07	水色	エメラルド	水色		表面にピンクペンの鏡文字「注　バラ凸あり」（注は○で囲んである）。裏面に緑色インクで「YOSHIDA」。黒ペンで「25」
558	19B	山形	S43.7.16	4	54.6	41.5	2378	朝日	S43.07	水色	エメラルド	水色		庄内版。緑色インクで「YOSHIDA　703」。黒ペンで「30」
559	19B	山形	S43.7.13	4	54.4	41.2	2379	朝日	S43.08	水色	エメラルド	水色		市内版。緑色インクで「YOSHIDA　703」
560	19B	不明	不明	不明	54.1	41.4	2380	朝日	S43.08	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA　703」。ピンクで「つなぐ」。黒ペンで何か記載あり
561	19B	山形新聞・山形放送社報	S43.7.16	3～4	54.1	41.2	2381	朝日	S43.11	水色	エメラルド	水色		
562	19B	不明	不明	不明	54.4	41.5	2382	朝日	S43.11	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA」。ピンクで「トル」
563	19B	山形	不明	2	54.7	41.5	2383	朝日	S43.12	水色	エメラルド	色あせ		緑色インクで「YOSHIDA　703」
564	19B	山形	S43.7.16	6	54.4	41.4	2384	朝日	S43.12	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA　703」。黒ペンで何か記載あり
565	19B	山形	S41.5.24	8	54.7	41.5	2385	朝日	S43.09	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「ツブス」「87」
566	19B	山形	S41.5.24	3	54.9	42.0	2386	朝日	S43.09	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「11」か
567	19B	山形	S41.5.24	4	54.3	42.9	2387	朝日	S43.10	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」
568	19B	山形	S41.5.24	9	54.6	42.1	2388	朝日	S43.10	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「86」
569	19B	山形	S44.7.7	9	53.9	40.9	2389	朝日	S44.03	水色	エメラルド	水色		489と569は同一紙面
570	19B	山形	S44.7.7	3	54.0	40.6	2390	朝日	S44.03	黄色	レモン	黄色		スタンプで「0606 3」
571	19B	山形	S44.7.6	7	55.4	42.0	2391	朝日	S44.04	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA　115」

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
572	19B	山形	S44.7.6	4	55.5	42.1	2392	朝日	S44.04	水色	エメラルド	水色	あせ	緑色インクで「YOSHIDA　115」
573	19B	山形	S44.7.7	4	55.2	41.4	2393	朝日	S44.01	黄色	レモン	黄色		内陸版。スタンプで「0606 3」
574	19B	山形	S44.6.30	4	55.3	43.1	2394	朝日	S44.01	黄色	レモン	黄色		内陸版。スタンプで「0606 3」
575	19B	山形	S43.7.16	3	55.7	41.3	2395	朝日	S44.02	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA　703」。黒ペンで「28」
576	19B	山形	S43.7.16	5	55.7	41.1	2396	朝日	S44.02	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA　703」。黒ペンで「24」。576と699は同一紙面
577	19B	山形	S43.7.13	1	55.6	41.5	2397	朝日	S42.11	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　671」。162と577は同一紙面
578	19B	山形	S43.7.13	9	55.5	41.6	2398	朝日	S42.11	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　671」。ピンクで「つなぐ」
579	19B	山形	S43.7.14	13	54.8	41.1	2399	朝日	S42.12	水色	エメラルド	水色	あせ	緑色インクで「YOSHIDA　703」
580	19B	山形	S43.7.14	7	55.0	41.3	2400	朝日	S42.12	水色	エメラルド	色あせ		緑色インクで「YOSHIDA　703」
581	19B	山形	S43.7.13	3	55.6	41.4	2401	朝日	S43.01	黄色		黄色		緑色インクで「YOSHIDA　671」
582	19B	山形	S43.7.13	8	55.5	41.3	2402	朝日	S43.01	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　671」
583	19B	山形	S43.7.15	5	55.0	41.0	2403	朝日	S43.02	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA　703」
584	19B	山形	S41.5.26	7	54.7	43.0	2404	朝日	S43.02	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「9」「88」
585	19B	不明	不明	不明	55.6	41.4	2405	朝日	S43.03	水色	エメラルド	水色	あせ	緑色インクで「YOSHIDA　703」。1記事のみ
586	19B	山形	S43.7.14	4	55.7	41.2	2406	朝日	S43.03	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA　703」。赤で「ブス」
587	19B	山形	S43.7.13	2	55.5	41.3	2407	朝日	S43.04	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　671」
588	19B	山形	S43.7.13	3	55.6	41.6	2408	朝日	S43.04	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA」
589	19B	山形	S39.6.16	4	54.1	42.0	2409	朝日	S40.11	黄色		水色		置賜版。青ペンで「4」
590	19B	山形	S39.6.16	2	55.3	41.6	2410	朝日	S40.11	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　393」。青ペンで「3」
591	19B	山形	S39.6.17	3	55.0	42.2	2411	朝日	S40.12	黄色		色あせ		緑色インクで「YOSHIDA　393」。青ペンで「0」か
592	19B	山形	S38.6.11	5	54.6	42.0	2412	朝日	S40.12	黄色	レモン	色あせ		鉛筆で「12」か
593	19B	山形	S43.7.14	15	55.5	41.3	2413	朝日	S43.05	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA　703」
594	19B	山形	S43.7.14	2	55.7	41.5	2414	朝日	S43.05	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA」。ピンクで「ツナグ」
595	19B	山形	S41.5.25	5	54.7	41.7	2415	朝日	S43.06	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
596	19B	山形	S41.5.26	8	54.6	41.6	2416	朝日	S43.06	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」
597	19B	山形	S39.6.19	4	54.3	40.8	2417	朝日	S41.03	黄色		水色		市内版。緑色インクで「YOSHIDA　393」。鉛筆で何か記載あり
598	19B	不明	不明	不明	54.2	40.5	2418	朝日	S41.03	黄色		水色		鉛筆で「6」「本版」か
599	19B	山形	S39.6.16	4	55.0	42.0	2419	朝日	S41.04	黄色		水色		市内版。青ペンで何か記載あり
600	19B	山形	S39.6.17	2	54.6	42.1	2420	朝日	S41.04	黄色		水色	あせ	青ペンで「3」
601	19B	山形	不明	不明	54.6	41.1	2421	朝日	S41.01	黄色		色あせ		鉛筆で「5」
602	19B	山形	S39.6.17	4	54.6	41.5	2422	朝日	S41.01	黄色		水色		
603	19B	不明	不明	不明	54.3	41.2	2423	朝日	S41.02	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　393」。鉛筆で「11」
604	19B	山形	S39.6.20	6	54.2	40.9	2424	朝日	S41.02	黄色		色あせ		鉛筆で「8」
605	19B	山形	S41.5.26	4	54.8	42.7	2425	朝日	S41.07	黄色	黄土色	黄色		市内版。スタンプで「04223」
606	19B	山形	S41.5.27	5	54.8	43.0	2426	朝日	S41.07	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04223」
607	19B	山形	S41.5.27	4	54.8	42.9	2427	朝日	S41.08	黄色	黄土色	黄色		置賜版。スタンプで「04223」。鉛筆で「84」か
608	19B	山形	S41.5.27	9	54.7	43.2	2428	朝日	S41.08	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」。148と608は「新潟地震」の有無以外は同一紙面
609	19B	山形	S41.5.26	2	54.7	43.1	2429	朝日	S41.05	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「87」と「8」

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色(詳細)	裏の色	裏の色(詳細)	備考（裏面の書き込みなど）
610	19B	山形	S41.5.26	12	54.8	43.0	2430	朝日	S41.05	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
611	19B	山形	S41.5.24	4	54.7	42.9	2431	朝日	S41.06	黄色	黄土色	黄色		市内版。スタンプで「04064」。鉛筆で「86」
612	19B	山形	S41.5.25	10	54.4	42.9	2432	朝日	S41.06	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
613	20B	山形	S41.5.21	4	54.9	43.0	2433	朝日	S40.07	黄色	黄土色	黄色		庄内版。スタンプで「04064」。ピンクで「6」
614	20B	山形	S41.5.21	9	54.8	43.3	2434	朝日	S40.07	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「88」
615	20B	山形	S39.6.16	6	54.8	41.9	2435	朝日	S40.08	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA」。鉛筆で「5」
616	20B	山形	S39.6.16	4	54.8	42.0	2436	朝日	S40.08	黄色		水色		
617	20B	山形	S39.6.15	3	54.6	41.5	2437	朝日	S40.09	黄色		水色		鉛筆で「8」
618	20B	山形	S39.6.15	4	55.0	41.8	2438	朝日	S40.09	黄色		水色		置賜版。鉛筆で「8」
619	20B	不明	不明	不明	54.4	42.9	2439	朝日	S40.10	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA　393」
620	20B	山形	S39.6.15	不明	54.6	41.4	2440	朝日	S40.10	黄色		水色		市内版。鉛筆で「6」
621	20B	山形	S41.5.21	1	54.9	43.0	2441	朝日	S39.10	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。ピンクで「5」。鉛筆で何か記載あり
622	20B	山形	S41.5.21	8	55.0	43.1	2442	朝日	S39.10	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
623	20B	山形	S35.12.6	4	54.5	42.7	2443	朝日	S38.01	水色		色あせ		庄内版。紫色インクで「YOSHIDA 901」
624	20B	山形	S36.3.13	3	54.4	42.8	2444	朝日	S38.01	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で何か記載あり
625	20B	不明	不明	不明	54.5	41.9	2445	朝日	S39.12	黄色		色あせ		鉛筆で「2」
626	20B	山形	S38.6.11	1	54.4	41.8	2446	朝日	S39.12	黄色	レモン	水色		夕刊。鉛筆で「14」
627	20B	山形	S38.6.1	8	55.2	43.1	2447	朝日	S38.02	黄色	レモン	水色		
628	20B	山形大学	S38.5.25	1	55.2	42.8	2448	朝日	S38.02	黄色	レモン	色あせ		ボールペンで「18」
629	20B	山形	S38.6.4	6	55.2	43.0	2449	朝日	S38.03	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で何か記載あり
630	20B	山形	S38.6.4	5	55.1	42.9	2450	朝日	S38.03	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「17」かと「10」か
631	20B	山形	S38.6.3	4	54.8	43.1	2451	朝日	S38.04	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA 887」
632	20B	山形	S38.6.3	10	54.9	42.8	2452	朝日	S38.04	黄色	レモン	水色		鉛筆で「7」
633	20B	山形	S38.6.4	3	54.7	42.5	2453	朝日	S38.05	黄色	レモン	水色		鉛筆で何か記載あり
634	20B	山形	S38.6.4	2	54.4	42.8	2454	朝日	S38.05	黄色	レモン	水色		鉛筆で「5」
635	20B	山形	S36.3.31	1	55.1	42.1	2455	朝日	S38.06	水色		色あせ		紫色インクで「YOSHIDA 205」。鉛筆で「17」
636	20B	山形	S38.6.1	3	54.5	42.6	2456	朝日	S38.06	黄色	レモン	水色		ボールペンで「5.-」
637	20B	山形	S38.6.2	7	54.6	42.9	2457	朝日	S38.07	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA」。ボールペンで「5.-」
638	20B	山形	S38.6.1	4	54.8	42.7	2458	朝日	S38.07	黄色	レモン	水色		置賜版。緑色インクで「YOSHIDA 887」。ボールペンで「5.-」
639	20B	山形	S38.6.6	3	55.0	40.9	2459	朝日	S38.08	黄色	レモン	水色		赤ペンで「斉藤」（藤はくずし字）
640	20B	山形	S38.6.6	4	54.8	41.1	2460 2461	朝日	S38.08	黄色	レモン	水色		内陸版。赤ペンで「斉藤」（上の674と同じもの）
641	20B	山形	S38.6.10	4	54.2	41.8	2462	朝日	S38.09	黄色	レモン	水色		赤ペンで記載あり
642	20B	山形	S38.6.9	5	54.2	41.6	2463 2464	朝日	S38.09	黄色	レモン	水色		黒の筆で「米沢　専（〇で囲んである）気付 支局行」。赤ペンで「11」か
643	20B	山形	S38.6.10	4	55.4	41.0	2465	朝日	S38.10	黄色	レモン	水色		広告面。鉛筆で「16」
644	20B	山形	S38.6.10	4	55.3	41.6	2466	朝日	S38.10	黄色	レモン	水色		677と別の広告面。鉛筆で「15」

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色(詳細)	裏の色	裏の色(詳細)	備考（裏面の書き込みなど）
645	20B	山形	S38.6.11	6	54.2	41.6	2467	朝日	S38.11	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「15」。61と645は同一紙面
646	20B	不明	不明	不明	54.4	40.8	2468	朝日	S38.11	黄色	レモン	水色		赤ペンで何か記載あり
647	20A	山形	S39.6.20	1	55.4	41.8	2469	朝日	S39.09	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA」。鉛筆で「6」
648	20A	山形	S39.6.20	5	55.6	41.7	2470	朝日	S39.09	黄色		水色		鉛筆で「4」
649	20A	山形	S41.5.22	8	54.5	43.1	2471	朝日	S39.08	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「210」「88」
650	20A	山形	S41.5.22	9	54.9	43.0	2472	朝日	S39.08	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」と何か記載あり
651	20A	山形	S41.5.22	1	54.9	43.2	2473	朝日	S39.07	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「86」
652	20A	山形	S41.5.22	10	54.8	42.9	2474	朝日	S39.07	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「80」と「1（不明）」
653	20A	山形	S38.6.9	3	54.8	41.4	2475	朝日	S39.06	黄色	レモン	水色		ボールペンで「10」
654	20A	山形	S38.6.8	3	55.0	41.4	2476	朝日	S39.06	黄色	レモン	水色		赤ペンで何か記載あり
655	20A	山形	S38.6.7	6	54.7	41.2	2477	朝日	S39.05	黄色	レモン	水色		赤ペンで「15」と何か記載あり
656	20A	山形	S38.6.10	4	54.6	41.0	2478	朝日	S39.05	黄色	レモン	水色		内陸版。鉛筆で「13」
657	20A	山形	S38.6.8	5	55.0	41.2	2479	朝日	S39.04	黄色	レモン	水色		
658	20A	山形	S38.6.11	2	54.8	41.0	2480	朝日	S39.04	黄色	レモン	水色		緑色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「13」。658と664は同一紙面
659	20A	山形	S38.6.8	4	55.0	41.9	2481	朝日	S39.03	黄色	レモン	水色		庄内版
660	20A	山形	S38.6.10	3	55.2	41.8	2482	朝日	S39.03	黄色	レモン	水色		鉛筆で「15」
661	20A	山形	S38.6.11	7	54.7	41.2	2483	朝日	S39.02	黄色	レモン	水色		鉛筆で「15」
662	20A	山形	S38.6.7	3	54.8	41.5	2484	朝日	S39.02	黄色	レモン	水色		赤ペンで「14」
663	20A	不明	不明	不明	54.2	41.7	2485	朝日	S39.01	黄色	レモン	色あせ		緑色インクで「YOSHIDA 887」。鉛筆で「（不明2文字）用」
664	20A	山形	S38.6.11	2	55.8	42.0	2486	朝日	S39.01	黄色	レモン	水色		鉛筆で「13」と何か記載あり。658と664は同一紙面
665	20A	山形	S38.6.5	4	54.9	41.1	2487	朝日	S38.12	黄色	レモン	色あせ		市内版
666	20A	山形	S38.6.6	6	55.5	41.4	2488	朝日	S38.12	黄色	レモン	色あせ		赤鉛筆で「この～」
667	20A	山形	S39.6.17	2	55.3	41.6	2489	朝日	S40.06	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA」。青ペンで「16-2」か
668	20A	不明	不明	不明	54.9	41.5	2490	朝日	S40.06	黄色		水色		青ペンで何か記載あり
669	20A	山形	S39.6.17	1	55.1	41.4	2491	朝日	S40.05	黄色		水色		夕刊。青ペンで「26-（不明）」。新潟地震の記事
670	20A	山形	S39.6.17	7	54.6	41.3	2492	朝日	S40.05	黄色		水色		青ペンで「7」
671	20A	山形	S39.6.17	6	54.6	41.7	2493	朝日	S40.04	黄色		水色		35と671は同一紙面
672	20A	山形	S39.6.17	4	55.2	41.9	2494	朝日	S40.04	黄色		水色		
673	20A	山形	S39.6.18	6	55.1	41.6	2495	朝日	S40.03	黄色		水色		青ペンで「（不明2文字）-27」
674	20A	山形	S39.6.18	4	55.4	41.8	2496	朝日	S40.03	黄色		水色		内陸版。青ペンで「17-2」か
675	20A	山形	S39.6.15	6	55.5	43.0	2497	朝日	S40.02	黄色		水色		鉛筆で「8」
676	20A	山形	S39.6.18	4	55.1	42.0	2498	朝日	S40.02	黄色		水色		庄内版。青ペンで「17-25」
677	20A	山形	S39.6.18	1	55.3	41.4	2499	朝日	S40.01	黄色		色あせ		緑色インクで「YOSHIDA 393」。青ペンで「17-21」
678	20A	山形嚶鳴	S39.6.18	2	55.3	41.5	2500	朝日	S40.01	黄色		水色		青ペンで「0-2（不明）」
679	21A	山形	S41.5.26	4	54.8	41.7	2501	毎日	S43.02	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
680	21A	山形	S43.7.14	5	55.7	41.3	2502	毎日	S43.02	水色	エメラルド	色あせ		緑色インクで「YOSHIDA 703」
681	21A	不明	不明	不明	55.1	41.3	2503	毎日	S43.07	水色	エメラルド	色あせ		
682	21A	山形	S44.7.6	11	55.1	41.7	2504	毎日	S43.07	水色	エメラルド	色あせ		緑色インクで「YOSHIDA 115」

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
683	21A	山形	S41.5.26	3	54.4	41.1	2505	毎日	S43.04	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」
684	21A	山形	S41.5.26	11	54.5	41.3	2506	毎日	S43.04	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」
685	21A	山形	不明	不明	54.3	41.3	2507	毎日	S43.09	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA 671」
686	21A	山形	S43.7.13	10	54.3	41.3	2508	毎日	S43.09	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA 671」
687	21A	山形	S43.7.15	1	54.6	41.5	2509	毎日	S43.06	水色	エメラルド	色あせ		夕刊。緑色インクで「YOSHIDA 703」
688	21A	山形	S43.7.15	3	55.0	41.4	2510	毎日	S43.06	水色	エメラルド	色あせ		緑色インクで「YOSHIDA」
689	21A	山形	S43.7.16	不明	54.3	41.2	2511	毎日	S43.11	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA 703」。黒ペンで「27」
690	21A	山形	S43.7.16	3	54.3	41.3	2512	毎日	S43.11	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA」。黒ペンで「31」
691	21A	山形	S43.7.16	4	54.4	41.5	2513	毎日	S43.08	水色	エメラルド	水色		置賜版。緑色インクで「YOSHIDA 703」。黒ペンで「30」
692	21A	山形	S41.5.24	2	54.3	41.4	2514	毎日	S43.08	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「88」
693	21A	山形	S41.5.24	6	54.4	40.3	2515	毎日	S44.01	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「89」
694	21A	不明	不明	不明	54.5	40.4	2516	毎日	S44.01	水色	エメラルド	水色	あせ	黒ペンで何か記載あり
695	21A	山形	S43.7.13	4	55.6	41.4	2517	毎日	S43.10	黄色		水色		置賜版。緑色インクで「YOSHIDA 671」
696	21A	山形	S43.7.13	4	54.4	41.3	2518	毎日	S43.10	黄色		水色		内陸版
697	21A	山形	S44.7.1	4	54.1	41.4	2519	毎日	S44.03	水色	エメラルド	水色	あせ	置賜版
698	21A	不明	不明	不明	54.4	41.2	2520	毎日	S44.03	黄色	レモン	黄色		スタンプで「06063」
699	21A	山形	S43.7.16	5	54.3	41.1	2521	毎日	S43.12	水色	エメラルド	水色	あせ	緑色インクで「YOSHIDA 703」。黒ペンで「2」。赤鉛筆で「ツナグ」。576と699は同一紙面
700	21A	山形	不明	不明	54.6	41.4	2522	毎日	S43.12	水色	エメラルド	水色		黒ペンで「（不明）4」
701	21A	不明	不明	不明	54.3	41.1	2523	毎日	S44.02	水色	エメラルド	水色		
702	21A	山形	S44.7.7	5	54.1	40.8	2524	毎日	S44.02	水色	エメラルド	水色	あせ	緑色インクで「YOSHIDA 115」。527と702は同一紙面
703	21B	山形	S44.7.6	4	54.3	41.0	2525	毎日	S44.06	水色	エメラルド	水色	あせ	緑色インクで「YOSHIDA 115」。青鉛筆で「6」
704	21B	不明	不明	不明	54.2	41.6	2526	毎日	S44.06	黄色	レモン	黄色		スタンプで「06063」
705	21B	山形	S44.7.6	5	54.9	41.4	2527	毎日	S44.07	水色	エメラルド	色あせ		
706	21B	山形	S44.6.30	4	54.8	41.9	2528	毎日	S44.07	水色	エメラルド	色あせ		
707	21B	山形	S39.6.18	4	54.9	41.6	2529	毎日	S41.03	黄色		水色		置賜版。青ペンで「（不明）-25」
708	21B	不明	不明	不明	54.1	40.4	2530	毎日	S41.03	黄色		水色		鉛筆で「5」
709	21B	山形	S39.6.19	9	54.7	41.7	2531	毎日	S41.01	黄色		色あせ		緑色インクで「YOSHIDA」。青ペンで「17-24」
710	21B	山形	S39.6.19	4	54.6	41.7	2532	毎日	S41.01	黄色		水色		青ペンで「17-27」
711	21B	山形	S41.5.27	7	54.8	43.0	2533	毎日	S41.05	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
712	21B	山形	S41.5.26	1	54.8	42.9	2534	毎日	S41.05	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「89」
713	21B	山形	S39.6.19	3	53.8	40.6	2535	毎日	S41.02	黄色		水色		青ペンで何か記載あり
714	21B	不明	不明	不明	54.4	41.7	2536	毎日	S41.02	黄色		水色		緑色インクで「YOSHIDA 393」。青ペンで「17-26」
715	21B	山形	S41.5.25	2	54.7	42.9	2537	毎日	S41.04	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「90」
716	21B	山形	S41.5.25	3	54.9	43.0	2538	毎日	S41.04	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「04064」。鉛筆で「88」
717	21B	山形	S43.7.15	4	54.9	41.2	2539	毎日	S43.03	水色	エメラルド	水色		中央版。緑色インクで「YOSHIDA」。黒ペンで何か記載あり
718	21B	山形	S43.7.15	4	55.1	41.3	2540	毎日	S43.03	水色	エメラルド	水色		庄内版。緑色インクで「YOSHIDA 703」
719	21B	山形	S43.7.14	12	55.0	41.6	2541	毎日	S43.01	水色	エメラルド	色あせ		緑色インクで「YOSHIDA 703」
720	21B	山形	S43.7.14	14	55.3	41.1	2542	毎日	S43.01	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA」
721	21B	山形嚶鳴	S43.7.17	1	55.5	41.5	2543	毎日	S43.05	黄色	黄土色	黄色		スタンプで「02223」
722	21B	山形	S43.7.13	4	55.7	41.3	2544	毎日	S43.05	水色	エメラルド	水色		中央版。緑色インクで「YOSHIDA 703」

目録番号	配架	新聞名	年月日	ページ	縦(cm)	横(cm)	写真番号	綴じてある新聞名	綴じてある新聞の年月	表の色	表の色（詳細）	裏の色	裏の色（詳細）	備考（裏面の書き込みなど）
723	22B	不明	不明	不明	54.0	40.5	2545	読売	S47.09	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA 115」
724	22B	不明	不明	不明	54.1	40.6	2546	読売	S47.09	水色	エメラルド	水色		
725	22B	山形	S44.7.8	4	54.3	40.6	2547	読売	S47.08	黄色	レモン	黄色		庄内版。スタンプで「06063」
726	25A	山形	S44.7.3	不明	54.2	40.7	2548	読売	S48.05	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA 115」
727	25A	山形	S44.7.8	5	53.8	40.9	2549	読売	S48.02	黄色	レモン	黄色		スタンプで「06063」
728	25A	不明	不明	不明	54.2	40.2	2550	読売	S48.02	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA 147」
729	25B	山形	S44.7.3	4	54.0	40.7	2551	読売	S48.12	水色	エメラルド	水色	あせ	内陸版
730	25B	不明	不明	不明	54.4	40.6	2552	読売	S49.02	水色	エメラルド	水色		緑色インクで「YOSHIDA 147」
731	25B	不明	不明	不明	54.2	40.7	2553	読売	S49.02	黄色	レモン	黄色		スタンプで「06063」